

モジュール登録ツール
WRS－NCF T
V 1 3 . 0 1
取扱説明書

必ず「本製品をお使いの前に」をお読みください

2022年07月20日

watanabe

渡辺電機工業株式会社

モジュール登録ツールをお使いの前に

ご注意

本プログラムはAdministratorでログオンしてインストールしてください。

お使いになる場合、下記手順が必要です。

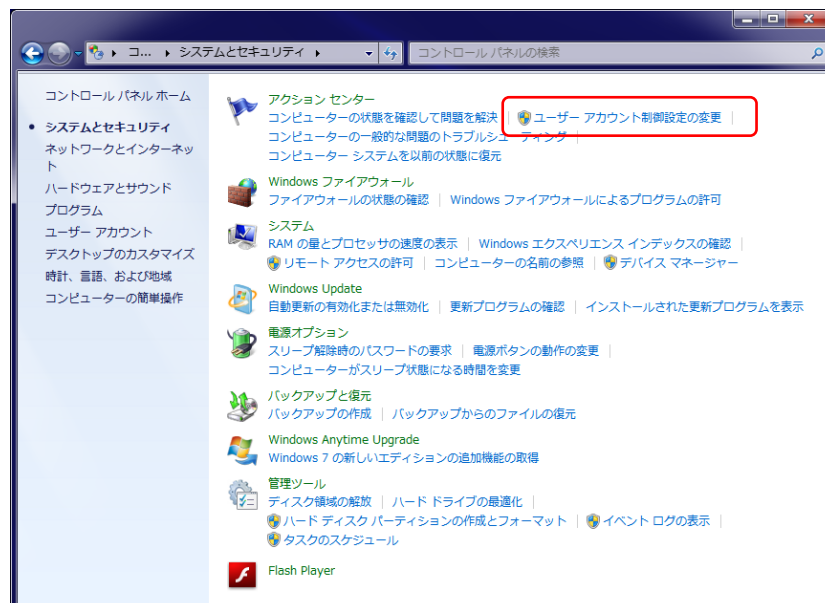
- ① ユーザーアカウント制御（UAC）を無効にしてからインストールしてください。
- ② LAN通信を行うのでファイアウォールの設定を無効にするか、例外許可の設定を行ってください。

インストール前に「ユーザーアカウント制御（UAC）」の設定を行います。

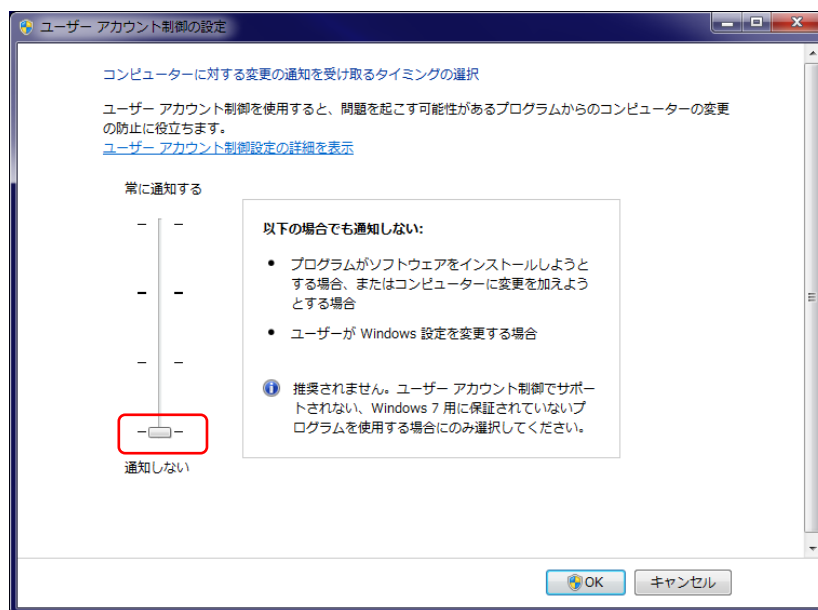
「コントロールパネル」を開き「システムとセキュリティ」をクリックします。



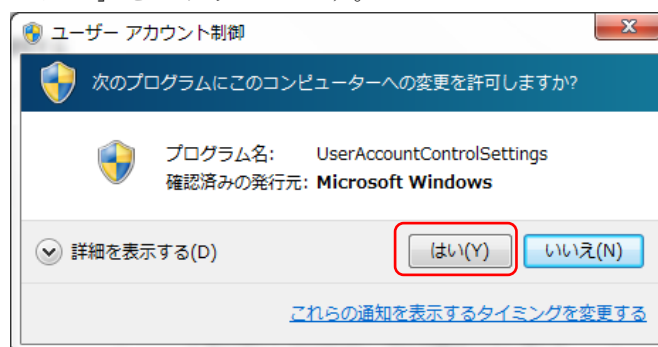
「ユーザーアカウント制御設定の変更」をクリックします。



「コンピューターに対する変更の通知を受け取るタイミングの選択」を通知しないにスライドして「OK」をクリックします。



「はい」をクリックします。



この取扱説明書について

この取扱説明書は、本プログラムのインストール時にコンピュータ内に自動的に保存されます。

インストール完了後は、『スタート』メニューからこの取扱説明書を参照することができます。

【1】『スタート』をクリックしアプリの一覧を表示します。

【2】『リアルリンクツール取扱説明書』を選択します。

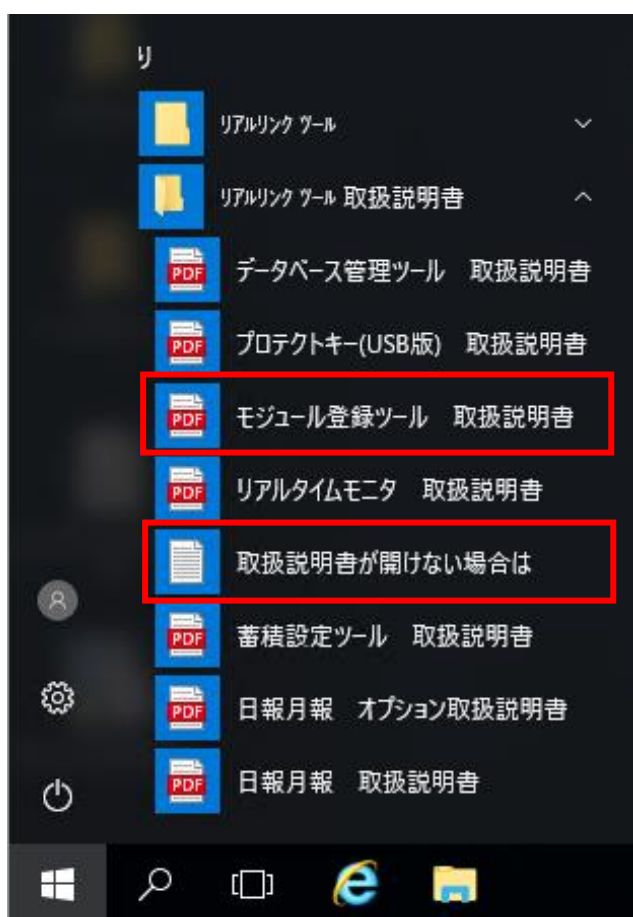
【3】『（本プログラム） 取扱説明書』をクリックすると、この取扱説明書を表示します。

※取扱説明書はPDF形式で作成されています。

ご覧いただくためには、アドビ システムズ社の Acrobat Reader (5.0 以降推奨)

または Adobe Reader、Microsoft Edge 等の PDF を表示できるソフトが必要です。

※取扱説明書が表示されない場合は、「取扱説明書が開けない場合は」をお読みください。



取扱説明書を表示します

取扱説明書が表示されない場合は
こちらをお読みください

目 次

第1章 製品が届きましたら -----	7
1-1. 製品の確認 -----	7
1-2. 対応製品 -----	8
第2章 動作条件 -----	11
2-1. 動作環境 -----	11
2-2. 接続形態 -----	13
2-3. 動作条件 -----	15
2-3-1. インターフェースモジュールについて -----	15
2-3-2. モジュール登録数について -----	15
2-3-3. モジュールのサブネットNo/モジュールNoについて -----	16
2-3-4. ネットワークNoについて -----	20
2-3-5. モジュール登録方法について -----	21
2-3-6. LonMakerで登録したモジュールについて -----	22
2-3-7. モジュール登録情報のバックアップについて -----	22
2-3-8. 蓄積モジュールについて -----	23
2-3-9. ジョイントモジュールについて -----	23
第3章 操作手順 -----	24
3-1. 操作手順 -----	24
3-2. プルダウンメニュー -----	26
第4章 保証 -----	27
4-1. 保証期間 -----	27
4-2. 保証範囲 -----	27
4-3. 責任制限 -----	27
第5章 SCH/STH/WJM/WVM/WTMと コンピュータの接続と設定 -----	28
5-1. 接続 -----	28
5-1-1. RS232C(ローカル)で登録する場合 -----	28
5-1-2. RS232C(リモート)で登録する場合 -----	29
5-1-3. ジョイントモジュール(WJM□/WVM□)を使用する場合 -----	31
5-1-4. WTMを使用する場合 -----	31
第6章 プログラムのインストール -----	32
6-1. プログラムのインストール -----	32
6-2. インストール時のエラーメッセージ -----	36
第7章 プログラムの起動 -----	37
7-1. 起動前の確認 -----	37
7-2. 起動 -----	37
第8章 操作 -----	39
8-1. 環境設定 -----	39

8-2. モジュール登録 -----	4 1
8-2-1. SCH / STH -----	4 2
8-2-2. LGL -----	4 8
8-2-3. モジュール -----	4 9
8-2-4. WJM / WVM / WTM -----	5 7
8-3. モジュールリスト -----	7 4
8-3-1. 自動構築 -----	7 8
8-3-2. 通信テスト -----	8 0
8-3-3. Wink -----	8 0
8-4. モジュール登録情報変更 -----	8 1
8-4-1. インターフェースモジュール (SCH / STH) の場合 -----	8 1
8-4-2. モジュールの場合 -----	8 6
8-4-3. WJM□ / WVM□ / WTM の場合 -----	8 7
8-5. モジュール登録情報削除 -----	9 2
8-5-1. インターフェースモジュール (STH / SCH) の場合 -----	9 2
8-5-2. モジュールの場合 -----	9 8
8-5-3. WJM□ / WVM□ / WTM の場合 -----	9 9
8-6. データベース選択 -----	1 0 3
8-7. D / B 変換 -----	1 0 5
8-7-1. MRT D / B インポート (ACCESS データベース選択時) -----	1 0 5
8-7-2. MRT D / B エクスポート -----	1 0 8
8-8. D / B エクスポート -----	1 1 1
8-9. D / B インポート -----	1 1 3
8-10. 登録情報作成 -----	1 1 5
8-11. D / B アップデート (ACCESS データベース 選択時のみ) -----	1 1 8
8-12. プログラムバージョンの確認 -----	1 2 0
8-13. プログラムの終了 -----	1 2 1
8-14. エラーメッセージ -----	1 2 2
付録 1. D / B エクスポートと D / B インポート -----	1 3 4
付録 2. Windows10 ご使用中の起動失敗について -----	1 3 6

- ・PC/ATは米国IBM社の登録商標です。
- ・Core 2 Duoは米国Intel社の登録商標です。
- ・Microsoft 及び、
Windows 8.1、Windows 10、Windows 11、
Windows Server 2016、MSDE、SQL Server
は米国Microsoft社の登録商標です。
- ・おんどとり、Wireless for Windowsはティアンドディ社の登録商標です。

※この説明書の内容は、改善のため予告なしに一部変更することがありますのでご了承ください。

第 1 章 製品が届きましたら

このたびは「モジュール登録ツール（WRS－NCFT）」をお買い求めいただき誠にありがとうございます。

本プログラムは、リアルリンクネットワーク上にあるモジュールのアドレスを登録するソフトウェアです。

この取扱説明書には、「モジュール登録ツール（WRS－NCFT）」をコンピュータにインストールする方法、および、インストール後の操作について書かれています。

製品を正しく末永くご使用いただくために、ご使用前に必ずお読みください。

1－1．製品の確認

次のものがお手元に揃っているかご確認ください。

なお、このCD－ROMは大切に保管してください。

- ・「モジュール登録ツール（WRS－NCFT）」CD－ROM . . . 1 枚

本プログラムを使用する場合は、下記のモジュールが必要となります。

《モジュール》

- ・シリアル変換モジュール (WRT－SCH)
- ・蓄積モジュール (WRT－STH)
- ・ジョイントモジュール (WJM□／WVM□)
- ・Web対応エネルギー監視モジュール (WTM)

※おんどとりモジュール (WRT－STO) を使用する場合、蓄積モジュール (WRT－STH) が必要です。

※RS232Cユニット (WJF－STO) を使用する場合、ジョイントモジュール (WJM□) が必要です。

※電力マルチメータ (WKM) を使用する場合、ジョイントモジュール (WJM□／WVM□) が必要です。

※以後、WRT－SCH／WRT－STH／WJM□／WVM□製品は、インターフェースモジュールと称します。

1－2．対応製品

本プログラムが対応しているリアルリンク製品については、CD-ROMに入っている「readme.txt」ファイルにも記載されております。参照してください。

※D/Bアップデートを行った場合、対応製品の一覧はCD-ROM内の「readme.txt」を参照してください。

本製品は以下のリアルリンク製品に対応しています。

・WRLシリーズ

AT1DS、 AT2DS、 AT4DS、 AT8DS
AT1T□、 AT2T□、 AT1L□、 AT2L□
AT1R□、 AT2R□、 AT1MP、 AT2MP
AR1DZ、 AR1DS、 AR2DS、 AR4DS、 AR8DS
DM500、 DM501、 CM2TR、 CM2RY
DT4TR、 DT8TR、 DT16TR、 DT4TD、 DT8TD、
DT16TD
DR4TR、 DR8TR、 DR16TR、 DR4RY、 DR8RY、
DR16RY
LG4TR、 LG8TR、 LG4RY、 LG8RY

・WRBTシリーズ

AT1DS、 AT2DS、 AT4DS、 AT8DS
AT1T□、 AT2T□、 AT1L□、 AT2L□
AT1R□、 AT2R□、 AT1MP、 AT2MP
AR1DZ、 AR1DS、 AR2DS、 AR4DS、 AR8DS
DT4TR、 DT8TR、 DT16TR、 DT4TD、 DT8TD、
DT16TD
DR4TR、 DR8TR、 DR16TR、 DR4RY、 DR8RY、
DR16RY
CN2TR、 CN4TR、 CN8TR
PI2T-A□00、 PI4T-A□00、 PI8T-A□00

・WKDシリーズ

PA12T、 PA13T、 PA33T、 PA34T、 AET
PA12F、 PA13F、 PA33F、 PA34F

・WRMシリーズ

PA13AT、PA13CT、PA13FT、PA13GT、PA13KT、
PE13AT
PA33AT、PA33CT、PA33FT、PA33GT、PA33KT、
PE33AT
AET-C、PFT-P
PA13AF、PA13CF、PA13FF、PE13AF
PA33AF、PA33CF、PA33FF、PE33AF
PI29F

・WRMPシリーズ

PA12T、PA13T、PA33T、PALPT
PA12F、PA13F、PA33F、PALPF

・WRBAシリーズ

PI2F-A□01、PI4F-A□01、PI8F-A□01
DIO2TF、DIO4TF、DIO2RF、DIO4RF

・WRBCシリーズ

DI16F、MAI8F、DIO8F、RI8F
AI8F

・WRMCシリーズ

PA12T、PA13T PA33T、PA34T
PA12F、PA13F PA33F、PA34F

・WCDシリーズ

PA12F、PA13F、PA33F、PA34F
PA12T、PA13T、PA33T、PA34T

・WRTシリーズ

SCH、STH、STOF

・WJM□/WVM□シリーズ

・WJFシリーズ

PA2、PE4、PA34、AI16、VT4、CT4
AE8、RI8、THI16、DO16、DI16
STO、IZ8

・ WKMシリーズ (PAシリーズ)

PAKFN、 PAKTN

※WKMのオプション設定は本ツールでは行えません。

本体のスイッチで行ってください。

※WRS-PMS V7.00CD、 WRS-REPO V5.00CD

WRS-MONH V3.00CD以降のバージョンで対応しています。

インターフェースにはWJMC、WJMD、WJME、WJMF、
WVME、WVMFのいずれかが必要です。

・ WKMシリーズ (PXシリーズ)

PXNFN、 PXNTN

※WKMのオプション設定は本ツールでは行えません。

本体のスイッチで行ってください。

※WRS-PMS V7.20、 WRS-REPO V5.20

WRS-MONH V3.30以降のバージョンで対応しています。

インターフェースにはWJMC、WJMD、WJME、WJMF、
WVME、WVMFのいずれかが必要です。

・ WTMシリーズ

PE6NA、 PE6LN

※WRS-PMS V9.30、 WRS-REPO V8.20

WRS-MONH V8.30 WRS-VSS V1.20

以降のバージョンで対応しています。

第 2 章 動作条件

2 - 1 . 動作環境

1 . ハードウェア

コンピュータ	: IBM PC / AT 互換機
・ CPU	: インテル® Core™2 Duo プロセッサー 1.8GHz 以上
・ メモリ	: 1GB 以上推奨
・ ハードディスク	: インストール時、 80GB 以上の空き
・ CD-ROM	: 必須
・ ディスプレイ	: XGA 1024×768 以上
・ マウス	: 必須
10BASE-T ポート	: イーサネット使用時必須
COMポート	: COM1～COM5

※COM3～COM5は、RS232C拡張ボードを使用している時に有効です。

2 . OS

以下のOSに対応しています。

- ・ Windows 8.1 Pro
- ・ Windows 10 Pro
- ・ Windows 11 Pro
- ・ Windows Server 2016 Standard

3. モデム

制御コマンド A T コマンド準拠

MNP 4 / V. 4 2

MNP 5 / V. 4 2 b i s

B U S Y 時、リトライなし

弊社推奨モデム

- ・ D F M L - 5 6 0 E R (I-O データ製)

弊社推奨 P H S モデム

- ・ P A U - 7 0 2 R S (N E C マグナスコミュニケーションズ製)
- ・ P A U - 7 0 2 L N K (N E C マグナスコミュニケーションズ製)

※ P H S モデムの詳細については、P H S モデム取扱説明書を参照してください。

弊社推奨ルーター

- ・ R T 5 8 i (Y A M A H A 製)

※ルーターの設定については、ルーター設定マニュアルを参照してください。

4. F O M A

弊社推奨品

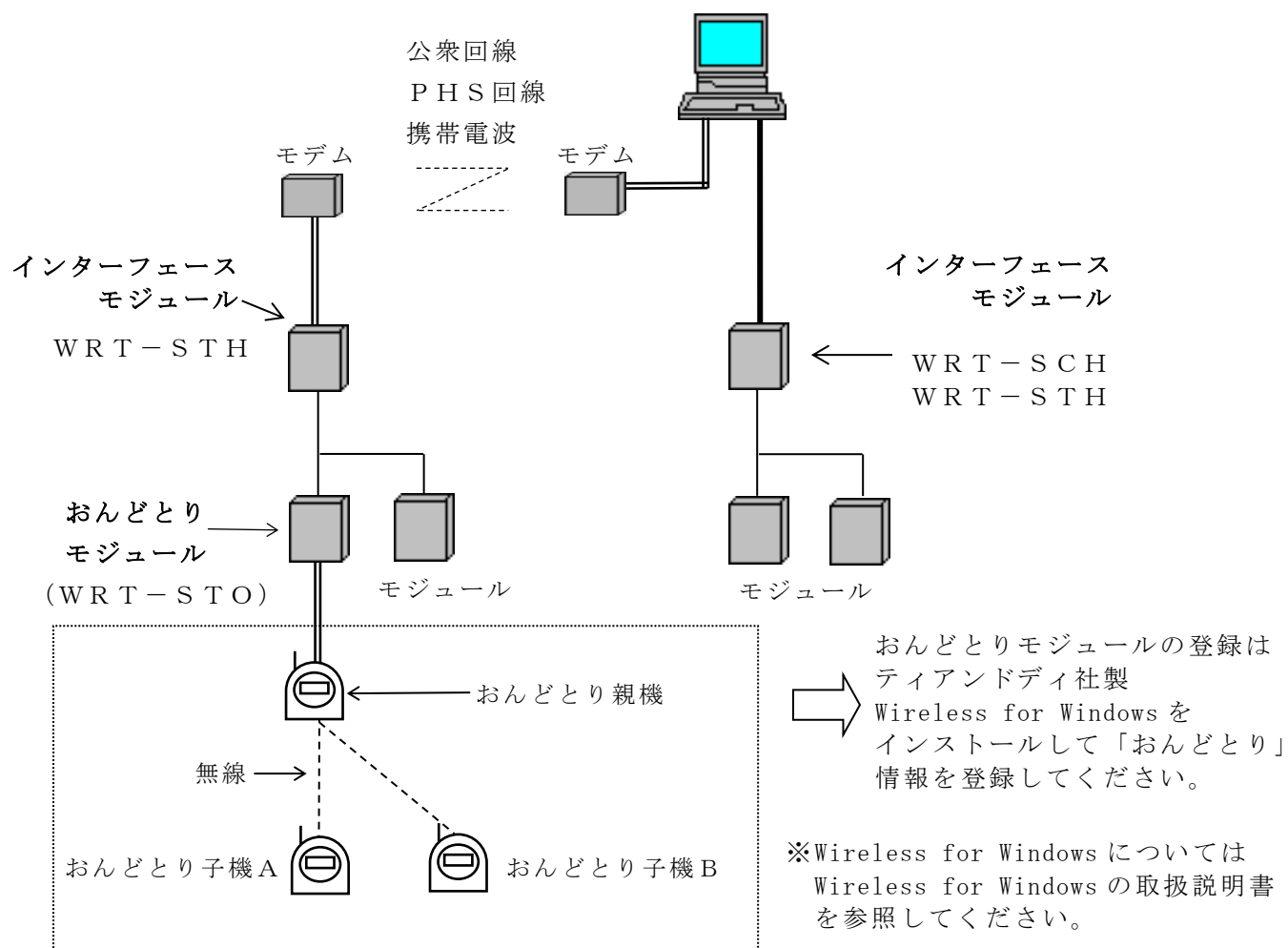
アクセスプレミアム F O M A タイプ

- ・ F O M A 端末 (S i n e F i t)

2-2. 接続形態

- ===== RS232C ストレートケーブル
- ===== RS232C クロスケーブル
- イーサネット
- ===== リアルリンクネットワーク

○シリアル変換モジュール（WRT-S TH）／蓄積モジュール（WRT-S TH）

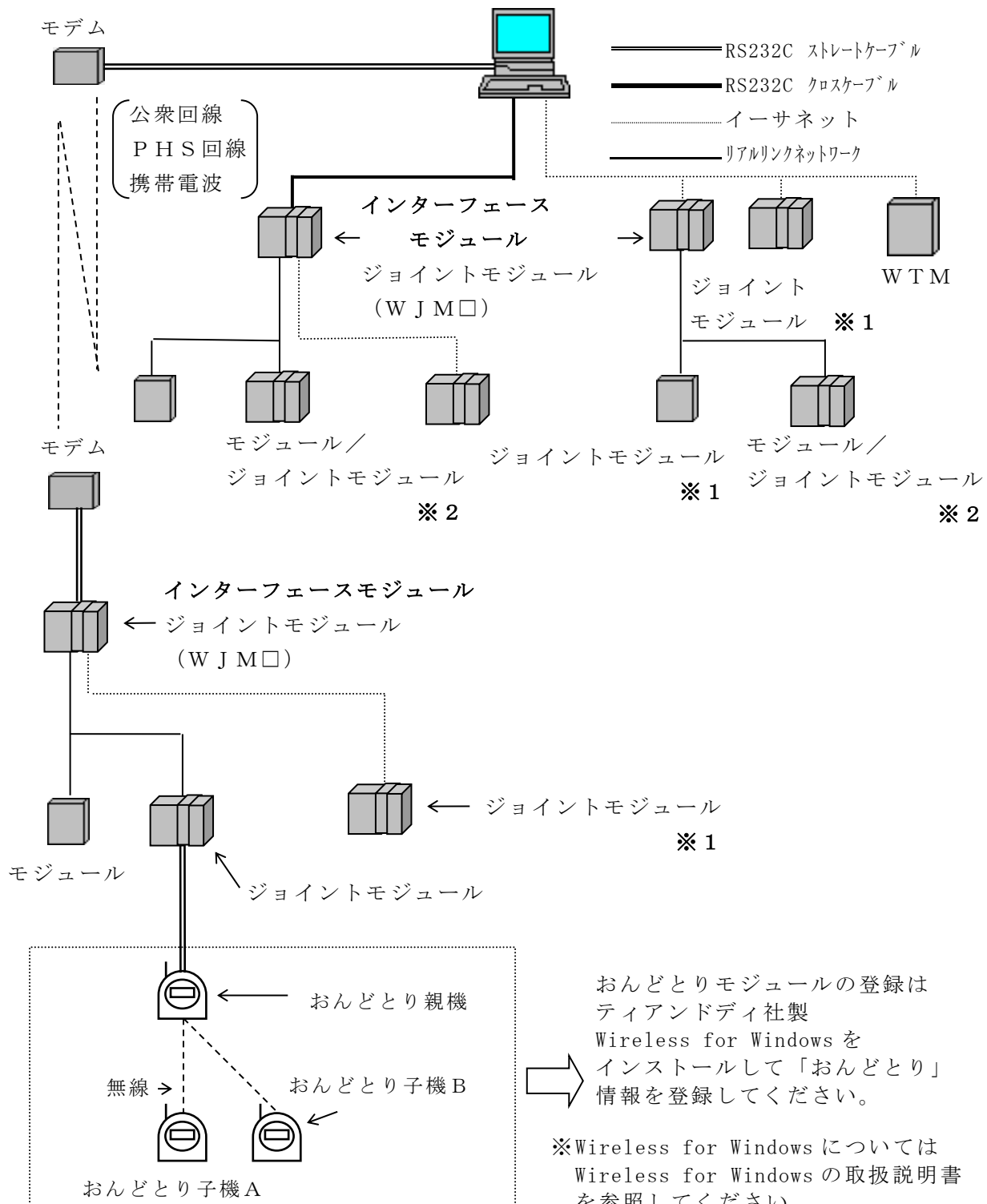


- ※1 バージョン4.10以上の蓄積モジュール（WRT-S TH）と同じネットワークNoにおんどとりモジュール（WRT-S TO）を登録している場合のみ蓄積設定、蓄積データ収集が可能です。
ローカル、リモートどちらも使用可能です。

- ※電力マルチメータ（WKMシリーズ）はシリアル変換モジュール（WRT-S CH）／蓄積モジュール（WRT-S TH）に対応していません。

○ジョイントモジュール (WJM□/WVM□)

またはWeb対応エネルギー監視モジュール (WTM)



- ※1 イーサネット上のネットワークでジョイントモジュールを使用する場合、WJM□-Cは使用出来ません。
- ※2 インターフェースを使用してジョイントモジュールを使用する場合、リアルリンクネットワーク上のネットワークではWJM□-B/WVM□-Bは使用出来ません。
- ※ 電力マルチメータ (WKMシリーズ) はWJMA、WJMBのジョイントモジュールに対応していません。

2-3. 動作条件

2-3-1. インターフェースモジュールについて

下記のモジュールはインターフェースモジュールとして使用します。

モジュールを登録する時にインターフェースモジュールとして登録するため、

下記のモジュールは先に登録してください。また、ジョイントモジュール（WJM□／WVM□）をインターフェースモジュールとして使用する場合は先に登録をしてください。

- ・シリアル変換モジュール (WRT-SCH)
- ・蓄積モジュール (WRT-STH)
- ・ジョイントモジュール (WJM□／WVM□)

※WKMシリーズをご使用の場合はWJMC/WJMD/WJME/WJMF／
WVME/WVMFを使用する必要があります。

2-3-2. モジュール登録数について

本プログラムで登録できるモジュール数は下記のようになります。

また、ネットワーク数は、最大300まで設定できます。

1 ネットワーク

・インターフェースモジュール

シリアル変換モジュール (WRT-SCH)

蓄積モジュール (WRT-STH)

ジョイントモジュール (WJM□／WVM□)

} 計8台まで

・その他のモジュール、またはインターフェースを使用するジョイントモジュール

ジョイントモジュール (リアルリンクネットワーク上)

その他のモジュール

ジョイントモジュール (イーサネット上)

RS232Cモジュール (WJF-STO)

おんどとり蓄積モジュール (WRT-STO)

} 計126台まで

ジョイントモジュール
1台につき1台
1台のみ

・インターフェースを使用しないモジュール

ジョイントモジュール

計126台まで

Web対応エネルギー監視モジュール

計126台まで

300ネットワーク

・インターフェースモジュール

シリアル変換モジュール (WRT-SCH) } 計126台まで
 蓄積モジュール (WRT-STH) } 計300台まで
 ジョイントモジュール (WJM□/WVM□)

・その他のモジュール、またはインターフェースを使用するジョイントモジュール

ジョイントモジュール (リアルリンクネットワーク上) } 計1134台まで
 その他のモジュール } $\left[\begin{matrix} \text{サブネットNo} & \text{モジュールNo} \\ 9 & \times 126 \end{matrix} \right]$

ジョイントモジュール (イーサネット上) 計1134台まで
 RS232Cモジュール (WJM-STO) ジョイントモジュール
 1台につき1台
 おんどとり蓄積モジュール (WRT-STO) 1台のみ

・インターフェースを使用しないモジュール

ジョイントモジュールまたはWTM 計1134台まで

2-3-3. モジュールのサブネットNo/モジュールNoについて

インターフェースモジュール

サブネットNo/モジュールNoの設定は、登録するモジュールにより異なります。

	サブネットNo	区切 文字	モジュールNo
シリアル変換モジュール (WRT-SCH)	5～12	—	1～126
蓄積モジュール (WRT-STH)	21～28		
ジョイントモジュール (WJM□-A/WJM□-C /WVM□-A)	1～9		1～126
ジョイントモジュール (WJM□-B/WVM□-B)			

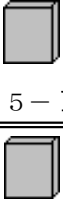
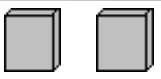
※ のサブネットNoはモジュールにて指定します。

- ・WRT-SCH/WRT-STHの場合
ディップスイッチで設定したサブネットNoを表示します。

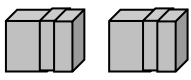
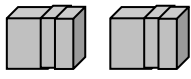
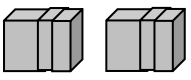
※シリアル変換モジュールのサブネットNoとその他のモジュールサブネットNoの『5～9』は重複していますが、問題ありません。

アドレス設定方法

● インターフェースモジュール（SCH／STH）の場合

	登録不可能	登録可能
モジュールNo	ネットワークNo 1 5-1 	ネットワークNo 1 5-1 6-2 
	ネットワークNo 2 5-1 	ネットワークNo 2 5-3 6-4 
	同一または、複数のネットワーク上でモジュールNoが重複していると登録できません。	同一または、複数のネットワーク上でモジュールNoを割り振ってください。 インターフェースモジュール（SCH／STH）は最大126台まで登録できます。

● インターフェースモジュール（WJM□／WVM□）の場合

	登録不可能	登録可能
サブモジュールNo／ネットワークNo	ネットワークNo 1 1/1 1/1 	ネットワークNo 1 1/1 1/2 
	ネットワークNo 2 2/1 2/2 	
	同一、または複数のネットワーク上でサブネットNo／モジュールNoが重複していると登録できません。	同一、または複数ネットワーク上でサブネットNo／モジュールNoを割り振ってください。

※WJM□-B／WVM□-Bを登録する場合、アドレスの設定は行いません。

⚠ 注意

モジュールNoについて

日報・月報ソフト（WRS-REPO バージョン3.03以前）または、
蓄積設定ツール（WRS-PMS バージョン3.04以前）
を使用する場合、インターフェースモジュールのモジュールNoを
下記の範囲で設定してください。

- ・蓄積モジュール（WRT-STH） 1～16
- ・蓄積モジュール（WRT-STH）モデム利用時 17～32

インターフェースを使用して登録したジョイントモジュール、またはその他のモジュール

	サブネットNo	区切 文字	モジュールNo
インターフェース使用して登録する、 LON上のジョイントモジュール (WJM□-A/WJM□-C /WVM□-A)	1～9	/	1～126
インターフェース使用して登録する、 イーサネット上の ジョイントモジュール (WJM□-A/WJM□-B /WVM□-A)			
その他のモジュール (WRL/WRBT/WKD/ WRM/WRMP/WRBA/ WRMC/WCD/WRBC /WRT-STO/WKM)	1～9		1～126

△注意

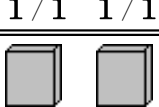
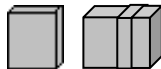
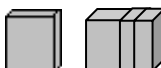
サブネットNoについて

下記のリアルリンクツールを使用する場合、インターフェースモジュール以外のモジュールのサブネットNoを（1～5）の範囲で設定してください。

- ・リアルリンクモニタ（WRS-MON）
- ・DDEサーバー（WRS-DDE）
- ・パラメータ設定ツール（WRS-PMD-2）
- ・日報・月報ソフト（WRS-REPO バージョン3.03以前）
- ・蓄積設定ツール（WRS-PMS バージョン3.04以前）

アドレス設定方法

- その他のモジュール、またはLONWORK上のジョイントモジュールの場合

	登録不可能	登録可能
サブ ネット No / モ ジ ュ ー ル No	ネットワークNo1 1 / 1 1 / 1 	ネットワークNo1 1 / 1 1 / 2  ネットワークNo2 2 / 1 2 / 2 
	同一、または複数のネットワーク上でサブネットNo / モジュールNoが重複していると登録できません。	同一、または複数ネットワーク上でサブネットNo / モジュールNoを割り振ってください。

※WRLモジュールの場合、サブネットNoは“1”、モジュールNoはディップスイッチで設定した値を表示します。

⚠ 注意

モジュールN o について

日報・月報ソフト（WRS-REPO バージョン3.03以前）または、
蓄積設定ツール（WRS-PMS バージョン3.04以前）
を使用する場合、インターフェースモジュールのモジュールN o を
下記の範囲で設定してください。

- ・蓄積モジュール（WRT-STH） 1～16
- ・蓄積モジュール（WRT-STH）モデム利用時 17～32

インターフェースを使用しないで登録したジョイントモジュール、またはWTM

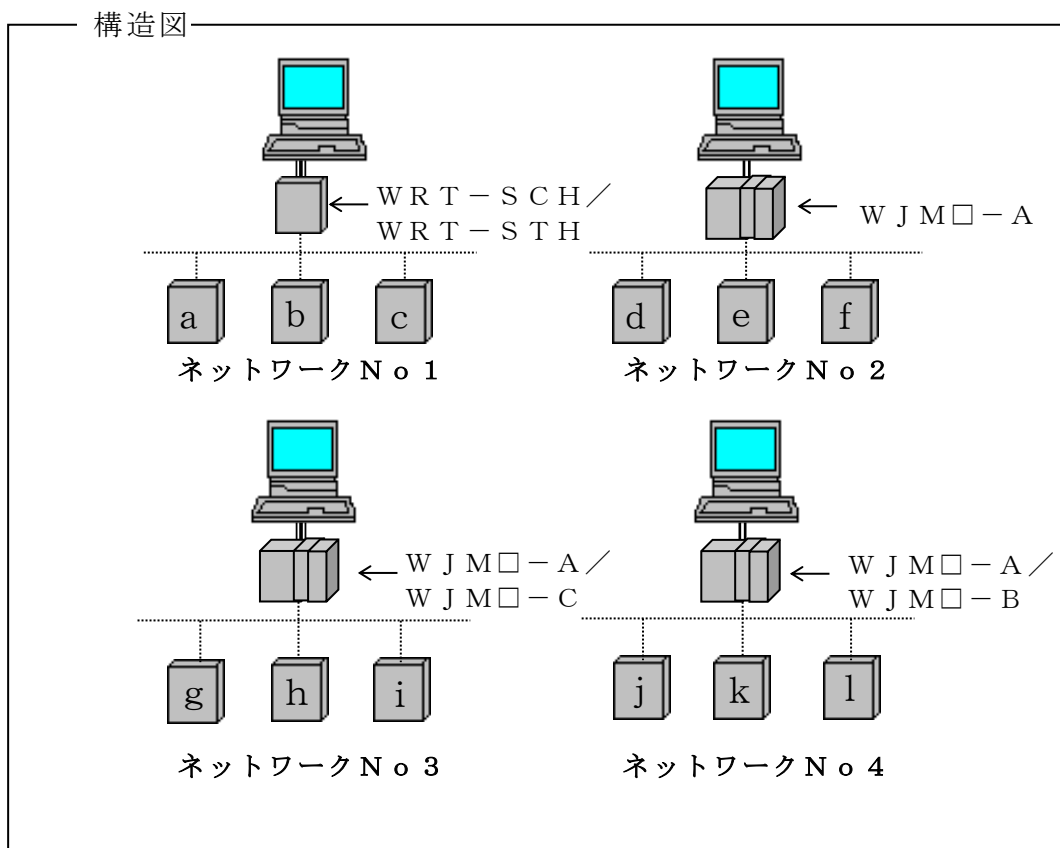
	サブネットN o	区切 文字	モジュールN o
インターフェース使用しないで登録する、イーサネット上のジョイントモジュール (WJM□-A/WJM□-B /WVM□-A) またはWTM		—	

※モジュールリストに表示されるサブネットN o とモジュールN o を区切る文字は登録したモジュールにより異なります。

- ・インターフェースモジュール → サブネットN o —モジュールN o
- ・インターフェースを使用しないモジュール
→ サブネットN o —モジュールN o
- ・その他のモジュール → サブネットN o /モジュールN o

2-3-4. ネットワークNoについて

ネットワークNoは、モジュールが接続されているネットワーク毎にNoを割り当ててください。



例) WRT-SCH / WRT-STH、a、b、cのモジュールを登録する時

→ネットワークNoは1を指定します。

WJM□-A、d、e、fのモジュールを登録する時

→ネットワークNoは2を指定します。

WJM□-A / WJM□-C、g、h、iのジョイントモジュール、モジュールを登録する時

→ネットワークNoは3を指定します。

WJM□-A / WJM□-C、j、k、lのジョイントモジュール、モジュールを登録する時

→ネットワークNoは4を指定します。

WJM□-A / WJM□-B、j、k、lのジョイントモジュール、モジュールを登録する時

→ネットワークNoは5を指定します。

2-3-5. モジュール登録方法について

モジュール登録をする場合、パソコンとインターフェースモジュールを接続して登録する方法と、接続しないでニューロンID、またはIPアドレスを指定して登録する方法（仮登録）があります。

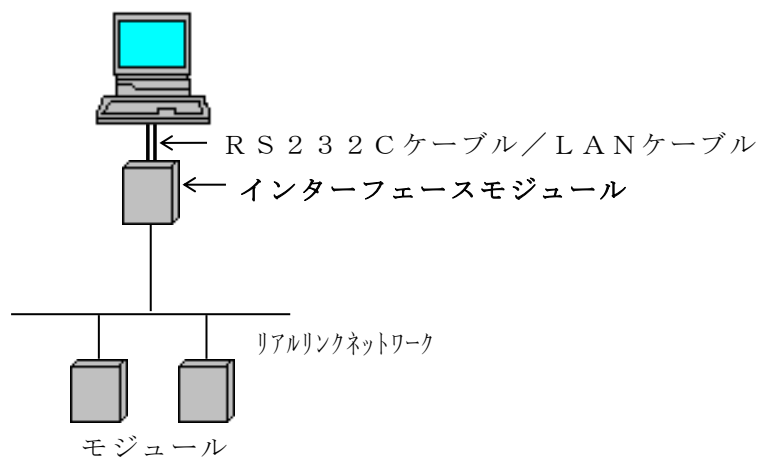
仮登録をした後、自動的にアドレス設定をすることができます。（自動構築）

登録する場合：

RS232Cで登録：インターフェースモジュールとパソコンを
RS232Cケーブルで接続してください。

イーサネットで登録：ジョイントモジュール（WJM□/WVM□）または
Web対応エネルギー監視モジュール（WTM）と
パソコンをLANケーブルで接続して
ください。

※WJM□-B/WJM□-C/WVM□-B
は接続出来ません。

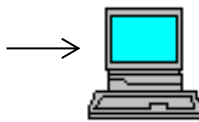


仮登録する場合：

インターフェースモジュールまたはWTMとパソコンを、RS232Cケーブル／
LANケーブルで接続する必要はありません。

ニューロンID指定

IPアドレス指定 ※1



※1 ジョイントモジュール（WJM□-A）をイーサネット接続で仮登録する場合
IPアドレスを入力してください。

WVM□-Aをイーサネット接続で仮登録する場合IPアドレス、WANア
ドレスを入力してください。

▲注意

WKD/WRMC/WCD/WKMシリーズを本プログラムで登録後モジュール
本体の設定でCT/PT設定を変更した場合は再登録する必要があります。

2-3-6. LonMakerで登録したモジュールについて

LonMakerで登録したモジュールを本プログラムで登録する場合、すでにモジュールに設定してあるサブネットNo/モジュールNo（アドレス）で登録されます。（サブネットNo/モジュールNoの変更はできません。）

⚠注意

本プログラムでモジュールを削除する場合、モジュール登録情報だけを削除してください。サブネットNo/モジュールNo（アドレス）は削除しないでください。
※詳細については、『8-5. モジュール登録情報削除』を参照してください。

⚠注意

LonMakerで登録したモジュールを使用する場合、LonMakerの設定でドメインID=01、ドメイン長=1バイトに設定して登録をする必要があります。
01以外で登録した場合本プログラムで登録できません。

2-3-7. モジュール登録情報のバックアップについて

モジュール登録を行った後、モジュール登録情報を保存しておく、パソコンが故障した時などに使用できます。

モジュールを登録・変更・削除を行った時、「D/Bエクスポート」を行いモジュール登録情報のバックアップファイル（登録.EXP）を他のパソコンまたはCD-ROMなどに保存しておいてください。

※操作方法については、『8-8. D/Bエクスポート』を参照してください。

2-3-8. 蓄積モジュールについて

蓄積モジュール（WRT-STH）を登録する場合、下記の使用方法ができます。

（接続形態 参照 P 13）

蓄積モジュール（ローカル）：

RS232Cクロスケーブル（インターリンクケーブル）を使用してパソコンと蓄積モジュール（WRT-STH）を接続します。

蓄積モジュール（リモート）：

RS232Cストレートケーブル（モデムケーブル）を使用してパソコンとモデムを接続します。

注意！

本プログラムで、蓄積モジュール（リモート）の場合、登録情報を変更または削除する前に、該当する蓄積モジュールのモードスイッチの5（モデム使用モード）をONにしてリセットしてください。



※蓄積モジュール（WRT-STH）については、蓄積モジュール（WRT-STH）の取扱説明書を参照してください。

2-3-9. ジョイントモジュールについて

ジョイントモジュール（WJM□/WVM□）を登録する場合、

下記の使用方法ができます。

（接続形態 参照 P 13）

ジョイントモジュール（ローカル）：

RS232Cクロスケーブル（インターリンクケーブル）を使用してパソコンとジョイントモジュール（WJM□/WVM□）を接続します。

ジョイントモジュール（リモート）：

RS232Cストレートケーブル（モデムケーブル）を使用してパソコンとモデムを接続します。

ジョイントモジュール（イーサネット）：

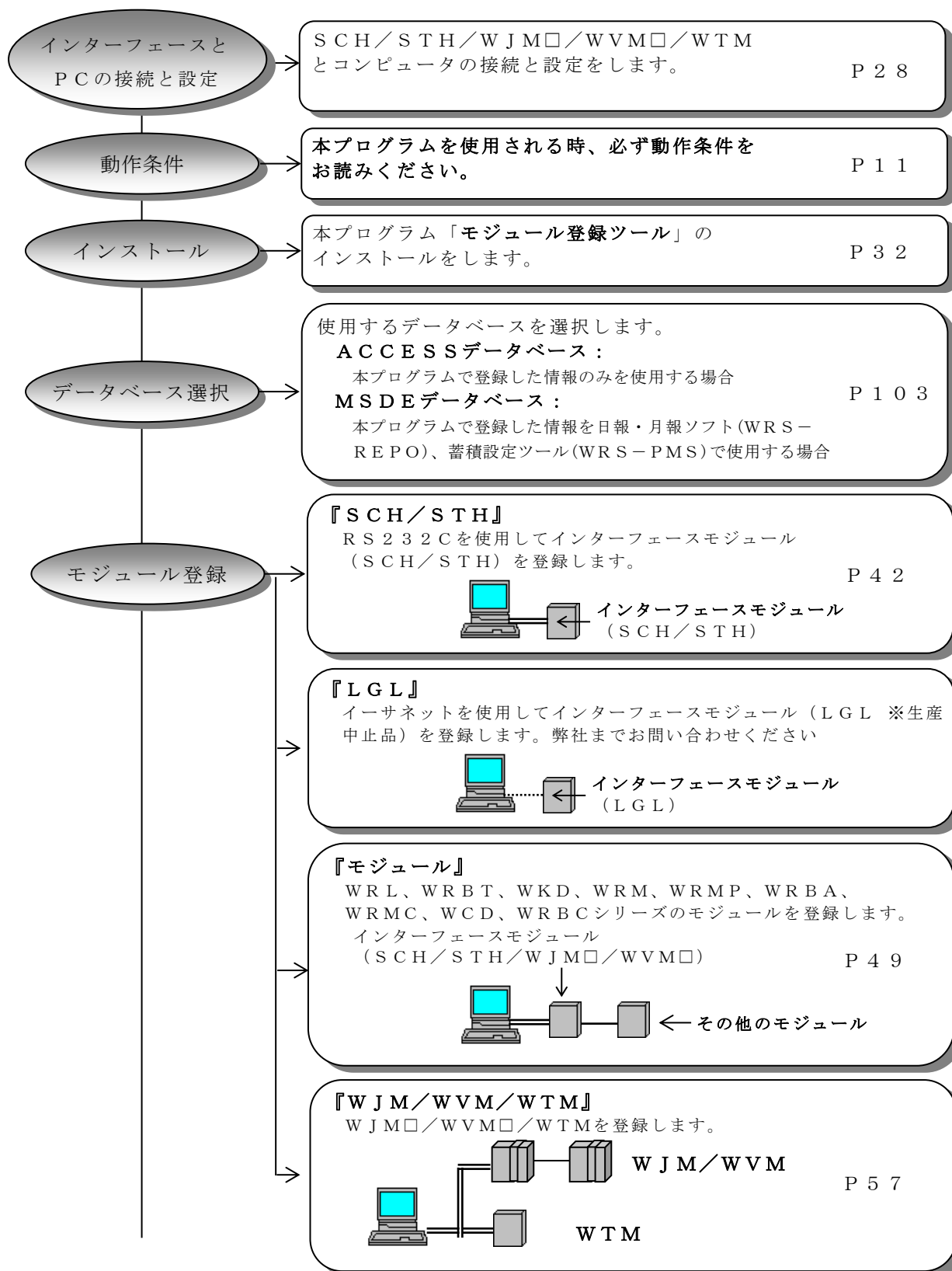
LANケーブルを使用してパソコンとジョイントモジュール（WJM□-A／WJM□-B／WVM□-A／WVM□-B）を接続します。

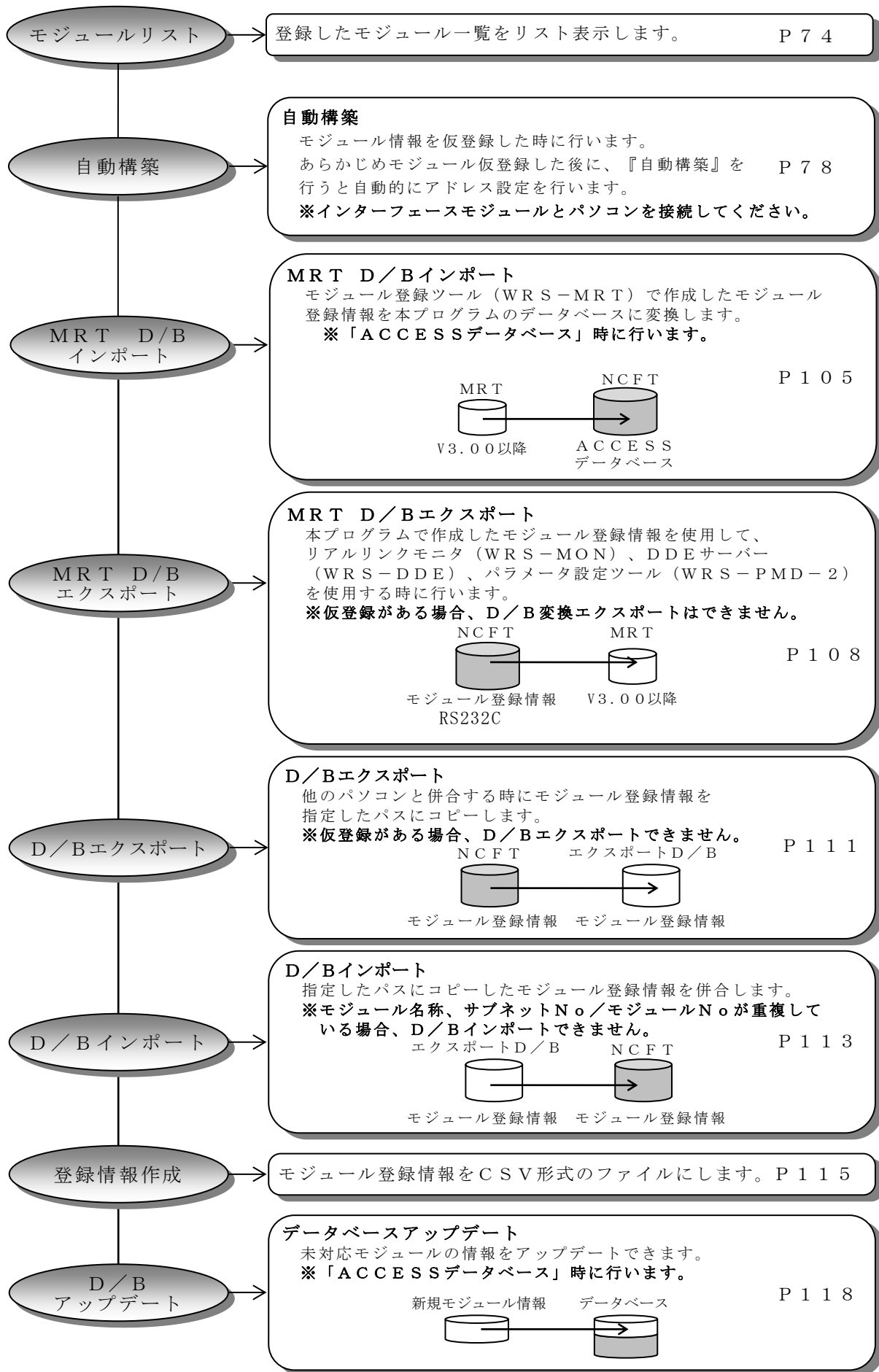
※ジョイントモジュール（WJM□/WVM□）の取扱説明書を参照してください。

第3章 操作手順

モジュール登録ツール（WRS-NCF T）を使用するための手順をご確認ください。

3-1. 操作手順

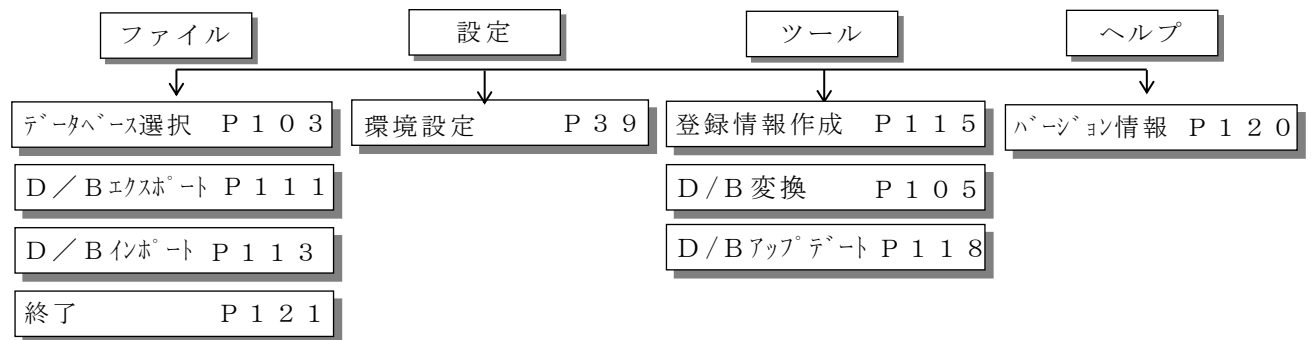




※ページナンバーをクリックするとそのページにジャンプします。

3-2. プルダウンメニュー

本ソフトウェアに表示されているメニューは下記のとおりとなります。



第4章 保証

4－1．保証期間

本ソフトウェアの保証期間は納入後1年間といたします。

4－2．保証範囲

保証期間内に当社側の責により不具合が生じた場合は、代替品の提供を無償で実施させていただきます。

ただし、不具合の原因が次に該当する場合はこの保証の対象範囲から除外いたします。

- 1) 本書に記載されている条件、環境、取扱いの範囲を逸脱してご使用された場合
- 2) 当社以外による構造、性能、仕様などの改変による場合
- 3) 本ソフトウェア以外の原因による場合（サーバー故障など）
- 4) その他、天災、災害、不可抗力など当社側の責ではない原因による場合

なお、ここでいう保証は本ソフトウェア単体の保証に限るもので、本ソフトウェアの不具合や瑕疵から誘発される損害は保証の対象から除かれるものとします。

4－3．責任制限

本ソフトウェアに起因して生じた損害に関しては、当社はいかなる場合も責任を負いません。

第5章 SCH／STH／WJM／WVM／WTMと コンピュータの接続と設定

本プログラムを使用する場合、コンピュータと下記のインターフェースモジュールとの間は、RS232Cインターフェースを使用して接続します。従って、下記の接続を行ってください。

※仮登録する場合は、インターフェースモジュール（SCH／STH／WJM□／WVM□）またはWTMとパソコンをRS232Cケーブル／LANケーブルで接続する必要はありません。

- ・シリアル変換モジュール (WRT－SCH)
- ・蓄積モジュール (WRT－STH)
- ・ジョイントモジュール (WJM□／WVM□)
- ・Web対応エネルギー監視モジュール (WTM)

5－1．接続

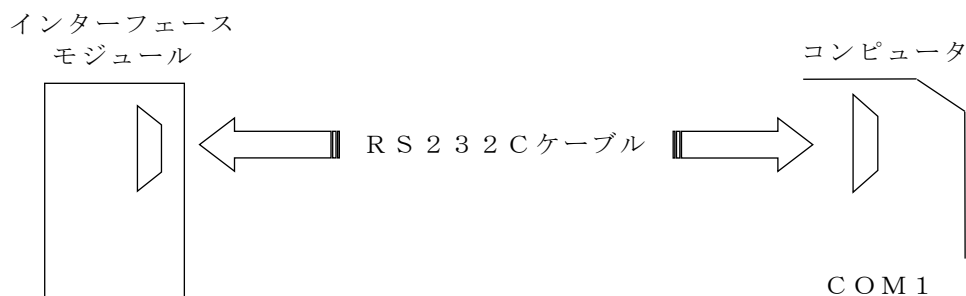
5－1－1．RS232C(ローカル)で登録する場合

インターフェースモジュール（SCH／STH）の

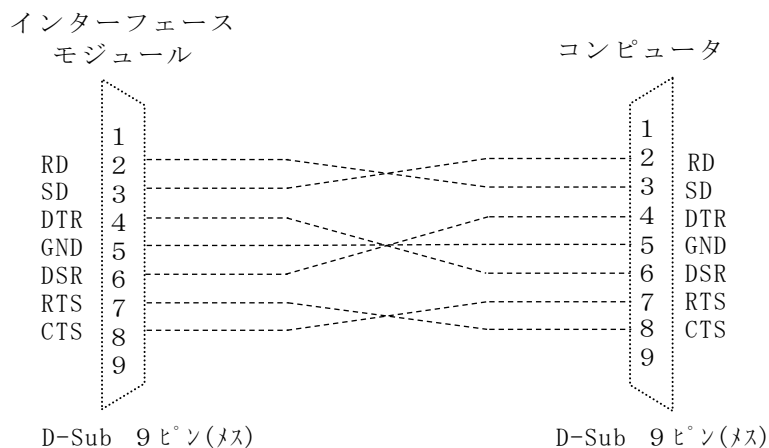
本体前面のコネクタとコンピュータ側のCOM1～COM5のいずれかを接続します。

COM3～COM5は、RS232C拡張ボードを使用している時に有効です。

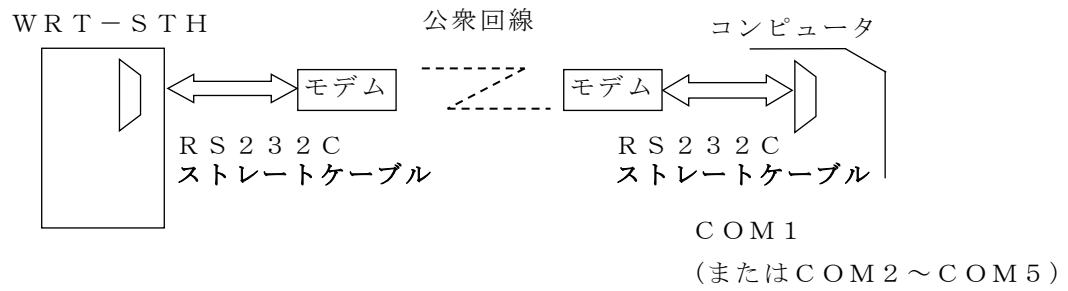
（出荷時設定はCOM1を使用する設定になっています。）



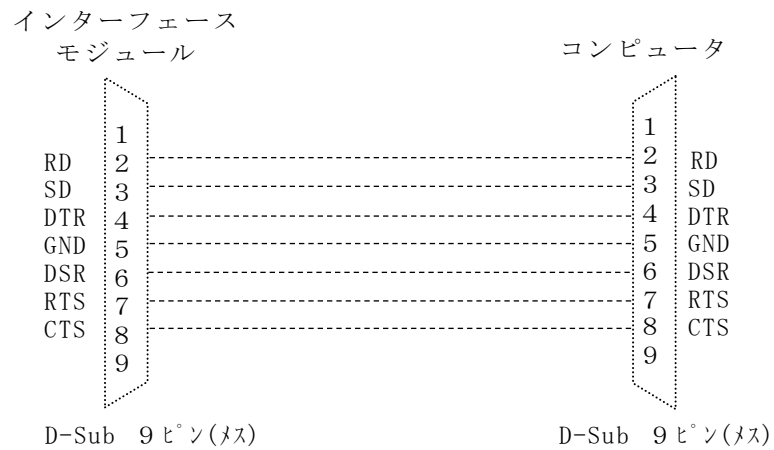
RS232Cクロスケーブル（インターリンクケーブル）を使用します。



5-1-2. RS232C(リモート)で登録する場合



RS232Cストレートケーブル（モデムケーブル）を使用します。



注意！

インターフェースモジュール（SCH／STH）V 4.0 0 以前でモジュール登録を行う場合、ファンクションスイッチの3をONにし、赤のLEDが点滅しているのを確認してください。

モジュール登録する前にインターフェースモジュール（SCH／STH）V 4.0 0 以前のディップスイッチを下記図のように設定し、赤のLEDが点滅しているのを確認してください。モジュール登録を終了したら、ファンクションスイッチの3をOFFにしてください。
赤LEDの点滅は終了します。

ファンクションスイッチ



スイッチON
状態(上に押す)

スイッチOFF
状態(下に押す)

- ・コンピュータの種類によって、RS 232Cのピン番号、ピン数が異なる場合があります。
- ・接続後、コネクタのネジをしっかりと締め、抜けないようにしてください。
- ・WRT-SCH/WRT-STH設定は、
ボーレート**57600bps**、サムチェックとパリティチェックなしに
『ディップスイッチ』にて設定してください。

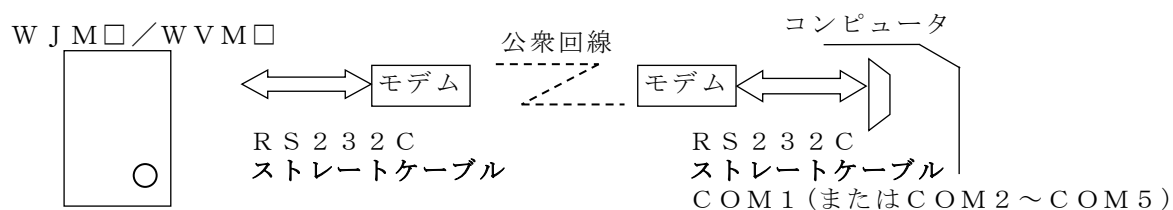
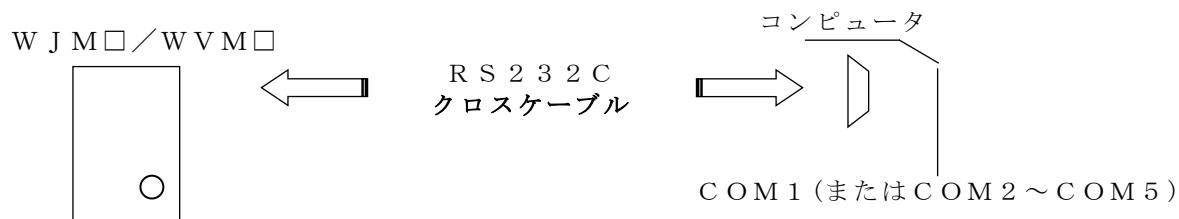
※インターフェースモジュール詳細については、各モジュールの取扱説明書を参照してください。

5-1-3. ジョイントモジュール(WJM□/WVM□)を使用する場合

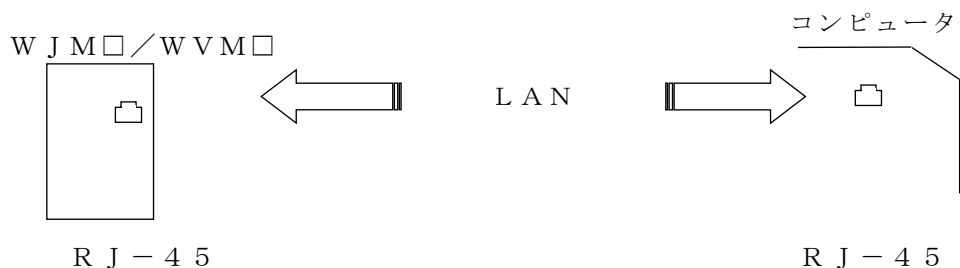
・RS232C経由で使用する場合

COM3～COM5は、RS232C拡張ボードを使用している時に有効です。

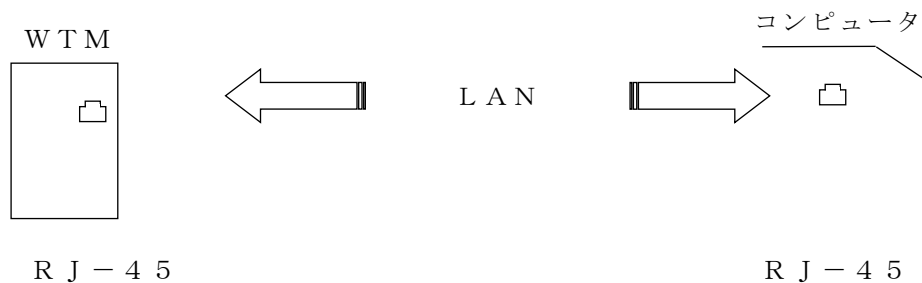
(出荷時設定はCOM1を使用する設定になっています)



・イーサネット経由で使用する場合



5-1-4. WTMを使用する場合



第 6 章 プログラムのインストール

プログラムをコンピュータにインストールします。

△注意

- ①本プログラム「モジュール登録ツール」をインストールする場合、インストールする前に必ず『administrator』でログインしてください。
- ②BEMS 対応モジュール登録ツール、BEMS 対応データ収集ソフトがインストールされている PC では本ソフトウェアを動作させることができません。
必ず別の PC にインストールしてください。

本プログラムをインストールする前にMSDEをインストールしてください。

※SQL Server 2012/2019 Express がインストールされます。

ご使用の PC の OS によって、インストールされる SQL Server Express のバージョンが異なります。

本取扱説明書ではいずれの SQL Server Express も MSDE として表記しています。

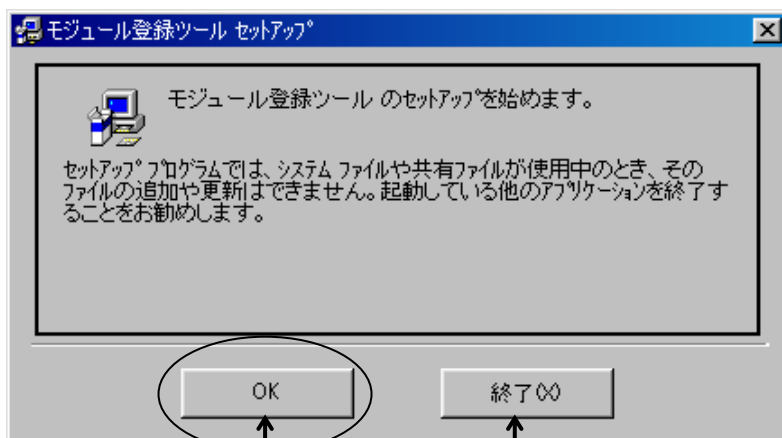
6-1. プログラムのインストール

【1】CDドライブにインストールCD「モジュール登録ツール（WRS-NCFT）」を挿入します。

【2】インストールCD内の「NCFT」を開いて「setup.exe」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックしてください。

【3】下記の画面を表示します。

『OK』をクリックするとモジュール登録ツールのセットアップを開始します。

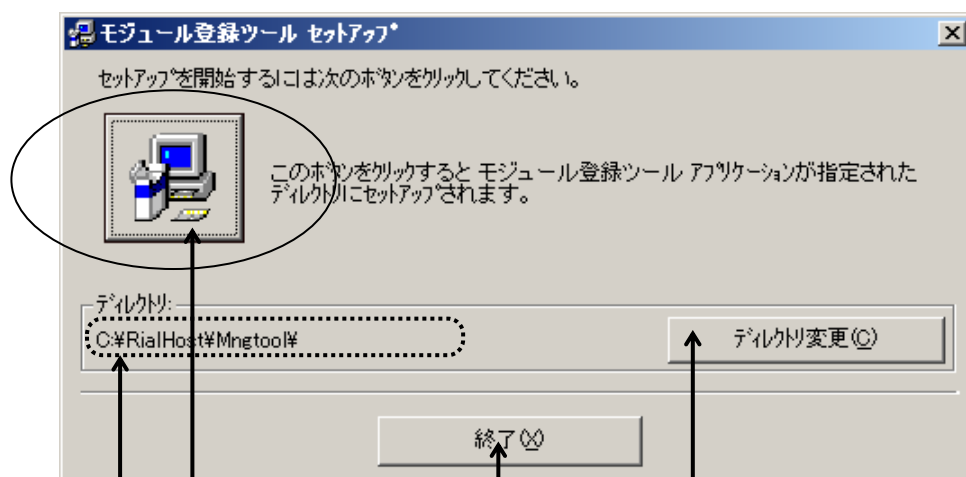


インストールをキャンセルします。

インストールを開始します。

【4】インストール先のディレクトリを確認後、セットアップを開始するボタンをクリックします。

※通常、インストール先のディレクトリ確認画面では、
ディレクトリを変更せずに次へ進んでください。



ディレクトリの変更をします。

インストールをキャンセルします。

インストールを開始します。

インストール先を表示します。

【5】インストール先のプログラムグループの確認画面を表示します。

リアルリンクツールのグループを確認後、『継続』をクリックします。

※通常、インストール先のプログラムグループ確認画面では、

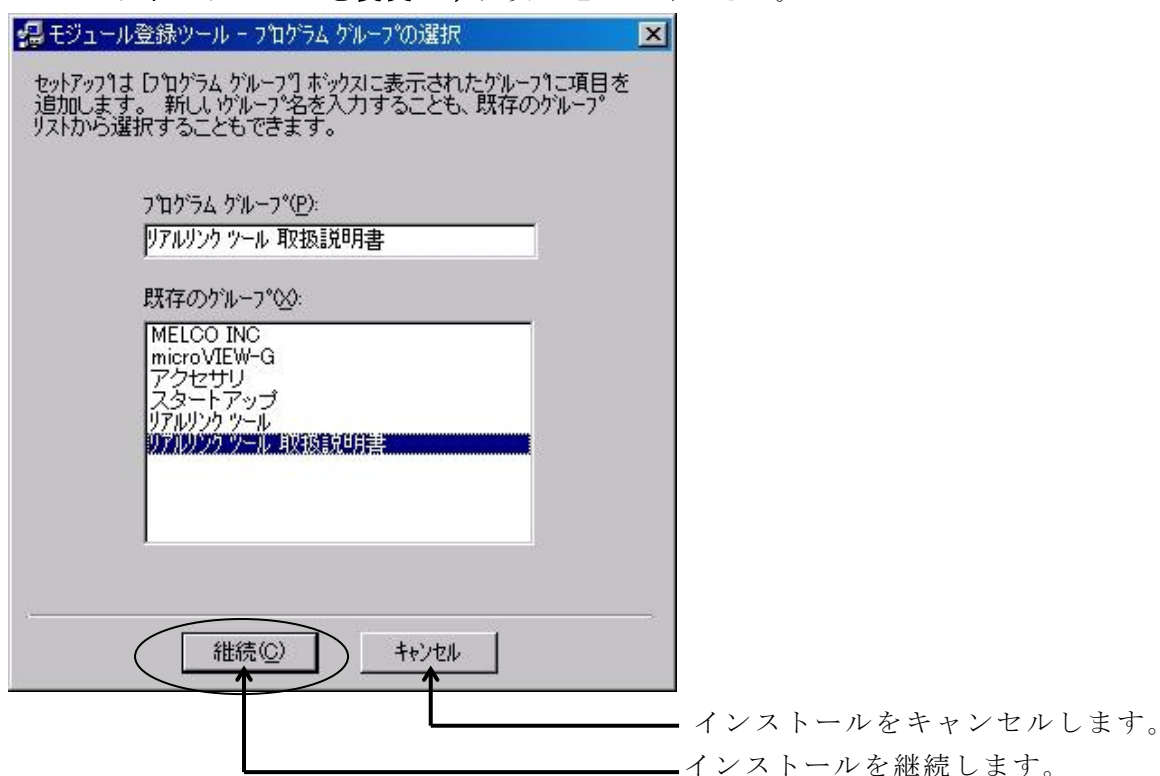
プログラムグループを変更せずに次へ進んでください。



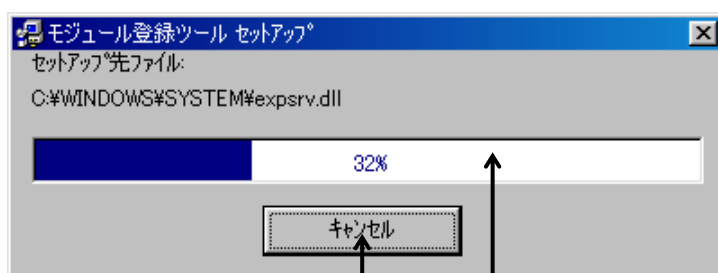
【6】リアルリンクツール取扱説明書のグループを確認後、『継続』をクリックします。

※通常、インストール先のプログラムグループ確認画面では、

プログラムグループを変更せずに次へ進んでください。

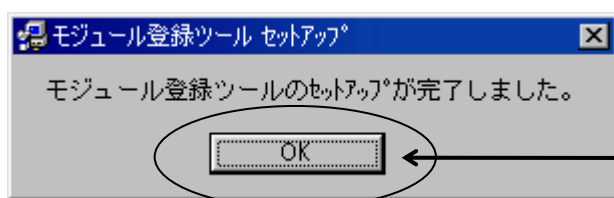


【 7 】 モジュール登録ツールのセットアップを開始します。



インストール実行状態が%で表示されます。
インストールをキャンセルします。

【 8 】 下記の画面が表示されたら、『OK』をクリックしてください。
インストール完了です。Windowsを再起動してください。



インストールが完了しました。

6-2. インストール時のエラーメッセージ

インストールをしている途中、インストールメッセージが表示される場合があります。インストールを正常に終わらせる為に、下記の正しい対応処理をしてください。

システムにある一部のシステムファイルが最新でないので、セットアップを続行できません。セットアップでこれらを更新してよいのなら『OK』をクリックして下さい。もう一度セットアップを実行する前に Windows を再起動する必要があります。システムファイルを更新しないでセットアップを終了する場合は、『キャンセル』をクリックしてください。

対応： ①『OK』をクリック後、Windows を再起動します。
②もう一度セットアップ実行します。

コピーしようとしているファイルより新しいファイルがシステムに存在します。現在のファイルをそのまま使用することをお勧めいたします。

対応： 『はい』をクリックしてください。

セットアップ先のファイルは、他のアプリケーションで使われています。使用中のアプリケーションを終了させてください。

対応： 『無視』をクリックしてください。

セットアップ先のファイルは、他のアプリケーションで使われています。使用中のアプリケーションを終了させてください。ファイルのコピーエラーを無視すると、そのファイルは組み込まれません。この場合、アプリケーションが正しく動作しない可能性があります。エラーを無視しますか？

対応： 『はい』をクリックしてください。

既に組み込まれています。既存のものを置き換えますか？

対応： 『はい』をクリックしてください。

ファイルのコピーにエラーが発生しました。

対応： 『無視』をクリックしてください。

第7章 プログラムの起動

7-1. 起動前の確認

『第2章 動作条件』を必ずお読み下さい。

7-2. 起動

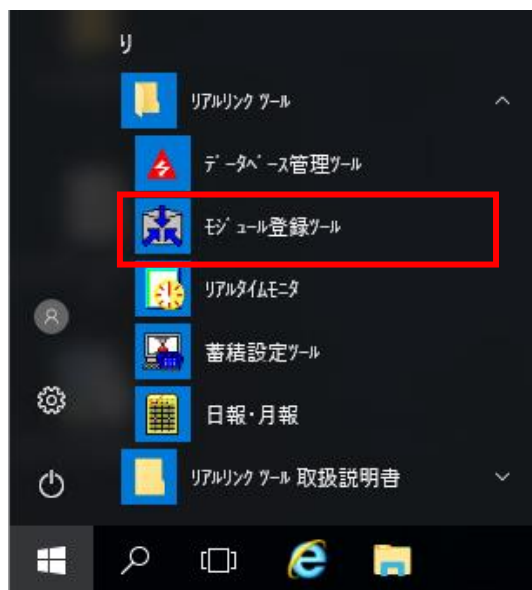
本プログラムを起動します。

【1】『スタート』をクリックしアプリの一覧を表示します。

【2】『リアルリンクツール』を選択します。

【3】『モジュール登録ツール』を右クリックし、「その他」から「管理者として実行」をクリックすると「モジュール登録」画面を表示します。

※「データベース管理ツール」が起動中、本プログラムは起動できません。

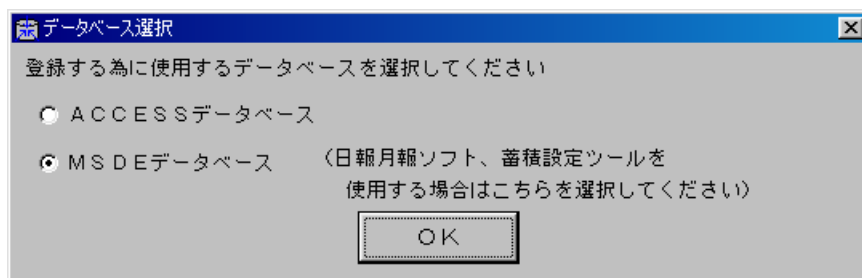


⚠注意

Windows 10をご使用中でプログラムの起動に失敗する場合、
『付録2.Windows10 ご使用中の起動失敗について』をご確認ください。

注意！

インストール後、初めての起動時「データベース選択」画面を表示します。



本プログラムで使用するデータベースの選択をしてください。
データベース選択については、『8-6. データベース選択』を参照してください。
以後、本プログラムを起動すると「モジュール登録」画面を表示します。

※本プログラムをバージョンアップした場合、上記の画面は表示されません。
以前使用していたデータベースで本プログラムは起動します。

注意！

MSDEインストール後にコンピュータ名を変更すると、モジュール登録ツール
起動時に以下のようなエラーメッセージを表示します。
下記の対応処理をしてください。



- 対応：①『OK』をクリックして、MSDEをアンインストールしてください。
②『データベース管理ツール』より『MSDEインストール』して、
『データベース登録』をしてください。
③『モジュール登録ツール』を再起動してください。

注意！

Windows Defenderを有効にしている場合、モジュール登録ツール
起動時に以下のようなエラーメッセージを表示する場合があります。
下記の対応処理をしてください。



対応：Windows Defenderのスキャン対象から、モジュール登録ツール
インストールフォルダ（デフォルトではC:\¥R i a l H o s t）を
除外してください。

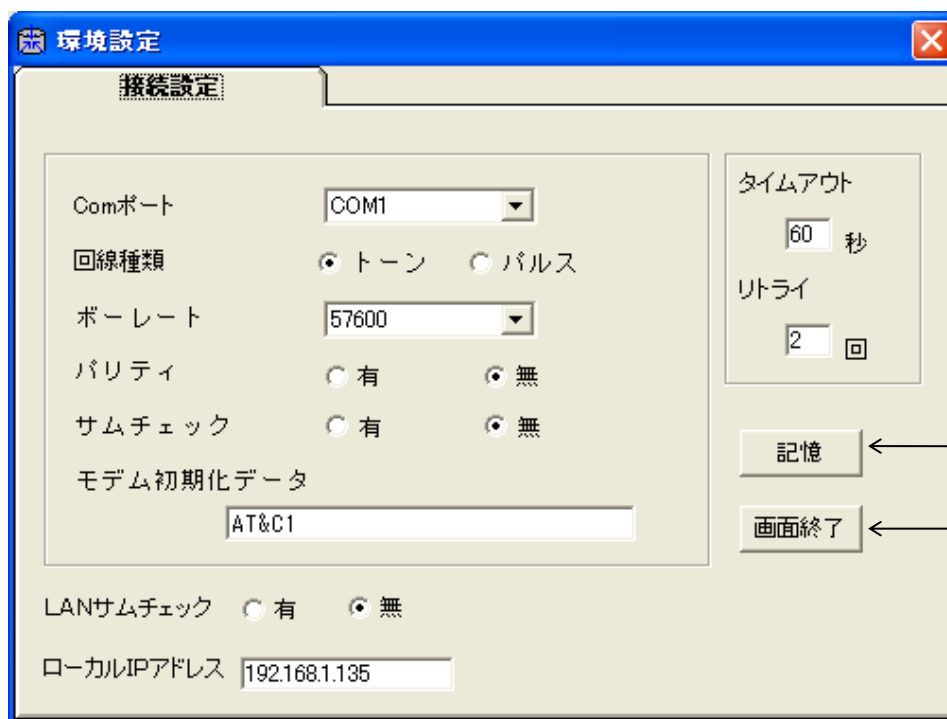
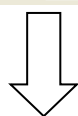
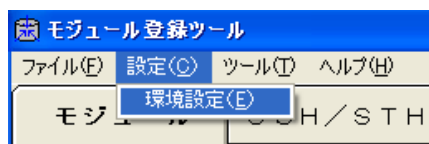
第 8 章 操作

8 - 1 . 環境設定

通信設定

通信設定を設定します。

プルダウンメニューの「設定」から、『環境設定』を指示すると、画面を表示します。



本画面を終了します。

通信ポート毎に R S 2 3 2 C
通信設定ができます。

【 1 】 通信ポートを選択します。

(通信ポートをクリックすると COM 1 ～ COM 5 の選択ができます。)

COM 3 ～ COM 5 は、R S 2 3 2 C 拡張ボードを使用している時に有効です。

【 2 】 使用する電話回線を選択します。(出荷時設定：トーン)

リモートでインターフェースモジュールを使用して、公衆回線経由でメンテナンスする場合、有効になります。

・ダイヤル回線 → パルス ・プッシュホン回線 → トーン

- 【3】ボーレート（通信速度）の選択をします。（出荷時設定：57600bps）
1200bps、2400bps、4800bps、9600bps、14400bps、19200bps、38400bps、57600bps
から選択ができます。
- 【4】パリティの有無を選択します。（出荷時設定：無し）
有りの時は奇数パリティになります。
- 【5】サムチェックの有無を選択します。（出荷時設定：無し）
※ボーレート／パリティ／サムチェックの設定はインターフェースモジュールの設定と
同じに設定してください。
※インターフェースモジュール詳細については、各モジュールの取扱説明書を参照してください。
- 【6】モデム初期化データを入力します。（出荷時設定：A T & C 1）
パソコンに接続しているモデムの動作を設定するためのものです。
蓄積モジュール（リモート）が接続できない時に変更する必要があります。
電話番号とモデムの回線状態を確認した後、モデムのマニュアルを参照の上
設定を変更してください。
※モデム初期化データを変更後、本プログラムを再起動してください。
※通常、出荷時設定のまま使用してください。
ただし、弊社推奨モデムM144K（ヒノックス製）を使用する場合は
A T & C 1 & D 2 と設定してください。
- 【7】通信のタイムアウト時間とリトライ回数を設定してください。
（出荷時設定：タイムアウト45秒、リトライ2回）
設定範囲：タイムアウト 45～180秒、リトライ 0～5回
- 【8】『記憶』をクリックします。
現在指定している通信ポートに対応したR S 2 3 2 C通信設定を記憶します。
- ※他の通信ポートを設定する時、上記の【1】～【7】の設定を繰り返してください。
- 【9】ローカルI Pアドレスを設定します。
複数のネットワークボードのあるパソコンの場合、どのボードを使用する
か指定できます。ボードのI Pアドレスを指定してください。
（出荷時設定：デバイスマネージャで認識しているネットワークボードの1番目）
ネットワークボードが存在しない場合は設定できません。
本プログラムを起動中にネットワークボードを追加しても認識しません。
ネットワークボードを追加した場合、本プログラムを再起動して認識してください。
- 【10】『画面終了』をクリックすると本画面は終了します。

8-2. モジュール登録

リアルリンクモジュールの登録を行います。

▲注意

シリアル変換モジュール (WRT-SCH) または、蓄積モジュール (WRT-STH) または、ジョイントモジュール (WJM□/WVM□) はインターフェースモジュールとして使用するため、これらのモジュールは先に登録してください。

【1】「モジュール登録」画面のタブより登録するモジュールを指定してください。

8-2-1. SCH/STH

RS232Cにてインターフェースモジュール (SCH/STH/) を登録する場合に指定します。

8-2-1-1. 登録 → P 4 2 へ

8-2-1-2. 仮登録 → P 4 5 へ

8-2-2. LGL

イーサネットにてインターフェースモジュール (LGL ※生産中止品) を登録する場合に指定します。

LGLの登録を行う場合は弊社までお問い合わせください。

8-2-3. モジュール

その他のモジュール (WRL、WRBT、WKD、WRM、WRMP、WRBA、WRMC、WCD、WRBC、WKMシリーズ または、WRT-STO) を登録する場合に指定します。

8-2-3-1. 登録 → P 4 9 へ

8-2-3-2. 仮登録 → P 5 4 へ

8-2-4. WJM/WVM/WTM

WJM/WVM/WTMを登録する場合に指定します。

8-2-4-1. 登録 → P 5 7 へ

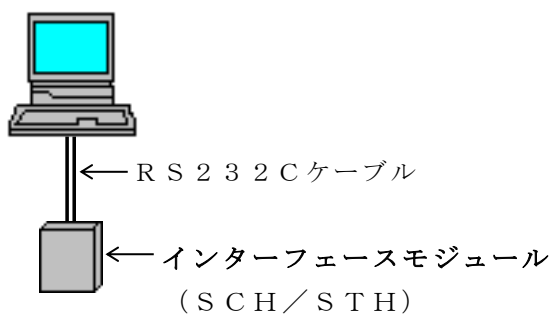
8-2-4-2. 仮登録 → P 6 7 へ

8-2-1. SCH/STH

RS232Cを使用してインターフェースモジュール（SCH/STH）を登録します。

8-2-1-1. 登録

インターフェースモジュール（SCH/STH）とパソコンをRS232Cケーブルで接続してください。



- 【1】「モジュール登録」画面のタブより『SCH／STH』を指定してください。
下記の画面を表示します。

- 【2】インターフェースモジュール（SCH／STH）と接続した
COMポートを選択してください。（COM1～COM5）
COM3～COM5は、RS232C拡張ボードを使用している時に有効です。
（工場出荷時：COM1）
リモートで登録する場合は「TEL」の口をチェックした後に電話番号を指定
してください。

【3】『検索』をクリックすると「検索中！」画面を表示します。

接続されているモジュールのサブネットNo、モジュール種別、ニューロンIDを表示します。

サブネットNoは下記のように表示されます。

WRT-SCH:ディップスイッチで設定したサブネットNoを表示します。

WRT-STH:ディップスイッチで設定したサブネットNoを表示します。

【4】ネットワークNoを（1～300）の範囲で入力してください。

モジュールが接続されているネットワーク毎にNoを割り当ててください。

※ネットワークNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

【5】モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

※モジュールNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

【6】モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、

コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。

【7】『登録』をクリックしてください。「登録完了」とメッセージを表示します。

△注意

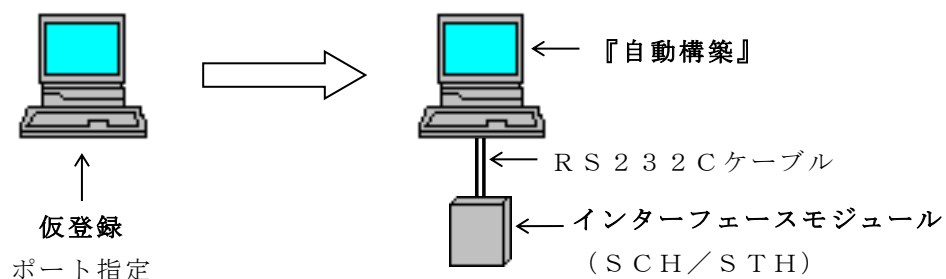
モジュールNo、モジュール名称は、全てのネットワークで重複しないように設定してください。

※インターフェースモジュールについては、各モジュールの取扱説明書を参照してください。

8-2-1-2. 仮登録

インターフェースモジュール（SCH／STH）とパソコンをRS232Cケーブルで接続する必要はありません。

『自動構築』をする時に、接続してください。



⚠注意

『RS232C』の仮登録は1ネットワークに対して1台しかできません。

※仮登録は、『自動構築』をすると登録できます。

（自動構築については、『8-3-1. 自動構築』を参照してください。）

- 【１】「モジュール登録」画面のタブより『SCH／STH』を指定してください。
下記の画面を表示します。

- 【２】インターフェースモジュール（SCH／STH）と接続する
COMポートを選択してください。（COM1～COM5）
COM3～COM5は、RS232C拡張ボードを使用している時に有効です。
（工場出荷時：COM1）
リモートで仮登録する場合は「TEL」の口をチェックした後に電話番号を指定
してください。

【3】『仮登録』にチェックをしてください。

【4】ネットワークNoを（1～300）の範囲で入力してください。

※ネットワークNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

【5】モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

△注意

モジュールNo、モジュール名称は全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

※モジュールNoを指定しないで仮登録し『自動構築』を実行した場合、モジュールNoは自動的に割り当てられ登録されます。

※モジュールNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

※サブネットNoはモジュールに設定してあるサブネットNoを設定します。

※自動構築については、『8-3-1. 自動構築』を参照してください。

【6】モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、

コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。

【7】『登録』をクリックしてください。「仮登録完了」メッセージを表示します。

※インターフェースモジュールについては、各モジュールの取扱説明書を参照してください。

8－2－2．LGL

⚠注意

- ・イーサネットゲートウェイ（WGWLGL ※生産中止品）の登録、仮登録の方法については弊社までお問い合わせください。

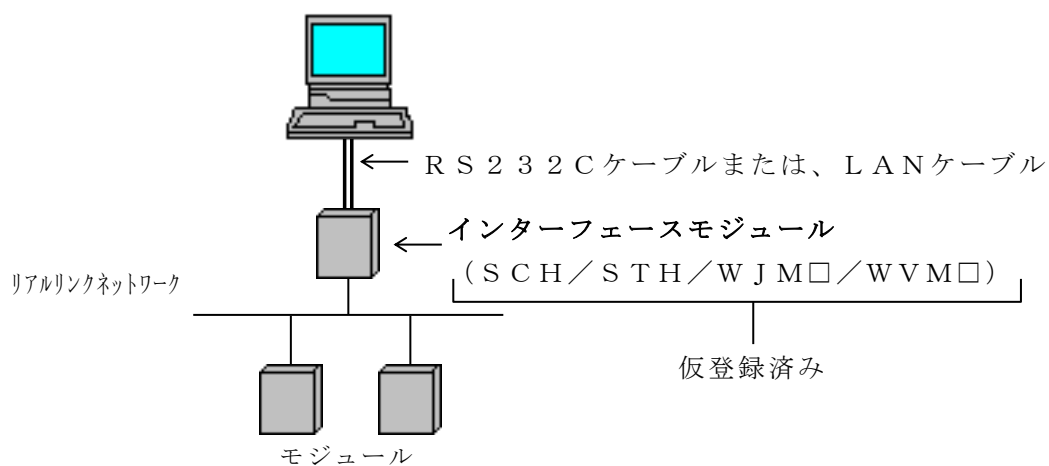
8-2-3. モジュール

その他のモジュール（WRL、WRBT、WKD、WRM、WRMP、WRBA、WRMC、WCD、WRBC、WKMシリーズまたはWRT-STO）を登録します。

8-2-3-1. 登録

インターフェースモジュール（SCH/STH/WJM□/WVM□）を先に登録してください。

インターフェースモジュール（SCH/STH/WJM□/WVM□）とパソコンをRS232Cケーブル/LANケーブルで接続してください。



- 【1】「モジュール登録」画面のタブより『モジュール』を指定してください。
下記の画面を表示します。

モジュール登録ツール

ファイル(F) 設定(O) ツール(T) ヘルプ(H)

モジュール SCH/STH LGL WJM/WVM / WTM

インターフェース

ネットワークNo:

登録方法

☒ サービスピン

☐ ニューロンID指定 ☐ 仮登録

モジュール情報

モジュール種別:

サブネットNo モジュールNo 検索

ニューロンID

モジュール名称

コメント

一覧リスト 削除 登録

その他のモジュールを登録する場合に選択します。

モジュールを登録します。

モジュール登録情報を削除します。

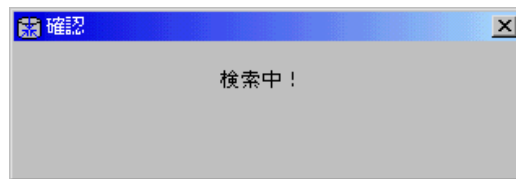
モジュール登録情報のリストを表示します。

- 【2】インターフェースモジュールを選択してください。ネットワークNoを表示します。

- 【3】登録方法を選択してください。

○サービスピン

1. 『検索』をクリックし、下記の画面が表示されるのでリアルリンク上の登録するモジュールのサービスピンを押します。



指定したモジュールのサービスピンを押すと、モジュール種別とニューロンIDを表示します。

※SNTs対応モジュールを登録した場合、モジュール種別の後ろに「@」を表示します。

※WRLモジュールの場合、サブネットNoは“1”、モジュールNoはモジュールに設定（ディップスイッチ）してある値を表示します。

またLonMakerで登録したモジュールの場合、すでにモジュールに設定してあるサブネットNo／モジュールNoを表示します。

（この場合、サブネットNo／モジュールNoの変更はできません。）

※LonMakerで登録したモジュールを使用する場合、

LonMakerの設定でドメインID=01、ドメイン長=1バイトに設定して登録をする必要があります。

01以外で登録した場合、本プログラムで登録できません。

2. サブネットNoを（1～9）の範囲で入力してください。

⚠注意

下記のリアルリンクツールを使用する場合、サブネットNoを（1～5）の範囲で設定してください。

- ・リアルリンクモニタ（WRS-MON）
- ・DDEサーバー（WRS-DDE）
- ・パラメータ設定ツール（WRS-PMD-2）
- ・蓄積設定ツール（WRS-PMS バージョン3.04以前）

3. モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

注意！

サブネットNo／モジュールNoは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

※サブネットNo／モジュールNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

○ニューロンID指定

1. ニューロンIDを入力してください。（12桁）
（入力文字：半角の数字、アルファベットA～F（半角の大文字））
※製品に印刷されているニューロンIDを正確に入力してください。
（ニューロンIDはモジュールの注文時に指定が必要です。）

⚠注意

ニューロンIDは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

2. 『検索』をクリックすると「検索中！」画面を表示します。
指定したモジュールのモジュール種別とニューロンIDを表示します。

※SNVTs対応モジュールを登録した場合、モジュール種別の後ろに「@」を表示します。

※WRLモジュールの場合、サブネットNoは“1”、モジュールNoはモジュールに設定（ディップスイッチ）してある値を表示します。
またLonMakerで登録したモジュールの場合、すでにモジュールに設定してあるサブネットNo／モジュールNoを表示します。
（この場合、サブネットNo／モジュールNoの変更はできません。）

※LonMakerで登録したモジュールを使用する場合、LonMakerの設定でドメインID=01、ドメイン長=1バイトに設定して登録をする必要があります。01以外で登録した場合本プログラムで登録できません。

⚠注意

下記のリアルリンクツールを使用する場合、サブネットNoを（1～5）の範囲で設定してください。

- ・リアルリンクモニタ（WRS-MON）
- ・DDEサーバー（WRS-DDE）
- ・パラメータ設定ツール（WRS-PMD-2）
- ・蓄積設定ツール（WRS-PMS バージョン3.04以前）

3. サブネットNoを（1～9）の範囲で入力してください。

4. モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

⚠注意

サブネットNo／モジュールNoは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

※サブネットNo／モジュールNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

【４】モジュール名称（全角最大４文字／半角最大８文字）、
コメント（全角最大２０文字／半角最大４０文字）を入力してください。

【５】『登録』をクリックしてください。「登録完了」とメッセージを表示します。

⚠注意

WKD／WRMC／WCD／WKMシリーズを本プログラムで登録後CT／PT設定を
変更した場合は再登録する必要があります。

再登録については８６ページを参照してください。

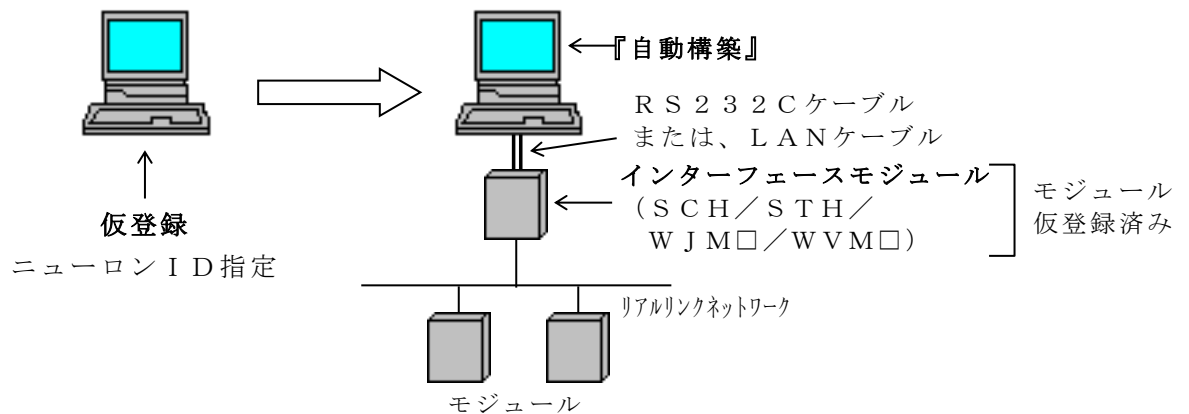
8-2-3-2. 仮登録

ニューロンIDで登録する場合、『仮登録』ができます。

仮登録する時、インターフェースモジュール（SCH/STH/WJM□/WVM□）とパソコンがRS232Cケーブル/LANケーブルで接続されている必要はありません。

『自動構築』をする時に、接続してください。

※インターフェースモジュール（SCH/STH/WJM□/WVM□）を先に仮登録してください。



※仮登録は、『自動構築』をすると登録できます。

(自動構築については、『8-3-1. 自動構築』を参照してください。)

- 【1】「モジュール登録」画面のタブより『モジュール』を指定してください。
下記の画面を表示します。

モジュール登録ツール

ファイル(F) 設定(O) ツール(T) ヘルプ(H)

【モジュール】 CH/STH LGL WJM/WVM/WTM

インターフェース

ネットワークNo:

登録方法

☒ サービスピン

☐ ニューロンID指定 ☐ 仮登録

モジュール情報

モジュール種別:

サブネットNo: モジュールNo: 検索

ニューロンID:

モジュール名称:

コメント:

一覧リスト 削除 登録

その他のモジュールを登録する場合に選択します。

モジュールを登録します。

モジュール登録情報を削除します。

モジュール登録情報のリストを表示します。

- 【2】ニューロンIDを選択し、『仮登録』にチェックをしてください。

【3】ニューロンIDを入力してください。（12桁）

（半角の数字、アルファベットA～F（半角の大文字））

※製品に印刷されているニューロンIDを正確に入力してください。

（ニューロンIDはモジュールの注文時に指定が必要です。）

⚠注意

ニューロンIDは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

【4】サブネットNoを（1～9）の範囲で入力してください。

【5】モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

⚠注意

サブネットNo／モジュールNoは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

⚠注意

- ・WRLモジュールまたは、LonMakerで登録したモジュール以外を仮登録する場合、サブネットNo／モジュールNoは入力しなくても構いません。
- ※サブネットNoとモジュールNoを指定しないで『自動構築』を行なった場合、サブネットNo／モジュールNoは自動的に割り当てられ登録されます。（自動構築については、『8-3-1. 自動構築』を参照してください。）

⚠注意

LonMakerで登録したモジュールを使用する場合、LonMakerの設定でドメインID=01、ドメイン長=1バイトにして登録する必要があります。01以外で登録した場合、本プログラムでは登録できません。

【6】モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、

コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。

【7】『登録』をクリックしてください。「仮登録完了」とメッセージを表示します。

⚠注意

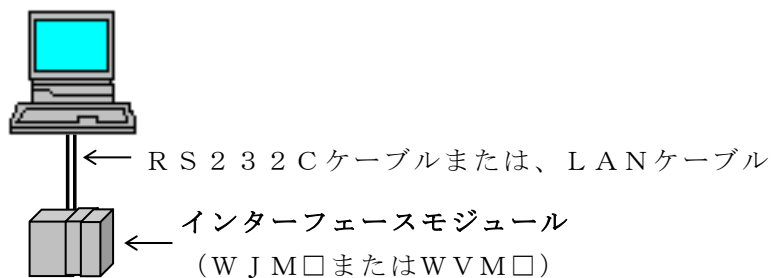
電力マルチメータ（WKM）はジョイントモジュール（WJM□）をインターフェースにしないと正しく登録できません。
登録しても、その他のリアルリンクツールで正しく認識できません。

8-2-4. WJM/WVM/WTM

WJMまたはWVMまたはWTMを登録します。

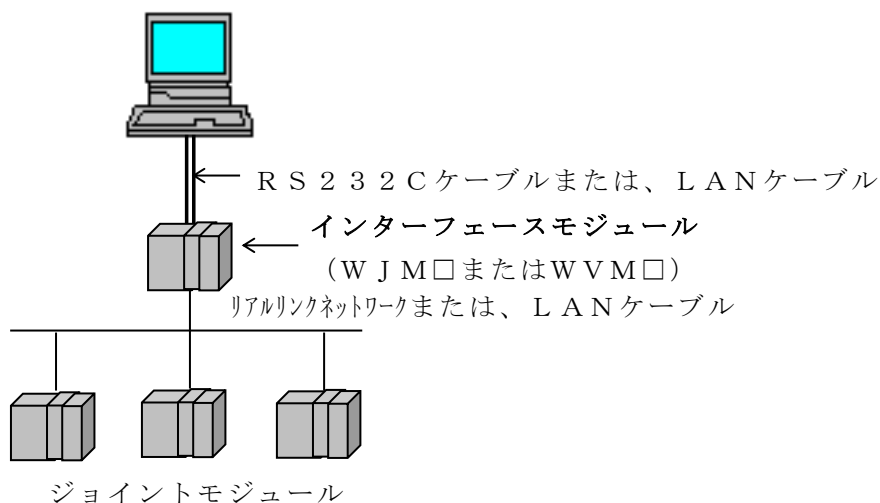
8-2-4-1. 登録

インターフェースモジュールとして登録する場合、WJM□またはWVM□とパソコンをRS232Cケーブル/LANケーブルで接続してください。

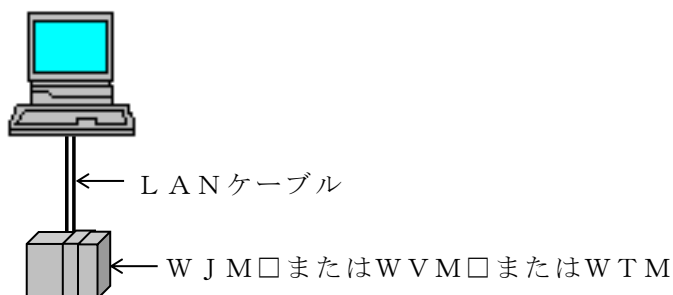


インターフェースモジュール (WJM□またはWVM□) を使用してリアルリンクネットワーク上、イーサネット上にWJM□またはWVM□を登録する場合、インターフェースモジュールを先に登録してください。

モジュールを接続して登録する場合、インターフェースモジュールとパソコンをRS232Cケーブル/LANケーブルで接続してください。



インターフェースを使用しないで登録する場合、または、WTMを登録する場合は、登録するWJM□またはWVM□またはWTMとパソコンをLANケーブルで接続してください。



- 【1】「モジュール登録」画面のタブより『WJM/WVM/WTM』を指定してください。
下記の画面を表示します。

ジョイントモジュールを登録する場合、選択します。

モジュール登録ツール

ファイル(F) 設定(C) ツール(T) ヘルプ(H)

モジュール SCH/STH LGL **WJM/WVM/WTM**

形式選択
☒ WJM ☐ WVM ☐ WTM

登録方法
☒ インターフェースとして登録
☐ インタフェースを使用して登録
 インターフェース
☐ インターフェースを使用しないで登録
 (イーサネット登録のみ)

接続
☒ RS232C COM1 ☐ TEL
☐ イーサネット ☒ IP

☐ 仮登録 検索

モジュール情報
モジュール種別:
ネットワークNo
サブネットNo、モジュールNoを使用する
 サブネットNo モジュールNo
 ニューロンID
IPアドレスを使用する
 IP
モジュール名称
コメント

一覧リスト 削除 登録

モジュールを登録します。
モジュール登録情報を削除します。
モジュール登録情報のリストを表示します。

【2】形式選択を選択してください。

『WJM』または『WVM』または『WTM』を選択します。

【3】登録方法を選択してください。

○インターフェースとして登録

1. 『登録方法』欄から「インターフェースとして登録」を選択してください。

2. 「接続」欄からジョイントモジュールと接続した接続形態を選択してください。

(i) RS232Cケーブルで接続時

RS232Cを選択後、接続したCOMポート（COM1～COM5）を選択してください。

COM3～COM5は、RS232C拡張ボードを使用している時に有効です。

リモートで登録する場合は「TEL」の□をチェックした後に電話番号を指定してください。

(ii) LANで接続時

イーサネットを選択後、ジョイントモジュールに設定したIPアドレスを入力してください。

※WVMを選択した場合WANのIPアドレスを入力してください。

(iii) WANで接続時

イーサネットを選択後、ジョイントモジュールに設定したIPアドレスを入力してください。

ポートNoは16141または16142を入力してください。

3. 『検索』をクリックすると「検索中！」画面を表示します。

接続されているジョイントモジュールのモジュール種別を取得します。

ジョイントモジュールの種別によりジョイントモジュール情報欄の表示内容が異なります。

(i) RS232Cケーブルで接続時

・ WJM□-Aの場合

サブネットNo、モジュールNo、ニューロンID、IPアドレスを表示します。

ジョイントモジュール情報

モジュール種別: ジョイントLAN-232C-LON

ネットワークNo

サブネットNo、モジュールNoを使用する

サブネットNo モジュールNo

ニューロンID

IPアドレスを使用する

IP . . .

モジュール名称

コメント

- WJM□-Bの場合

I Pアドレスを表示します。

ジョイントモジュール情報	
モジュール種別:	ジョイントLAN-232C
ネットワークNo	
I Pアドレスを使用する	
I P	192 . 168 . 1 . 10
モジュール名称	
コメント	

- WJM□-Cの場合

サブネットNo、モジュールNo、ニューロンIDを表示します。

ジョイントモジュール情報	
モジュール種別:	ジョイント232C-LON
ネットワークNo	
サブネットNo、モジュールNoを使用する	
サブネットNo	
モジュールNo	
ニューロンID	123456789ABC
モジュール名称	
コメント	

- WVM□-Aの場合

サブネットNo、モジュールNo、ニューロンIDを表示します。

ジョイントモジュール情報	
モジュール種別:	ジョイントLAN-232C-LON WVM
ネットワークNo	
サブネットNo、モジュールNoを使用する	
サブネットNo	
モジュールNo	
ニューロンID	00A410270801
モジュール名称	
コメント	

・WVM□ーBの場合

ジョイントモジュール情報

モジュール種別: ジョイントLAN-232C WVM

ネットワークNo

モジュール名称

コメント

(ii) LANケーブルで接続時

サブネットNo、モジュールNo、ニューロンIDを表示します。

ジョイントモジュール情報

モジュール種別: ジョイントLAN-232C-LON

ネットワークNo

サブネットNo、モジュールNoを使用する

サブネットNo モジュールNo

ニューロンID

モジュール名称

コメント

※LonMakerで登録したモジュールの場合、すでにモジュールに設定してあるサブネットNo／モジュールNoを表示します。
(この場合、サブネットNo／モジュールNoの変更はできません。)

※LonMakerで登録したモジュールを使用する場合、
LonMakerの設定でドメインID=01、ドメイン長=1バイト
に設定して登録をする必要があります。
01以外で登録した場合本プログラムで登録できません。

4. ネットワークNoを(1～300)の範囲で入力してください。

5. サブネットNo入力欄が表示されている場合、サブネットNoを(1～9)の範囲で入力してください。

6. モジュールNo入力欄が表示されている場合、モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

△注意

サブネットNo／モジュールNoは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

7. IPアドレス入力欄が表示されている場合、IPアドレスを入力してください。

8. モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。

9. 『登録』をクリックしてください。「登録完了」とメッセージを表示します。

○インターフェースを使用して登録

1. 『登録方法』から「インターフェースを使用して登録」を選択してください。

2. インターフェースモジュールを選択してください。ネットワークNoを表示します。

※ インターフェースモジュールが、「RS232C」接続で登録したWJM□-A/WVM□-Aのジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「イーサネット」、「LONWORKS」が設定可能になります。

※ インターフェースモジュールが「イーサネット」接続で登録したジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「LONWORKS」が設定可能になります。

※ インターフェースモジュールが、「RS232C」接続で登録したWJM□-B/WVM□-Bのジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「イーサネット」が設定可能になります。

※ インターフェースモジュールが、「RS232C」接続で登録したWJM□-Cのジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「LONWORKS」が設定可能になります。

3. 接続方法を選択してください。

(i) イーサネットを選択した場合

① ジョイントモジュール情報欄のサブネットNo、モジュールNo、「サブネットNo、モジュールNoを使用する」、「IPアドレスを使用する」、IPアドレスを非表示にします。

ジョイントモジュール情報

モジュール種別: ジョイントLAN-232C-LON

ネットワークNo

モジュール名称

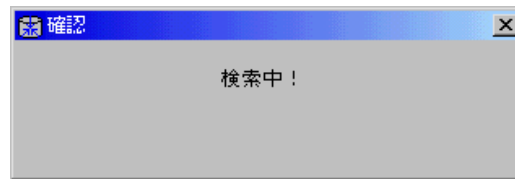
コメント

② 『接続』欄のIPアドレスに、ジョイントモジュールに設定されているIPアドレスを入力してください。

③ 『検索』をクリックすると「検索中！」画面を表示します。
接続されているジョイントモジュールのモジュール種別を表示します。

(ii) LONWORKSを選択後、サービスピンを選択した場合

- ① 『検索』をクリックし、下記の画面が表示されるのでリアルリンク上の登録するモジュールのサービスピンを押します。



指定したモジュールのサービスピンを押すと、モジュール種別とニューロンIDを表示します。

※LonMakerで登録したモジュールの場合、すでにモジュールに設定してあるサブネットNo/モジュールNoを表示します。
(この場合、サブネットNo/モジュールNoの変更はできません。)

※LonMakerで登録したモジュールを使用する場合、
LonMakerの設定でドメインID=01、ドメイン長=1バイトに設定して登録をする必要があります。01以外で登録した場合本プログラムで登録できません。

(iii) LONWORKSを選択後、ニューロンID指定を選択した場合

- ① ニューロンIDを入力してください。(12桁)
(入力文字: 半角の数字、アルファベットのA~F(半角の大文字))
※製品に印刷されているニューロンIDを正確に入力してください。
(ニューロンIDはジョイントモジュール注文時に指定が必要です)

△注意

ニューロンIDは、全てのネットワーク上で重複しないIDになっています。

- ② 『検索』をクリックすると「検索中!」画面を表示します。
指定したモジュールのモジュール種別とニューロンIDを表示します。
※LonMakerで登録したモジュールの場合、すでにモジュールに設定してあるサブネットNo/モジュールNoを表示します。
(この場合、サブネットNo/モジュールNoの変更はできません。)
- ※LonMakerで登録したモジュールを使用する場合、
LonMakerの設定でドメインID=01、ドメイン長=1バイトに設定して登録をする必要があります。01以外で登録した場合本プログラムで登録できません。

ジョイントモジュール情報

モジュール種別: ジョイント232C-LON

ネットワークNo

サブネットNo モジュールNo

ニューロンID

モジュール名称

コメント

4. サブネットNoを（1～9）の範囲で入力してください。

5. モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

⚠注意

サブネットNo／モジュールNoは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

6. モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、
コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。

7. 『登録』をクリックしてください。「登録完了」とメッセージを表示します。

○インターフェースを使用しないで登録

1. 『登録方法』欄から「インターフェースを使用しないで登録」を選択してください。
2. 『接続』欄からジョイントモジュールまたはW T Mと接続した接続形態を選択してください。

(i) L A Nで接続

「 I P」を選択し、ジョイントモジュールまたはW T Mに設定されている I Pアドレスを入力してください。

※W V Mを選択した場合は、W A Nにも I Pアドレスを入力してください。

(ii) W A Nで接続

「W A N」を選択し、W V MまたはW T Mが接続されているルーターの I Pアドレスを入力してください。

※W V Mを選択した場合ポート N o は 16141 または 16142 を入力してください。

※W T Mを選択した場合W T MのW e b 機能で設定したポート N o を入力してください。

W T MのW e b 機能についてはW e b 対応エネルギー監視モジュール取扱説明書（仕様編）とW e b 対応エネルギー監視モジュール取扱説明書（設置・設定編）を参照してください。

3. 『検索』をクリックすると「検索中！」画面を表示します。
指定したモジュールのモジュール種別を表示します。
4. モジュール名称（全角最大 4 文字／半角最大 8 文字）、
コメント（全角最大 2 0 文字／半角最大 4 0 文字）を入力してください。
5. 『登録』をクリックしてください。「登録完了」とメッセージを表示します。

⚠注意

W T Mは「インターフェースを使用しないで登録」のみ選択可能となりますのでご注意ください。

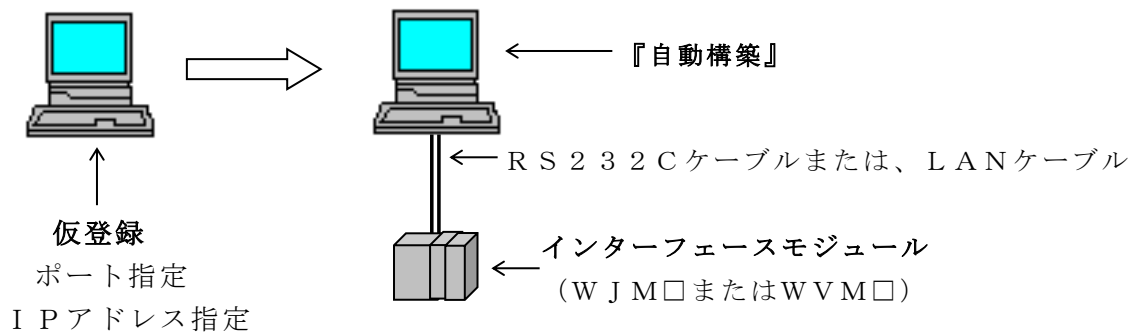
⚠注意

イーサネット上に接続してあるW T MをW R S－V S Sを使用して蓄積データを収集する場合は、接続形態でW A Nを選択してW T Mに設定してある I Pアドレスとポート N o を入力してモジュール登録を行ってください。

8-2-4-2. 仮登録

WJM□またはWVM□をインターフェースモジュールとして仮登録する場合、インターフェースモジュール（WJM□またはWVM□）とパソコンがRS232Cケーブル/LANケーブルで接続する必要はありません。

『自動構築』する時に、接続してください。



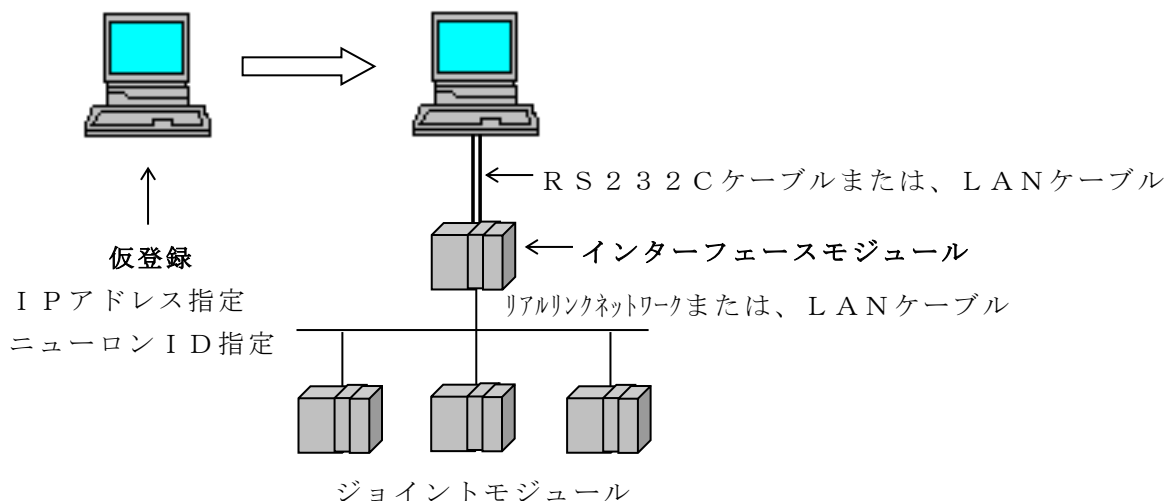
⚠ 注意

『接続』欄の「RS232C」選択時、仮登録は1ネットワークに対して1台しか出来ません。

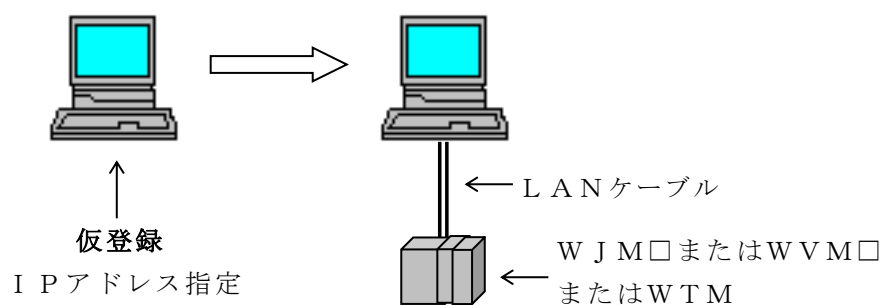
インターフェースモジュール（WJM□またはWVM□）を使用してWJM□またはWVM□をイーサネット接続で登録する場合、またはLONWORKS接続のニューロンID指定で登録する場合、『仮登録』が出来ます。

仮登録する場合、インターフェースモジュールとパソコンがRS232Cケーブル/LANケーブルで接続されている必要はありません。

『自動構築』をする時に、接続してください。



インターフェースを使用しないで仮登録する場合、登録するW J M□またはW V M□またはW T MとパソコンをL A Nケーブルで接続する必要はありません。
『自動構築』をする時に、接続してください。



※仮登録は、『自動構築』をすると登録出来ます。
(自動構築については、『8－3－1．自動構築』を参照してください。)

- 【1】「モジュール登録」画面のタブより『WJM/WVM/WTM』を指定してください。
下記の画面を表示します。

【2】形式選択を選択してください。

『WJM』または『WVM』または『WTM』を選択します。

【3】『登録方法』を選択してください。

○ インターフェースとして登録

1. 『接続』欄からジョイントモジュールと接続する接続形態を選択してください。

(i) RS232Cケーブルで接続時

RS232Cを選択後、接続したCOMポート（COM1～COM5）を選択してください。

COM3～COM5は、RS232C拡張ボードを使用している時に有効です。

(ii) LANで接続時

イーサネットを選択後、ジョイントモジュールに設定したIPアドレスを入力してください。

※WVMを選択した場合WANのIPアドレスを入力してください。

(iii) WANで接続時

イーサネットを選択後、ジョイントモジュールに設定したIPアドレスを入力してください。

ポートNoは16141または16142を入力してください

3. 『仮登録』をチェックしてください。

4. ネットワークNoを（1～300）の範囲で入力してください。

※ネットワークNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

5. サブネットNoを（1～9）の範囲で入力してください。

6. モジュールNoを（1～126）の範囲で入力してください。

※サブネットNo、モジュールNoの設定については『第2章 動作条件』を参照してください。

※WJM□-B/WVM□-Bのジョイントモジュールを仮登録する場合、サブネットNo、モジュールNoを入力する必要はありません。

7. モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。

8. 『登録』をクリックしてください。「仮登録完了」とメッセージを表示します。

○ インターフェースを使用して登録

1. インターフェースモジュールを選択してください。ネットワークNoを表示します。

- ※ インターフェースモジュールが、「RS232C」接続で登録したWJM□-A/WVM□-Aのジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「イーサネット」、「LONWORKS」が設定可能になります。
- ※ インターフェースモジュールが、「イーサネット」接続で登録したジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「LONWORKS」が設定可能になります。
- ※ インターフェースモジュールが、「RS232C」接続で登録したWJM□-B/WVM□-Bのジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「イーサネット」が設定可能になります。
- ※ インターフェースモジュールが、「RS232C」接続で登録したWJM□-Cのジョイントモジュールの場合、『接続』欄は「LONWORKS」が設定可能になります。

2. 接続方法を選択してください。

(i) イーサネットを選択した場合

- ① ジョイントモジュール情報欄のサブネットNo、モジュールNo、「サブネットNo、モジュールNoを使用する」、「IPアドレスを使用する」、IPアドレスを非表示にします。
- ② 接続欄のIPアドレスに、ジョイントモジュールに設定されているIPアドレスを入力してください。

(ii) LONWORKSを選択後、ニューロンID指定を選択した場合

- ① ニューロンIDを入力してください。(12桁)
(入力文字: 半角の数字、アルファベットのA~F(半角の大文字))
※製品に印刷されているニューロンIDを正確に入力してください。
(ニューロンIDはジョイントモジュール注文時に指定が必要です)

△注意

ニューロンIDは、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

3. 『仮登録』をチェックしてください。
4. サブネットN o 入力欄が表示されている場合、サブネットN o を（1～9）の範囲で入力してください。
5. モジュールN o 入力欄が表示されている場合、モジュールN o を（1～126）の範囲で入力してください。

△注意

サブネットN o /モジュールN o は、全てのネットワーク上で重複しないように設定してください。

6. モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。
7. 『登録』をクリックしてください。
「仮登録完了」とメッセージを表示します。

○ インターフェースを使用しないで登録

1. 『登録方法』欄から「インターフェースを使用しないで登録」を選択してください。
2. 『接続』欄からジョイントモジュールまたはW T Mと接続した接続形態を選択してください。

（i）LANケーブルで接続

「I P」を選択し、ジョイントモジュールまたはW T Mに設定されているI Pアドレスを入力してください。

※W V Mを選択した場合は、W A NにもI Pアドレスを入力してください。

（ii）WANで接続

「W A N」を選択し、W V MまたはW T Mが接続されているルーターのI Pアドレスを入力してください。

※W V Mを選択した場合はポートN o は 16141 または 16142 を入力してください。

※W T Mを選択した場合W T MのW e b 機能で設定したポートN o を入力してください。

W T MのW e b 機能についてはW e b 対応エネルギー監視モジュール取扱説明書（仕様編）とW e b 対応エネルギー監視モジュール取扱説明書（設置・設定編）を参照してください。

3. 『仮登録』をチェックしてください。
4. モジュール名称（全角最大4文字／半角最大8文字）、
コメント（全角最大20文字／半角最大40文字）を入力してください。
5. 『登録』をクリックしてください。「仮登録完了」とメッセージを表示します。

⚠注意

WTMは「インターフェースを使用しないで登録」のみ選択可能となりますのでご注意ください。

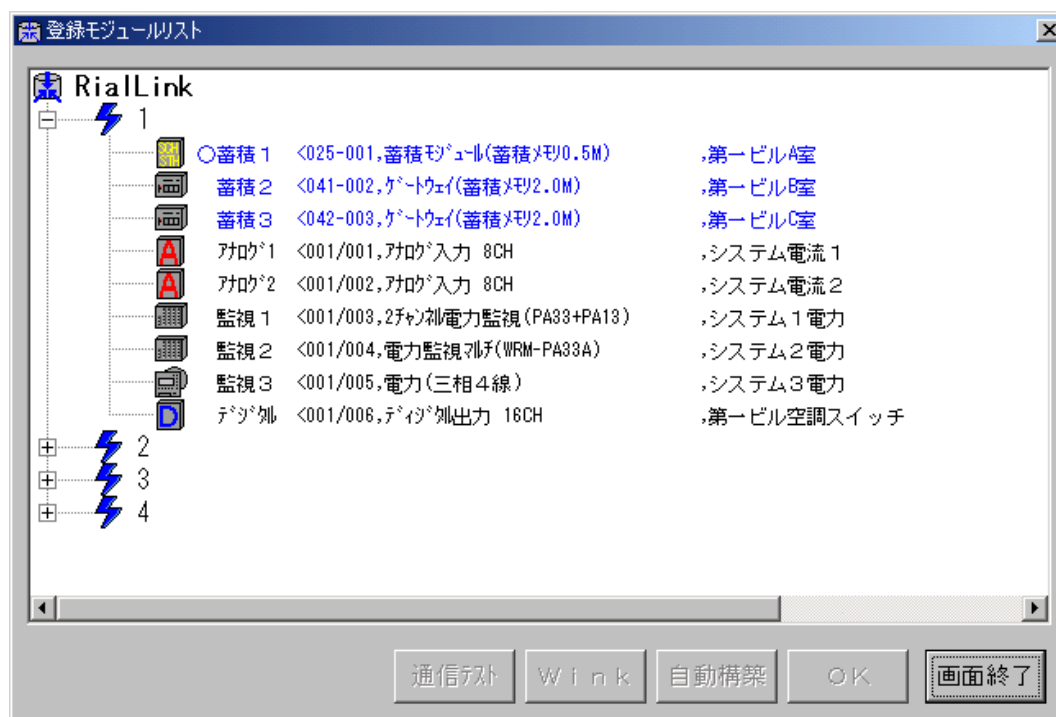
⚠注意

イーサネット上に接続してあるWTMをWRS-VSSを使用して蓄積データを収集する場合は、接続形態でWANを選択してWTMに設定してあるIPアドレスとポートNoを入力してモジュール登録を行ってください。

8-3. モジュールリスト

登録されているモジュールの一覧をリスト表示します。

- 【1】「モジュール登録」画面より『一覧リスト』をクリックすると、
下記の「モジュールリスト」画面を表示します。



・アイコン

- | | |
|--|--|
|  : ネットワーク No |  : アナログ入出力 |
|  : WRT-SCH / WRT-STH |  : デジタル入出力 |
|  : WKD シリーズ / WKM シリーズ | |
|  : 仮登録 | |
|  : WRM / WRMP / WRMC シリーズ / WJM□ / WVM□ | |
|  : 複合モジュール / WRBA-DIO / WRBC | |
|  : WRT-STO |  : WCD シリーズ |
|  : WTM シリーズ | |

・モジュール登録情報フォーマット

モジュール名称< S/N, モジュール種別名, コメント, ニューロンID, XXX >

S/N : インターフェースモジュール = サブネットNo—モジュールNo
 インターフェースを使用しないで登録したモジュール
 = サブネットNo—モジュールNo
 その他のモジュール = サブネットNo/モジュールNo

XXX : WRT—SCH/WRT—STH = COMポートNo
 WJM□/WVM□ = COMポートNo/IPアドレス
 WTM = IPアドレス
 その他のモジュール = なし

※以下のモジュールは、サブネットNo、モジュールNoが『000』と表示されます。

- ・登録時にインターフェースとして登録したジョイントモジュール（WJM□—B / WVM□—B）
- ・登録時にインターフェースを使用して登録をし、かつ接続方法がイーサネットに登録したジョイントモジュール
- ・登録時にインターフェースを使用しないで登録したジョイントモジュールまたはWTM

※SNVTs対応モジュールを登録した場合、モジュール種別の後ろに「@」を表示します。

※仮登録したインターフェースモジュールの登録情報は、サブネットNo/モジュールNo、モジュール種別名、ニューロンIDが、「？」と表示されます。

※電力マルチメータ（PXシリーズ）はモジュール種別名に計測を行う高調波の次数と相の設定状態を表示します。

①モジュール名称	④モジュール種別名	⑦接続状況
②サブネットNo	⑤コメント	
③モジュールNo	⑥ニューロンID	

例) 蓄積モジュール（WRT—STH）登録の場合

蓄積1 < 025—001, 蓄積モジュール（蓄積メモリ1.0M）, 第一ビルA室, 01003D77C400, COM1 >

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

例) 電力マルチメータ (P Xシリーズ) 登録の場合

WKM < 03-021, 高調波電力マルチメータ(单相3線)@高調波:13次:最大相/最大相間,

① ② ③ ④
第一ビルB室, 010173477C40 >
⑤ ⑥

例) パルス入力モジュール (W R B T - P I) 仮登録時の場合

CN8 < ???/???, ? ? ? ? ?, W R B T - P I, 01A594B99100 >

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

【2】 ネットワークNoのアイコンをクリックすると指定したネットワークに
接続されているモジュール一覧を表示します。

「青字」→ インターフェースモジュール

「黄緑字」→ インターフェースを使用しないで登録したモジュール

「黒字」→ その他のモジュール

「赤字」→ 通信異常 (通信テスト後)

「○」 → 通信時に使用するインターフェースモジュール

「?」 → 仮登録されているモジュール

【3】 『通信テスト』、『W i n k』、『自動構築』を行う際にPCとの通信を行う
インターフェースモジュールの指定をします。

PCとの通信を行うインターフェースモジュールは、デフォルトでは
各ネットワークNoに登録されているインターフェースが選択され、
丸が表示されています。

この通信インターフェースを変更する場合は、対象のインターフェースモジュール
をクリックしてください。○が選択したインターフェースモジュールに移動します。

(インターフェースモジュールの設定は、各ネットワークNoに1台のみです)

※『自動構築』の詳細に関しては、P 7 8を参照してください。

※『通信テスト』の詳細に関しては、P 8 0を参照してください。

※『W i n k』の詳細については、P 8 0を参照してください。



○蓄積1 <025-001,蓄積モジュール(蓄積)型1.0M)

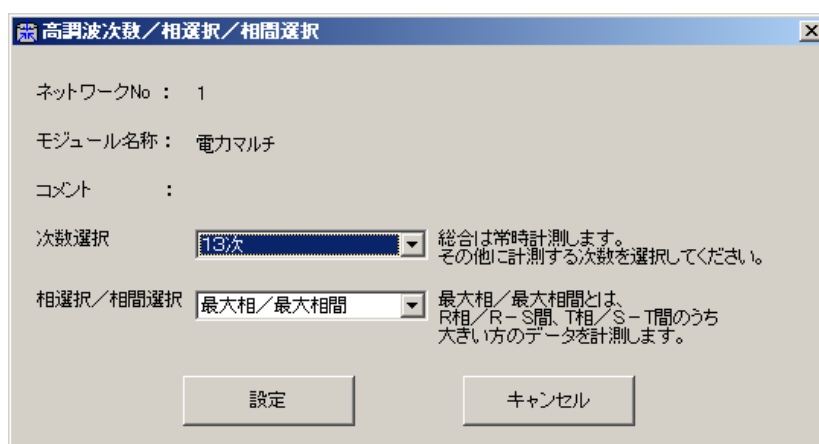
,第一ビルA室

,01003077C400,COM1

- 【4】電力マルチメータ（P Xシリーズ）の高調波計測の次数、相選択／相間選択
- 電力マルチメータ（P Xシリーズ）をリストから選択し、右クリックすると下記図の円内のメニューが表示されます。
- メニューをクリックすると設定画面が表示されます。
- この時モジュールと通信を行い相線区分が異なっていると注意メッセージ「相線区分が変更されています。確認してください」を表示して設定画面は開きません。



図 1



- ネットワークNo：リストで選択したモジュールのネットワークNoが表示されます。
- モジュール名称：リストで選択したモジュールの名称が表示されます。
- コメント：リストで選択したモジュールのコメントが表示されます。
- 次数選択：リストで選択したモジュールの次数が表示されます。
高調波計測の次数を変更する場合は、プルダウンメニューから希望の次数を選択し『設定ボタン』をクリックしてください。
- 相選択／相間選択：リストで選択したモジュールの相選択／相間選択が表示されます。
高調波計測の相選択／相間選択を変更する場合は、プルダウンメニューから希望の相選択／相間選択を選択し、『設定ボタン』をクリックしてください。
- 『設定ボタン』：モジュール本体に対し次数、相／相間の設定を行います。
- 『キャンセル』：設定をキャンセルしてリスト画面に戻ります。

⚠注意

モジュールを交換した際にはモジュールを再登録し、
次数選択、相選択／相間選択の設定も再度設定してください。

- 【5】『画面終了』をクリックすると、「モジュールリスト」画面を終了します。

8-3-1. 自動構築

自動構築は、あらかじめモジュール仮登録した後に、『自動構築』を行うと自動的にアドレス設定を行います。

▲注意

インターフェースモジュール（SCH／STH／WJM□／WVM□）とパソコンを接続してください。

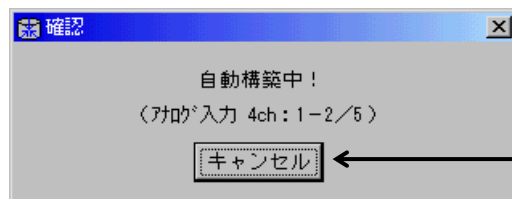
【1】「モジュールリスト」画面より自動構築をするネットワークNoを選択します。

■が表示されているネットワークNoを指定すると『自動構築』のボタンが使用できます。

【2】使用するインターフェースモジュールを選択します。（○を表示します。）

【3】『自動構築』をクリックすると、下記の画面を表示します。

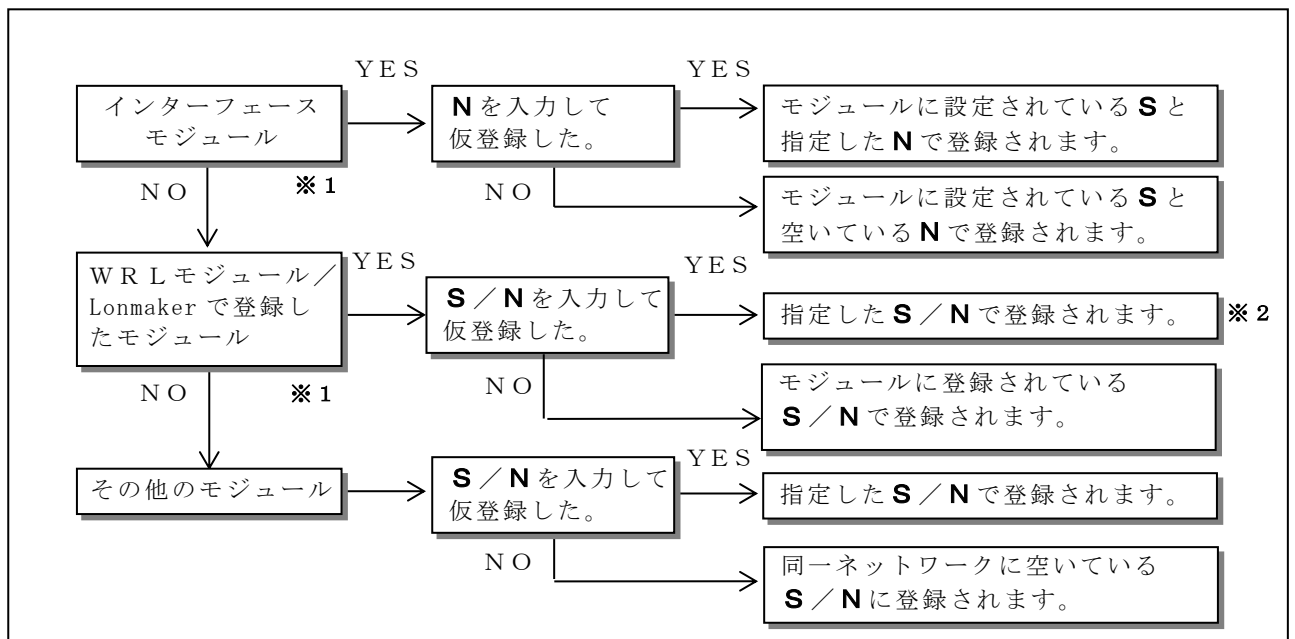
○が表示されているインターフェースモジュールを使用して自動構築を開始します。現在自動構築中の（モジュール名称：ネットワークNoーサブネットNo／モジュールNo）を表示します。



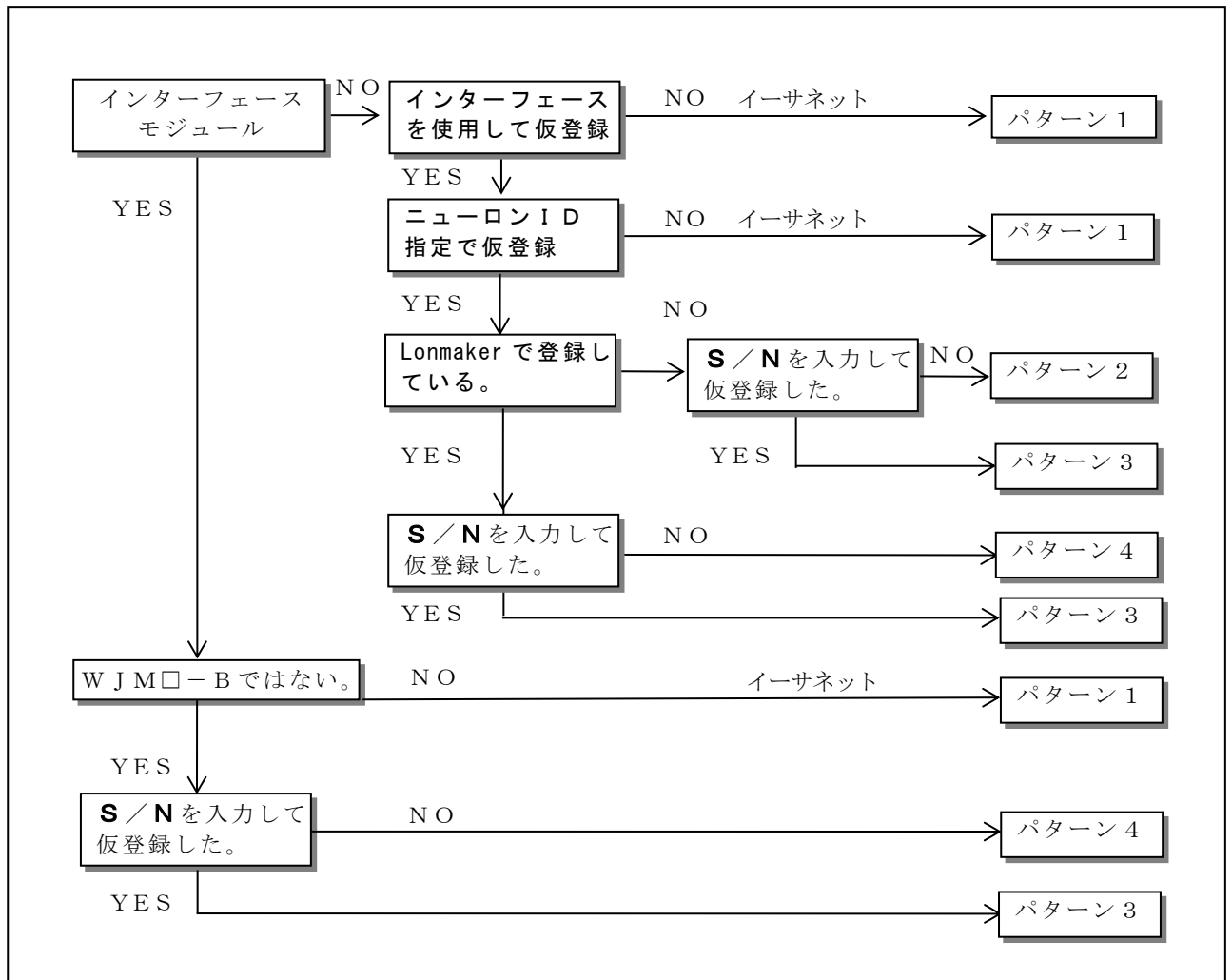
自動構築を中断します。

※登録するモジュールまたは、仮登録の状況によって、サブネットNo／モジュールNoが割り当てられます。

○SCH／STH／その他のモジュールの場合



S = サブネットNo / N = モジュールNo



S = サブネットNo / **N** = モジュールNo

パターン 1・・・設定してあるサブネットNo、モジュールNoは無視されます。

パターン 2・・・モジュールに設定してあるサブネットNo、モジュールNoで登録されます。

パターン 3・・・指定したサブネットNo、モジュールNoで登録されます。

パターン 4・・・空いているサブネットNo、モジュールNoで登録されます。

※1 WRLモジュールのサブネットNoは“1”、モジュールNoはディップスイッチで設定します。また、SCH/STHのサブネットNoはディップスイッチまたは、TELNETで設定します。

※2 WRLモジュールに設定してあるサブネットNo/モジュールNoまたは、LonMakerで登録したモジュールのサブネットNo/モジュールNoと仮登録時のサブネットNo/モジュールNoが一致していない場合、エラーになります。

8－3－2. 通信テスト

通信テストを行います。

【1】「モジュールリスト」画面より通信テストするネットワークNoを選択します。

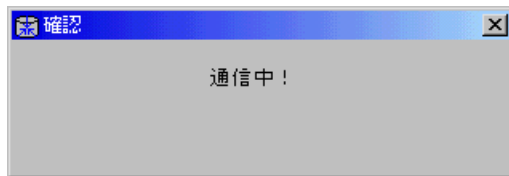
【2】使用するインターフェースモジュールを選択します。（○を表示します。）

【3】『通信テスト』をクリックすると、下記の画面を表示します。

○が表示されているインターフェースモジュールを使用して通信テストを行います。

通信テストが終了するまで、下記の画面を表示します。

通信異常の場合、モジュール登録情報は「赤」で表示します。



※仮登録されているモジュールの通信テストはできません。

8－3－3. W i n k

W i n kを指定します。

【1】「モジュールリスト」画面よりW i n kするネットワークNoを選択します。

【2】使用するインターフェースモジュールを選択します。（○を表示します。）

【3】W i n kするモジュールを指定します。

※シリアル変換モジュール（WRS－SCH）または、蓄積モジュール

（WRT－STH）を指定しても『W i n k』のボタンは使用できません。

※WJM□、WVM□、WTMの場合指定が可能になります。

【4】『W i n k』をクリックします。

○が表示されているインターフェースモジュールを使用して、
選択したモジュールのステータスLEDが10秒間点滅します。

8-4. モジュール登録情報変更

登録されているモジュール登録情報の内容を変更します。

※蓄積設定がある時は蓄積設定情報の変更を行います。

8-4-1. インターフェースモジュール(SCH/STH)の場合

△注意

モジュールより先にインターフェースモジュール (SCH/STH/WJM□/WVM□) のネットワークNoを変更することはできません。

- 【1】「モジュールリスト」画面よりモジュール登録情報を変更する
インターフェースモジュールを指定後、『OK』をクリックします。
- 【2】指定したインターフェースモジュールのモジュール登録情報を
「8-2 モジュール登録」の各登録画面に表示します。
- 【3】モジュール登録情報の変更ができます。
※ネットワーク内にインターフェースモジュールが1台で、その他の
モジュールが1台以上あった場合、ネットワークNoは変更できません。
※モジュールNo、モジュール名称は重複しないように設定してください。
- 【4】『登録』をクリックします。
- 【5】モジュール登録情報を変更完了するまでに「インターフェースモジュール、
モジュールNo変更確認メッセージ」を表示します。

※モジュール登録情報を変更すると「登録完了」とメッセージを表示します。

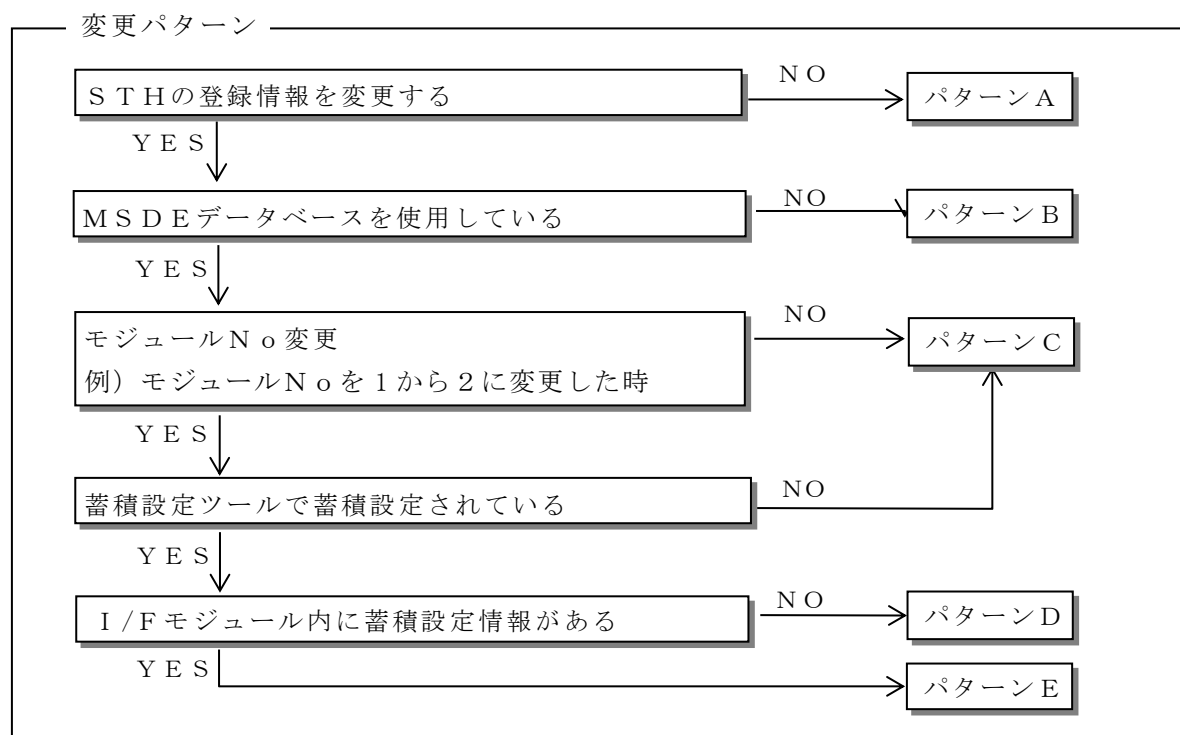
※インターフェースモジュール (SCH/STH) のモジュールNo、モジュール名称、コメントの変更を行う場合は、インターフェースモジュールと接続する必要はありません。

仮登録の場合

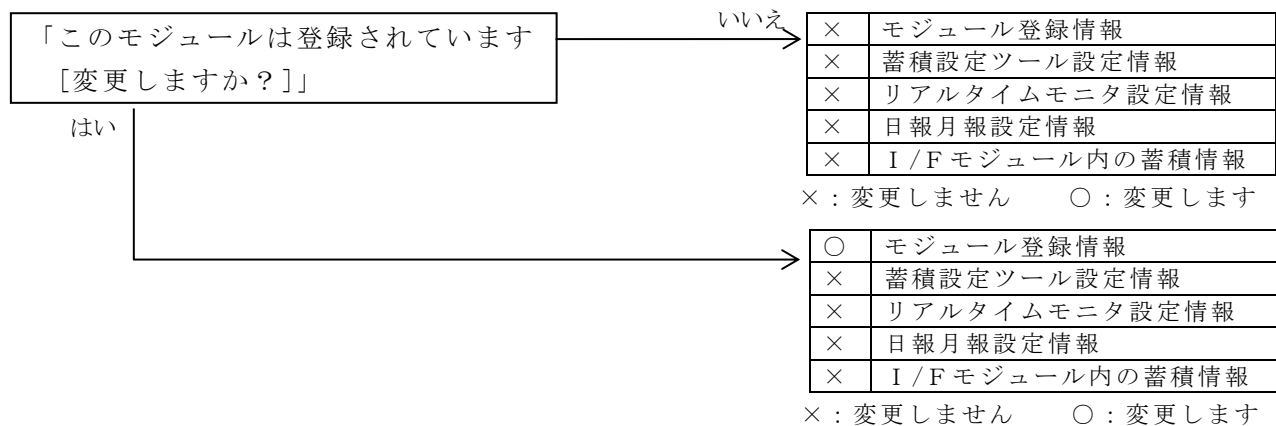
モジュール名称とコメントのみが変更できます。

IPアドレスを変更する場合は、一度モジュール登録情報を削除してから再度、登録をしてください。

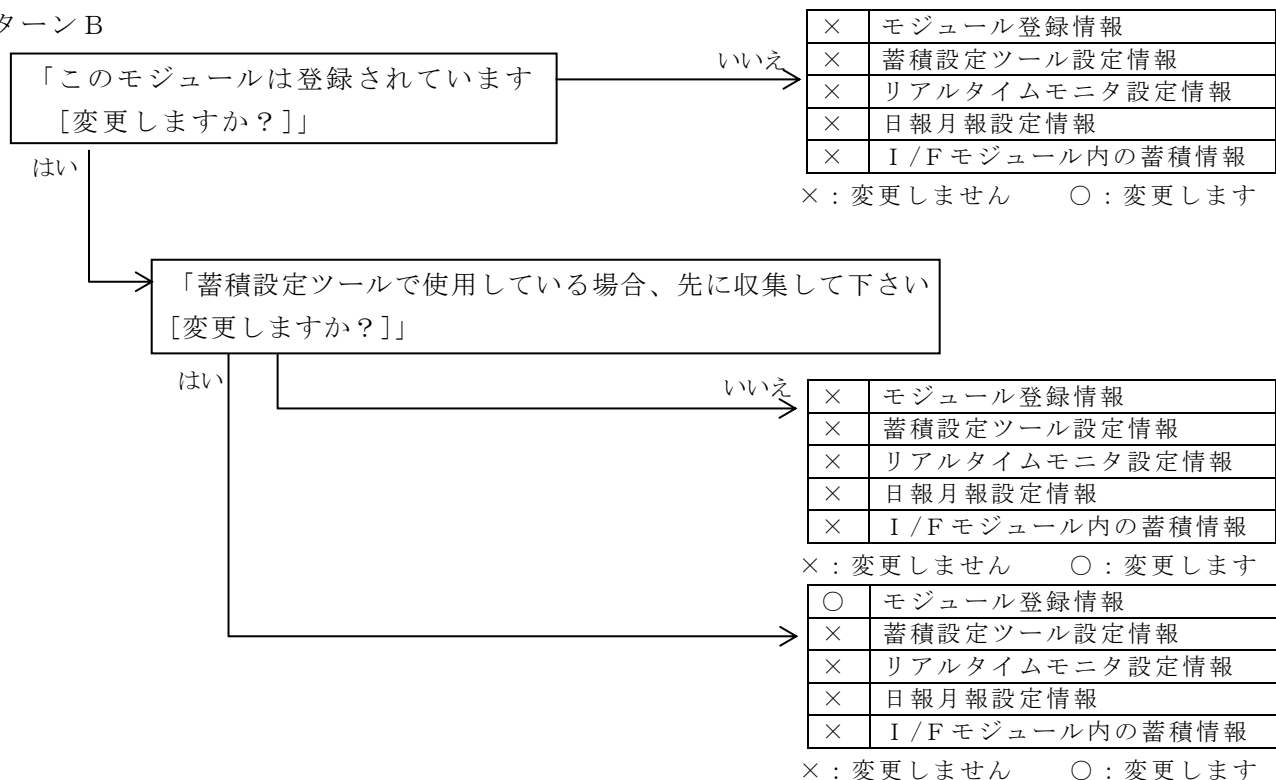
「インターフェースモジュール、モジュールNo変更確認メッセージ」について



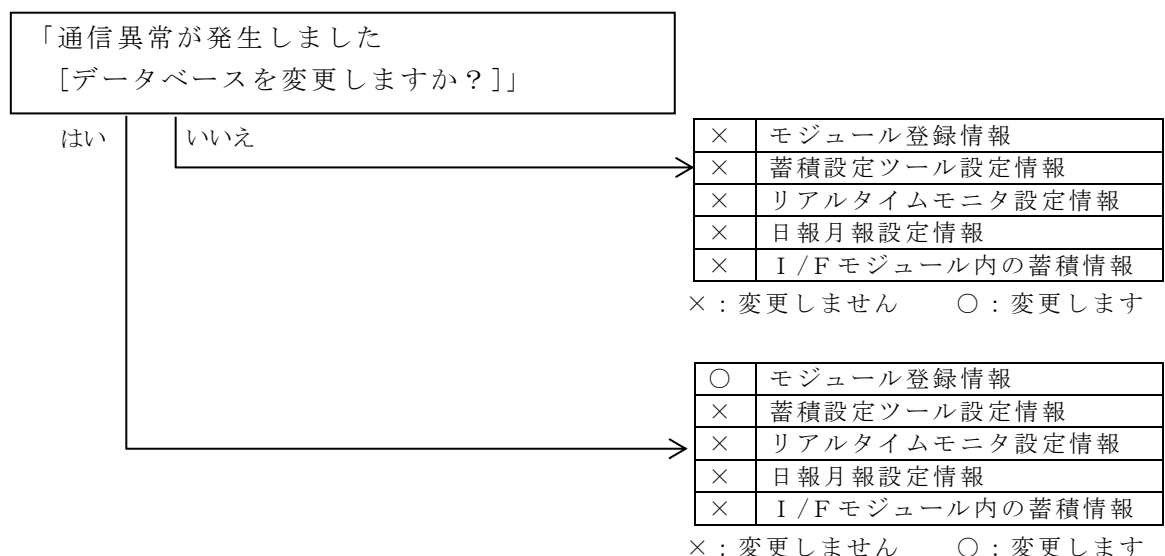
パターンA



パターンB



※上記のパターンでインターフェースモジュール通信異常の時



パターンC

「このモジュールは登録されています
[変更しますか?]

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

はい

「蓄積設定ツールで使用している場合、先に収集して下さい
[変更しますか?]

はい

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

○	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
○	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

パターンD

「このモジュールは登録されています
[変更しますか?]

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

はい

「蓄積情報も変更しますか?]

はい

いいえ

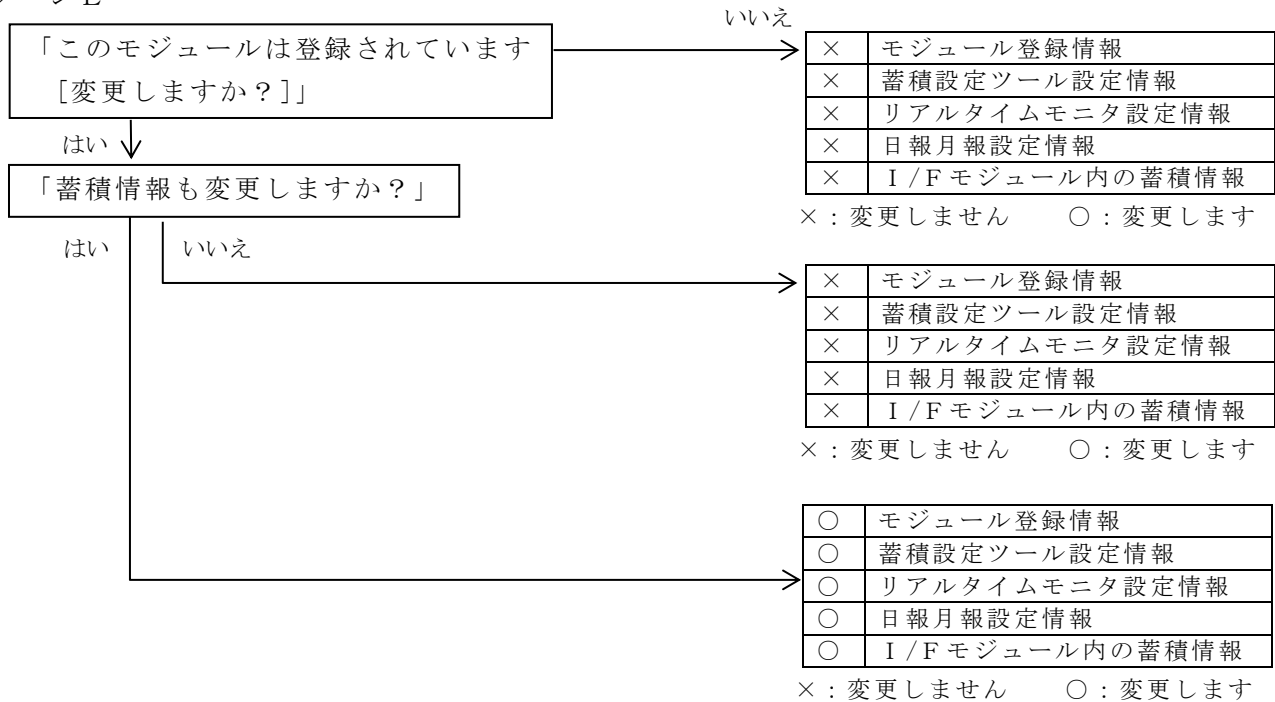
×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

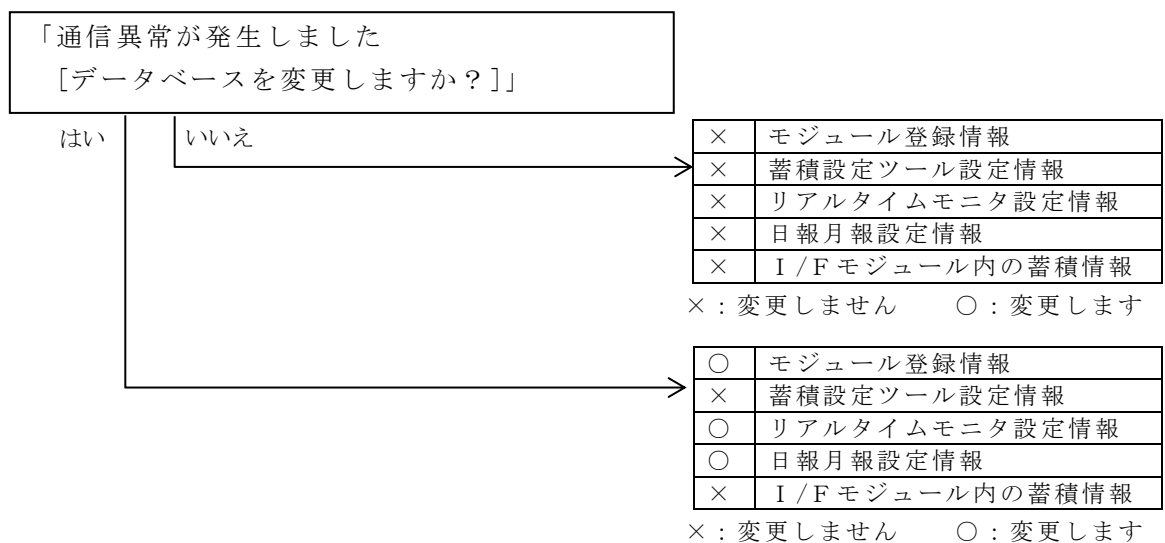
○	モジュール登録情報
○	蓄積設定ツール設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
○	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

パターン E



※上記のパターンでインターフェースモジュール通信異常の時



8-4-2. モジュールの場合

⚠注意

モジュールより先にインターフェースモジュール（SCH／STH／WJM□／WVM□）のネットワークNoを変更することはできません。

⚠注意

WKD／WRMC／WCD／WKMシリーズを本プログラムで登録後CT／PT設定を変更した場合は再登録する必要があります。

- ・電力量単位がMWhからkWhに変更になった場合。
- ・電力量単位がkWhからmWhに変更になった場合。

以上2点に該当する場合に必要な作業になります。

電力量単位が変更にならない場合は再登録を行う必要はありません。

⚠注意

再登録時はモジュールのリセットが行われます。

（サブネットNo×0.2秒）＋（モジュールNo×1秒）の間、

WRBA／WRBC／WRBT／WRLのデジタル出力、ディスクリット出力のリアルリンクネットワーク通信は行われません。

- 【1】「モジュールリスト」画面よりモジュール登録情報を変更するモジュールを指定後、『OK』をクリックします。
- 【2】指定したモジュールのモジュール登録情報が「モジュール登録」画面に表示されます。
- 【3】モジュール登録情報の変更ができます。
※サブネットNo／モジュールNo、モジュール名称は重複しないように設定してください。
- 【4】『登録』をクリックします。
- 【5】モジュール登録情報を変更完了する前に下記のメッセージを表示します。
●モジュール登録情報変更確認メッセージ

「このモジュールは登録されています[変更しますか?]

→ いいえ：モジュール登録情報は変更されません。

→ はい：「登録完了」

※モジュール名称、コメントの変更を行う場合は、モジュールと接続する必要はありません。

※EcoREAL（WRS-EMS）を使用している場合

下記のメッセージを表示します。

「蓄積している場合、蓄積設定ツールの一括設定で「モジュール名称が変更されています」のエラーが発生しないことを確認してください。」

仮登録の場合

モジュール名称、コメント、サブネットNo、モジュールNoの変更ができます。
ニューロンIDを変更する場合は、一度モジュール登録情報を削除してから再度、登録をしてください。

8-4-3. WJM□/WVM□/WTMの場合

⚠注意

モジュールより先にインターフェースとして登録したジョイントモジュール（WJM□/WVM□）のネットワークNoを変更することはできません。

⚠注意

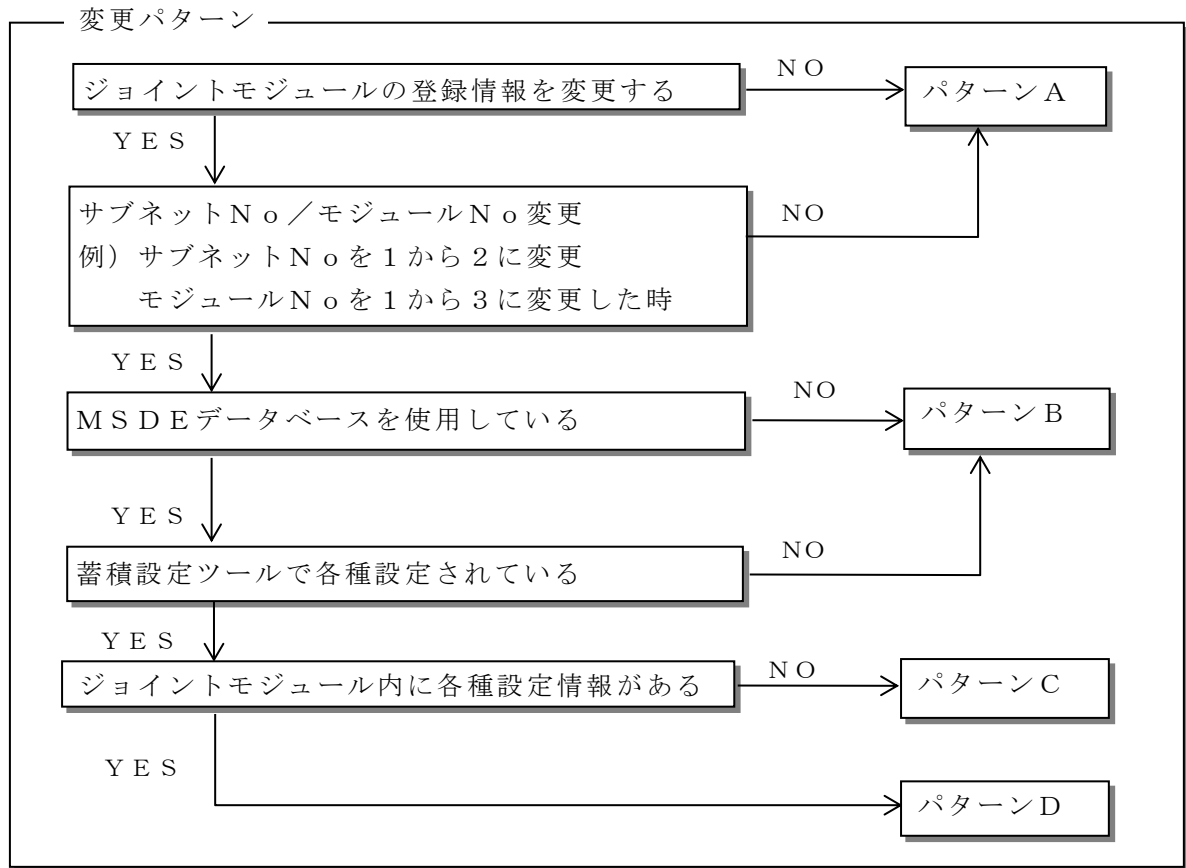
再登録時はモジュールのリセットが行われます。
（サブネットNo×0.2秒）＋（モジュールNo×1秒）の間、
WJFのデジタル出力のリアルリンクネットワーク通信は行われません。

- 【1】「登録モジュールリスト」画面よりモジュール登録情報を変更する
ジョイントモジュールまたはWTMを指定後、『OK』をクリックします。
- 【2】指定したジョイントモジュールまたはWTMのモジュール登録情報を、
「モジュール登録」画面に表示します。
- 【3】モジュール登録情報の変更ができます。
 - ※ネットワーク内にインターフェースモジュールが1台で、その他のモジュールが1台以上あった場合、ネットワークNoは変更できません。
 - ※サブネットNo、モジュールNo、モジュール名称は重複しないように設定してください。
 - ※ネットワーク内にインターフェースを使用して登録された
ジョイントモジュールが存在し、インターフェースとして使用できる
ジョイントモジュールが1台の場合、該当するインターフェースモジュールを
先に削除することは出来ません。
- 【4】『登録』をクリックします。
- 【5】モジュール登録情報の変更を確認するメッセージを表示します。
 - ※モジュール登録情報を変更すると「登録完了」とメッセージを表示します。
 - ※EcoRIAL（WRS-EMS）を使用している場合
下記のメッセージを表示します。
「蓄積している場合、蓄積設定ツールの一括設定で「モジュール名称が
変更されています」のエラーが発生しないことを確認してください。」

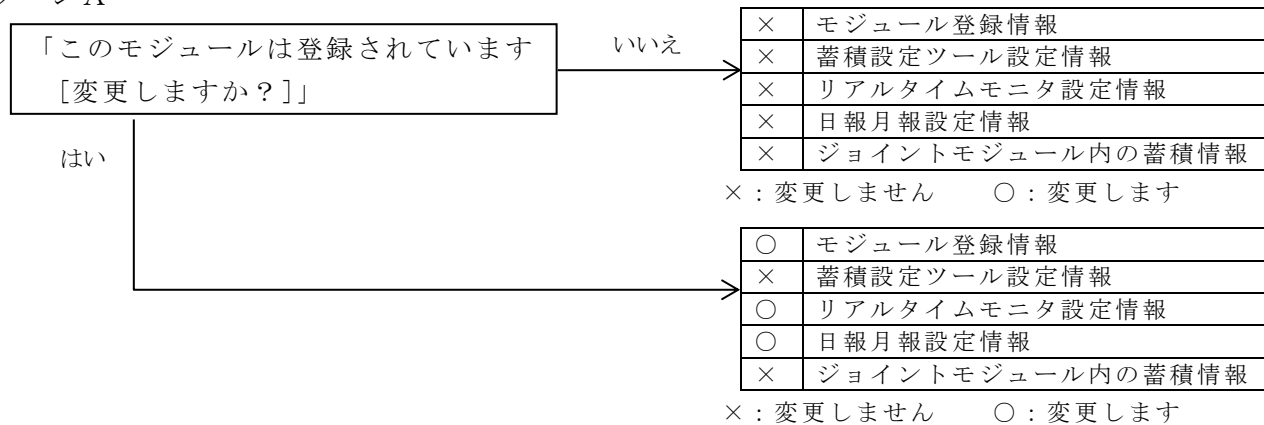
仮登録の場合

サブネットNo、モジュールNo、モジュール名称とコメントのみが変更できます。
IPアドレスを変更する場合は、一度モジュール登録情報を削除してから
再度、登録をしてください。

「WJM□/WVM□/WTM、登録内容変更確認メッセージ」について



パターン A



はい

いいえ

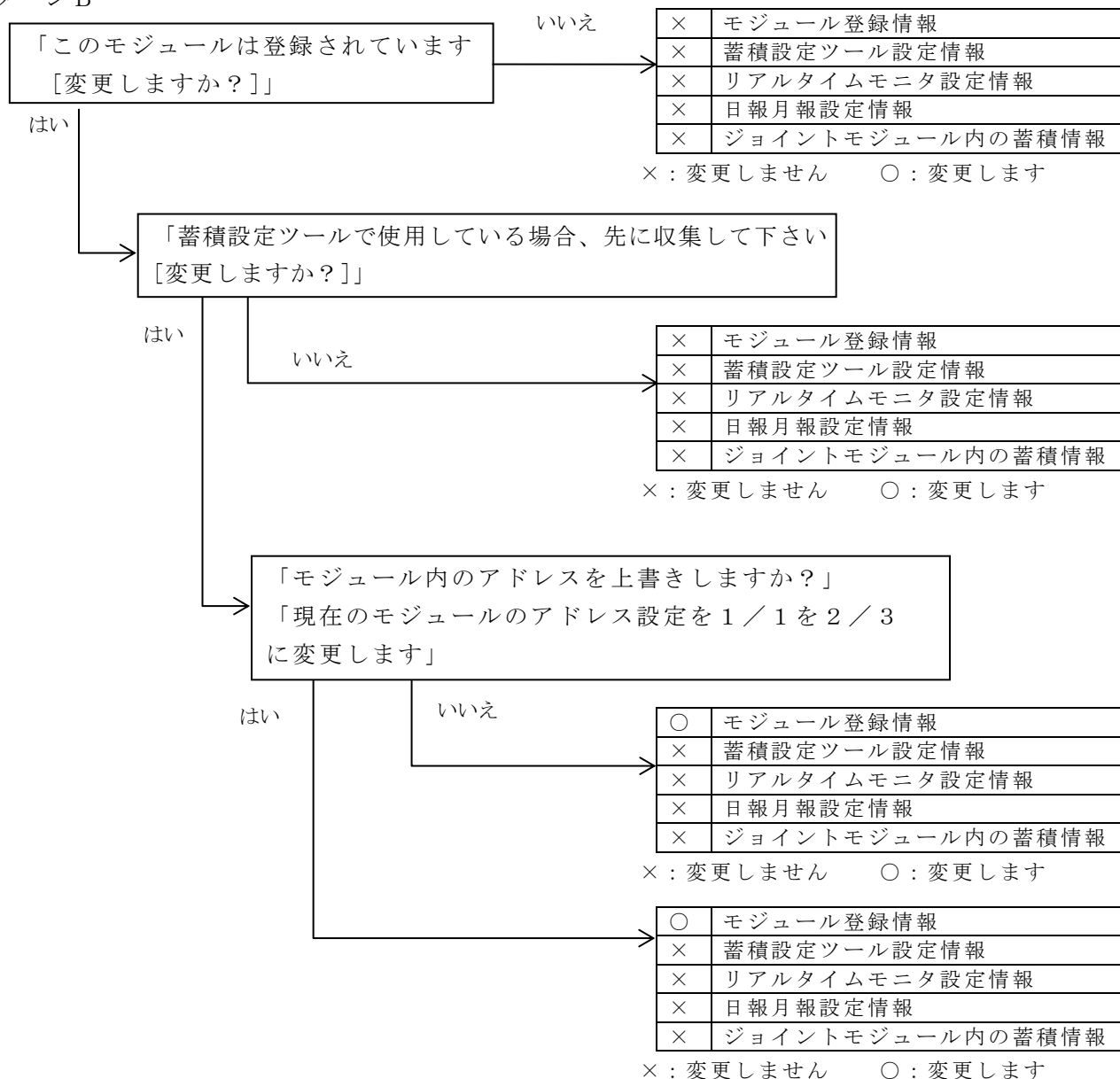
×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

○	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
○	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

パターン B



はい

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

「蓄積設定ツールで使用している場合、先に収集して下さい
[変更しますか?]

はい

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

「モジュール内のアドレスを上書きしますか？」
「現在のモジュールのアドレス設定を 1 / 1 を 2 / 3
に変更します」

はい

いいえ

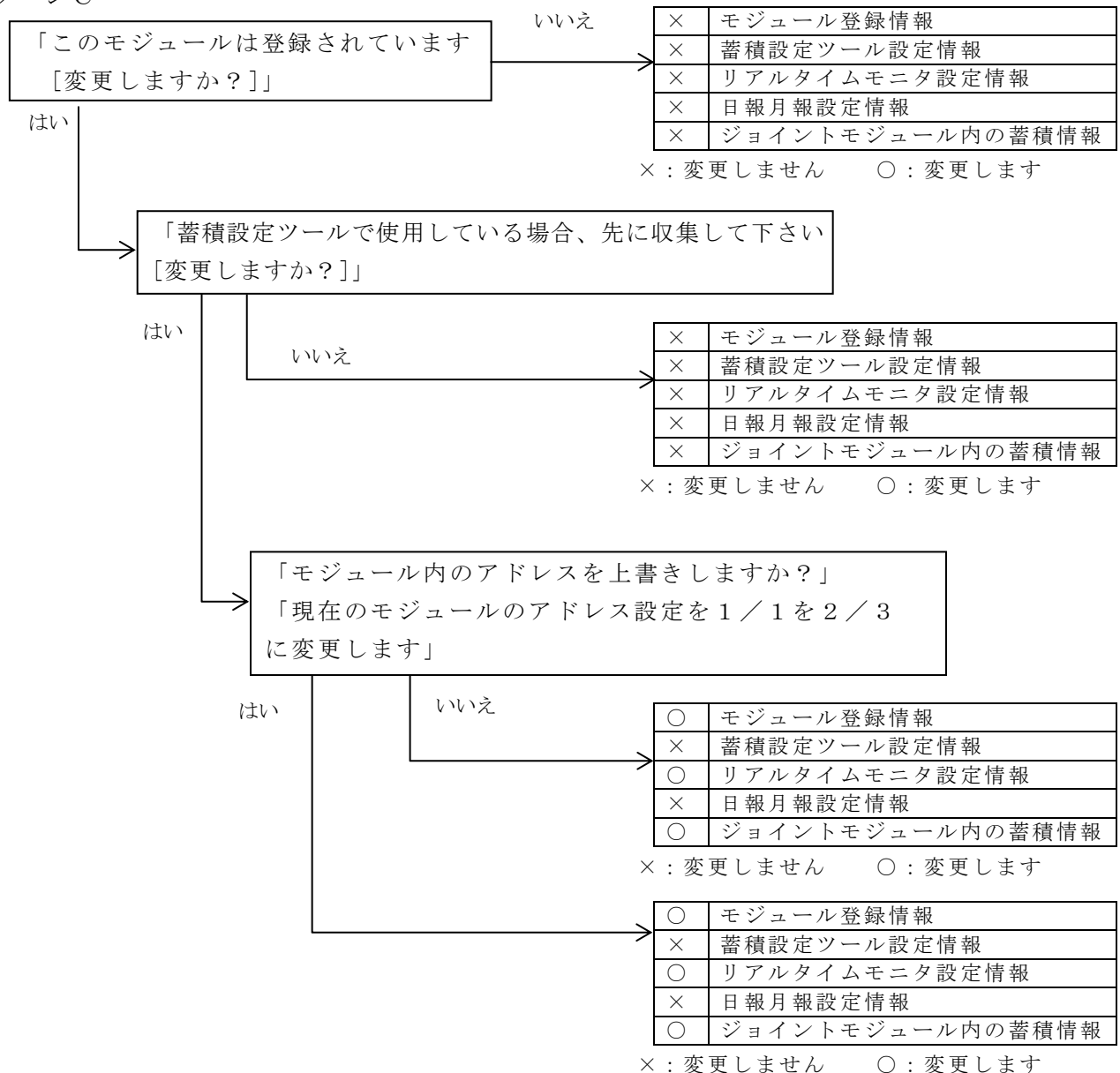
○	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

○	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

パターンC



いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

はい

「蓄積設定ツールで使用している場合、先に収集して下さい
[変更しますか?]

はい

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

「モジュール内のアドレスを上書きしますか？」
「現在のモジュールのアドレス設定を 1 / 1 を 2 / 3
に変更します」

はい

いいえ

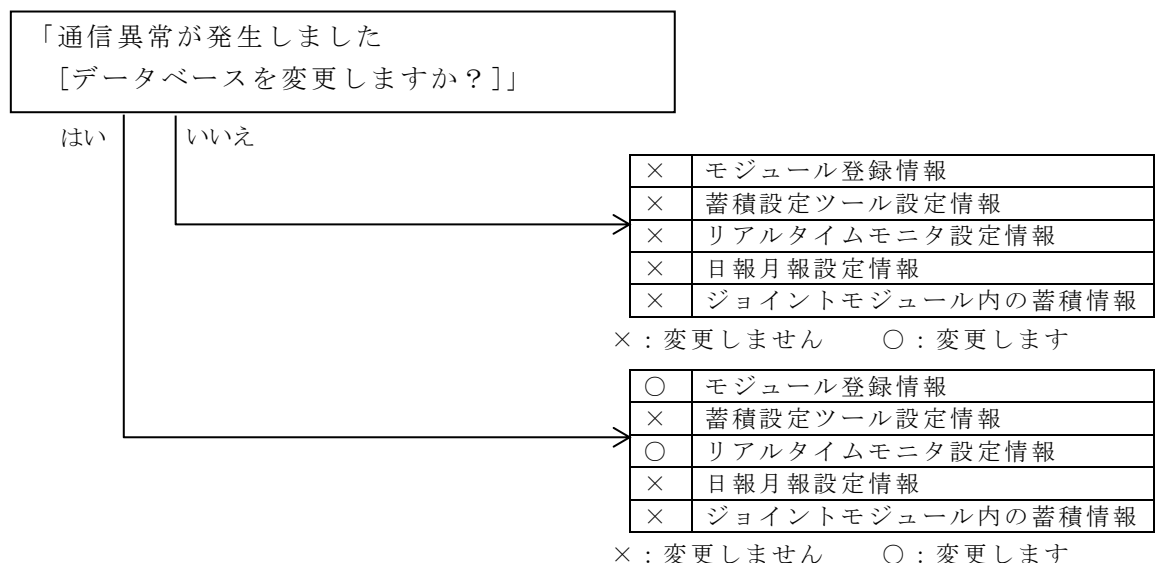
○	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
○	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

○	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
○	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

※上記のパターンでジョイントモジュール通信異常の時



はい

いいえ

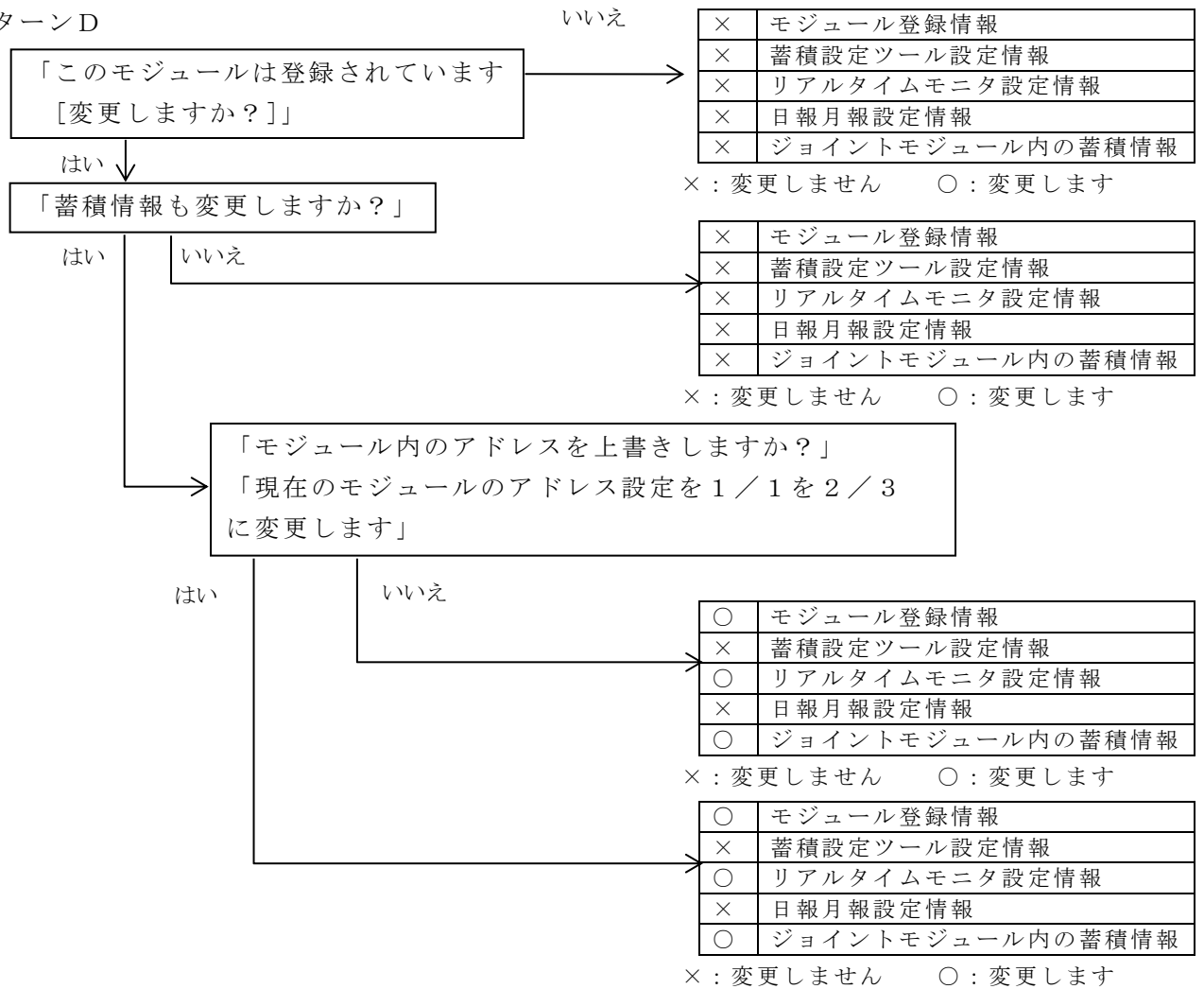
×	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

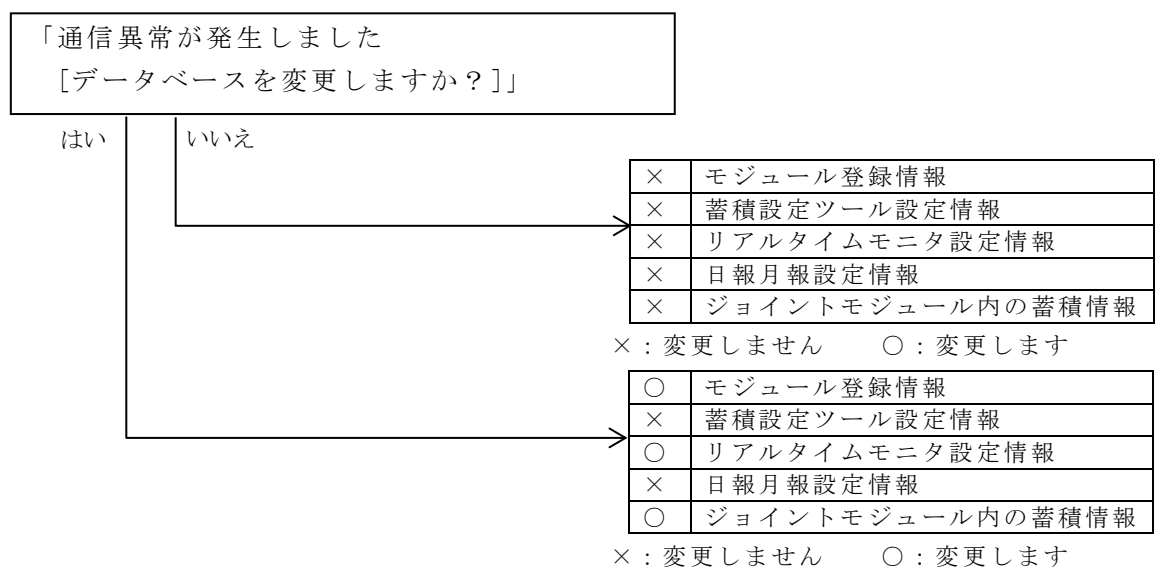
○	モジュール登録情報
×	蓄積設定ツール設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	ジョイントモジュール内の蓄積情報

×：変更しません ○：変更します

パターンD



※上記のパターンでジョイントモジュール通信異常の時



8－5．モジュール登録情報削除

登録されたモジュール登録情報を削除します。

8－5－1．インターフェースモジュール（STH／SCH）の場合

蓄積設定がある時は蓄積設定情報の削除を行います。

⚠注意

蓄積モジュール（WRT-STH）または、を削除する場合は、
蓄積データが収集できなくなるため先にデータ収集を行ってください。

【1】 「モジュールリスト」画面よりモジュール登録情報を削除するインターフェースモジュールを指定し、『OK』をクリックします。

【2】 指定したモジュールのモジュール登録情報が「モジュール登録」画面に表示されます。

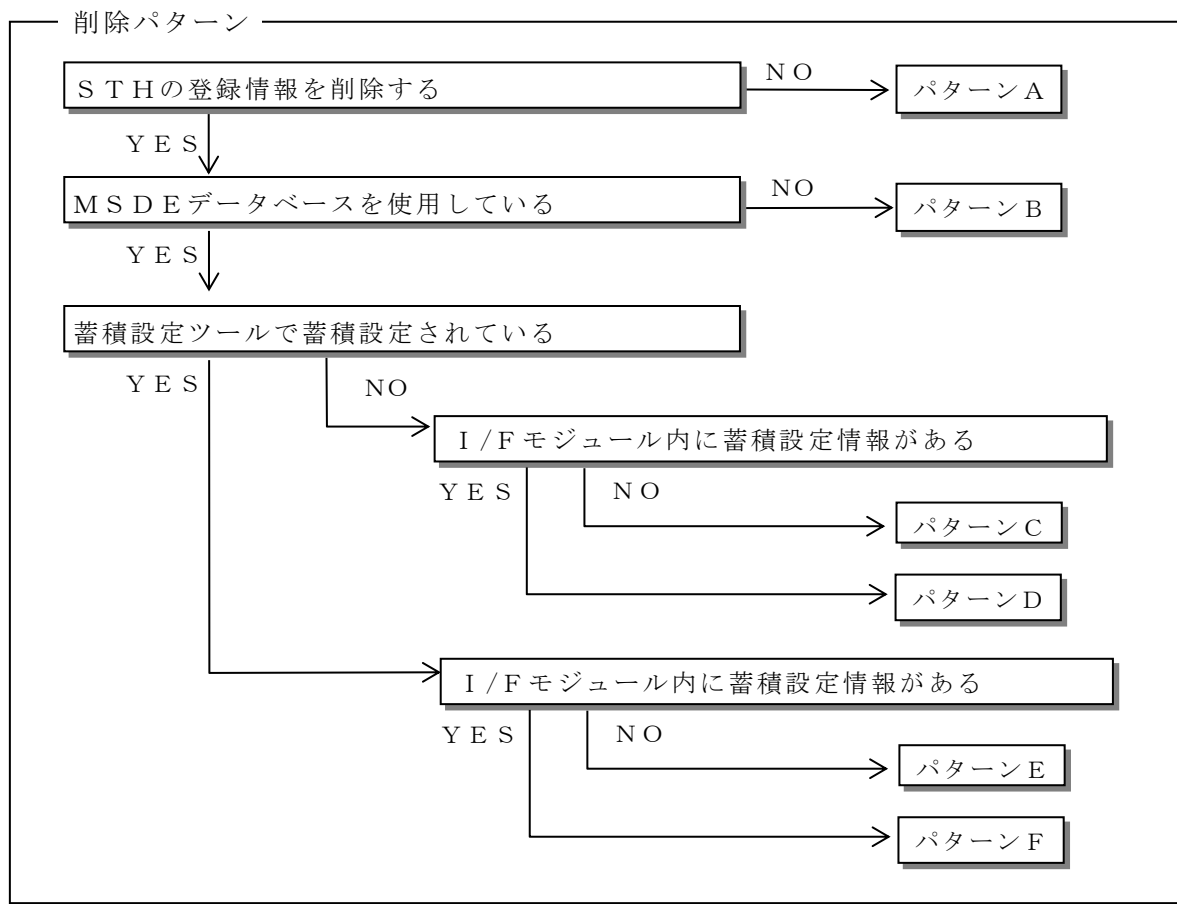
【3】 『削除』をクリックします。下記の確認メッセージを表示します。

【4】 モジュール登録情報削除を完了するまでに、「インターフェースモジュール登録情報削除確認メッセージ」を表示します。

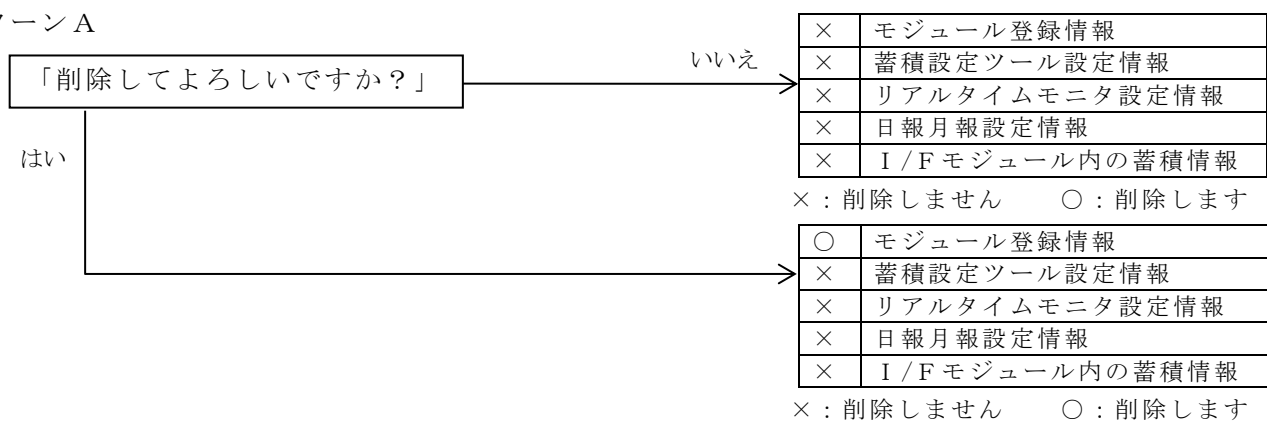
※ネットワーク内にインターフェースモジュールが1台の場合、
モジュールより先にインターフェースモジュールを削除することは
できません。

※モジュール登録情報を削除すると「削除完了」とメッセージを表示します。

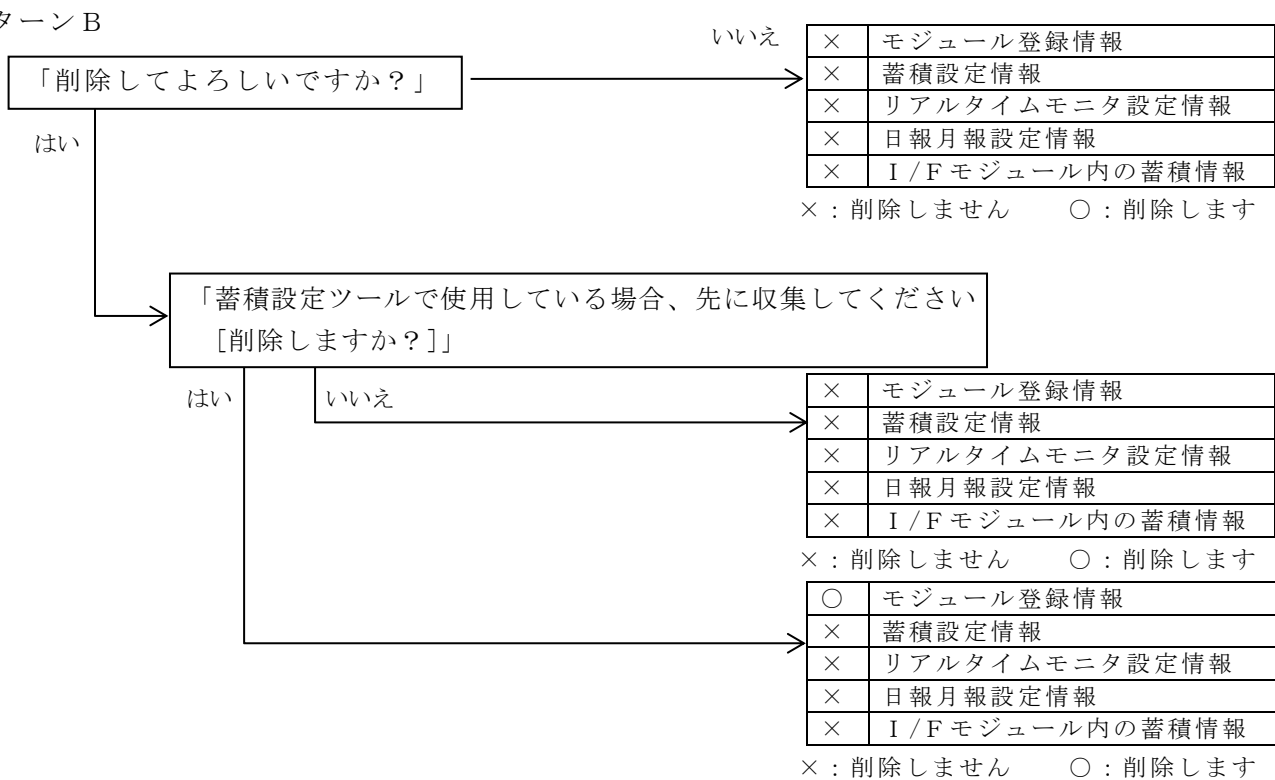
「インターフェースモジュール登録情報削除確認メッセージ」について



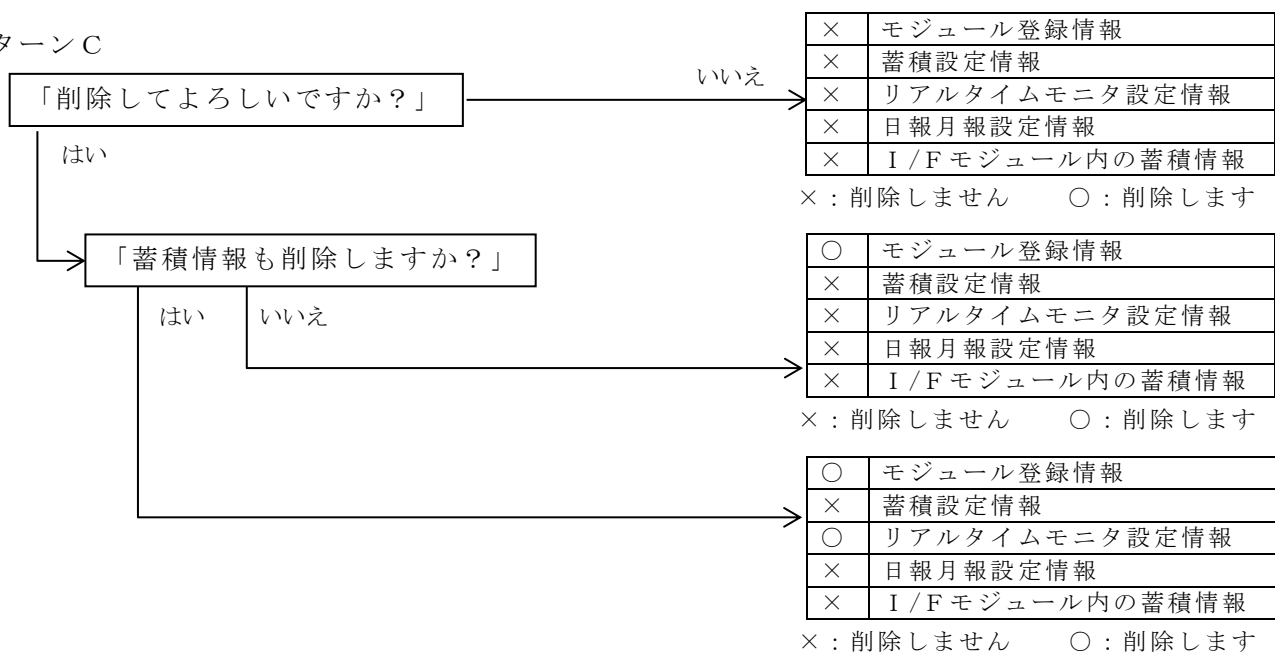
パターン A



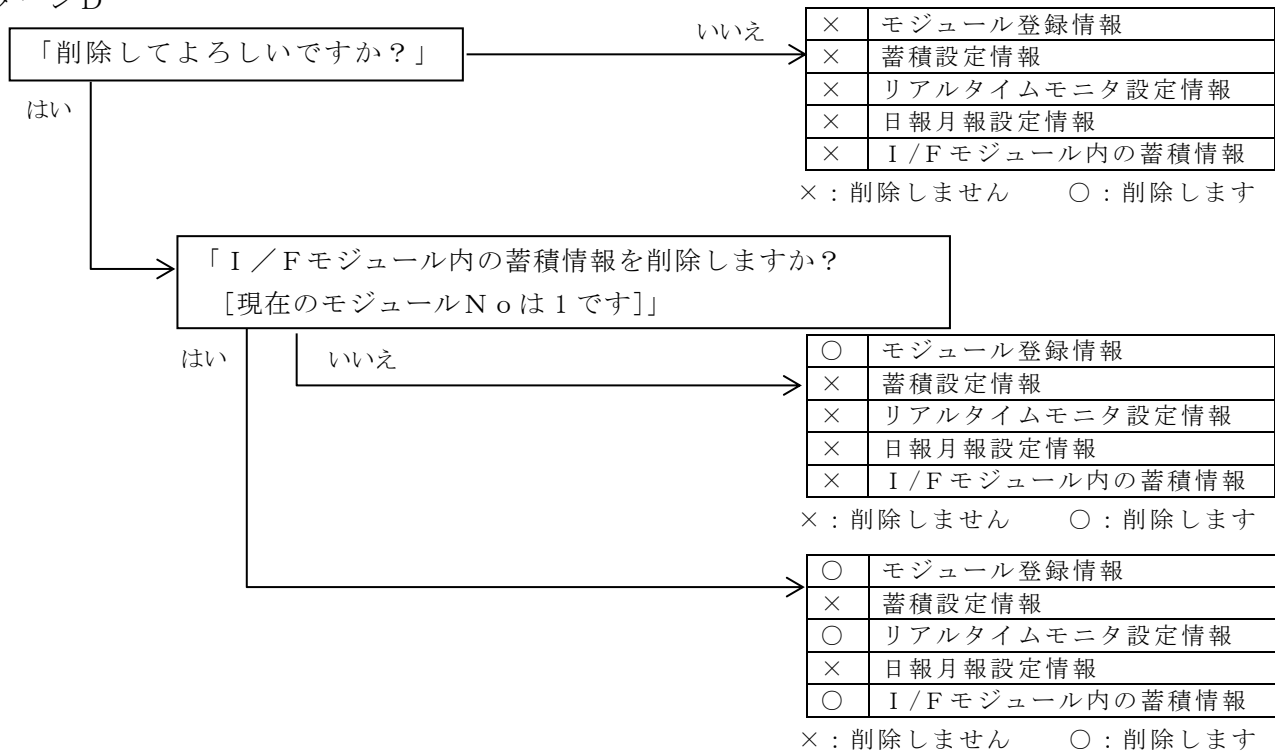
パターン B



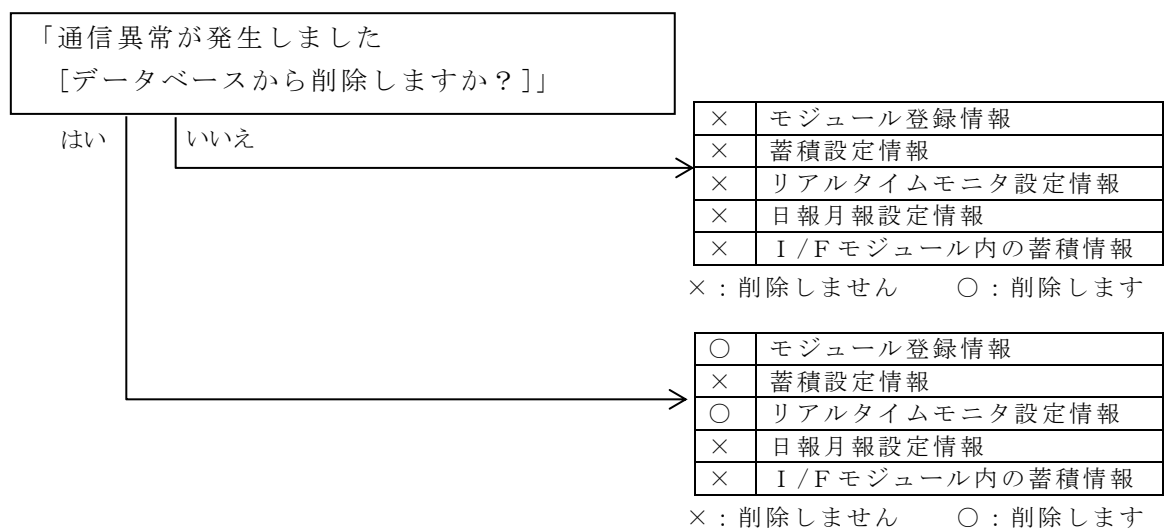
パターン C



パターンD



※上記のパターンでインターフェースモジュール（S T H）通信異常の時



パターン E

「削除してよろしいですか？」

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：削除しません ○：削除します

はい

「蓄積情報も削除しますか？」

はい

いいえ

○	モジュール登録情報
×	蓄積設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：削除しません ○：削除します

○	モジュール登録情報
○	蓄積設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：削除しません ○：削除します

パターン F

「削除してよろしいですか？」

いいえ

×	モジュール登録情報
×	蓄積設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：削除しません ○：削除します

はい

「蓄積情報も削除しますか？」

はい

いいえ

○	モジュール登録情報
×	蓄積設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：削除しません ○：削除します

「I / F モジュール内の蓄積情報を削除しますか？」
[現在のモジュールNoは1です]

はい

いいえ

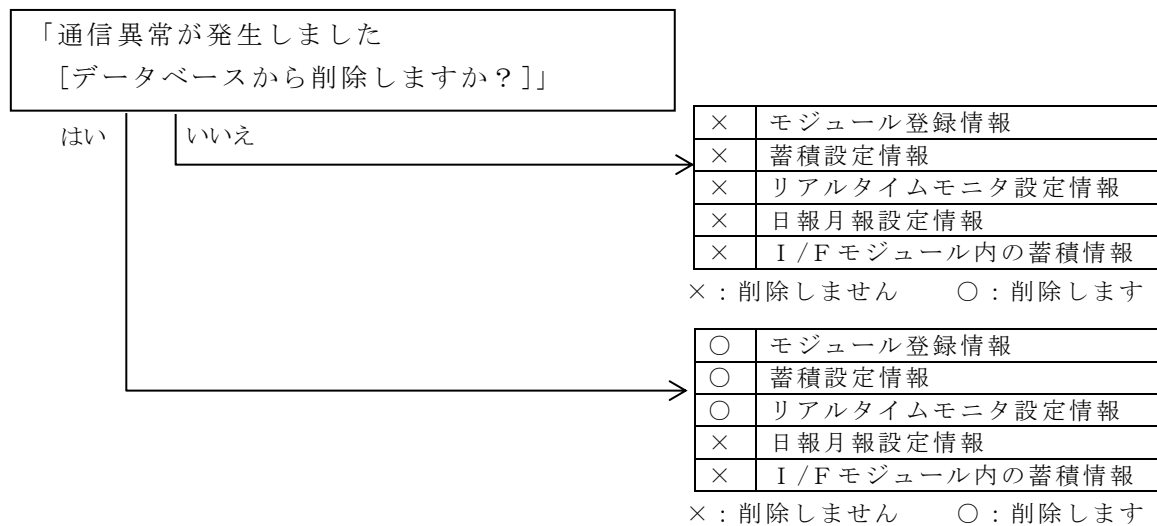
○	モジュール登録情報
×	蓄積設定情報
×	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
×	I / F モジュール内の蓄積情報

×：削除しません ○：削除します

○	モジュール登録情報
○	蓄積設定情報
○	リアルタイムモニタ設定情報
×	日報月報設定情報
○	I / F モジュール内の蓄積情報

×：削除しません ○：削除します

※上記のパターンでインターフェースモジュール（S T H）通信異常の時



8-5-2. モジュールの場合

【1】「モジュールリスト」画面よりモジュール登録情報を削除するモジュールを指定し、『OK』をクリックします。

【2】指定したモジュールのモジュール登録情報が「モジュール登録」画面に表示されます。

【3】『削除』をクリックします。下記の確認メッセージを表示します。

●モジュール登録情報削除確認メッセージ

「削除してもよろしいですか？」

→ いいえ：モジュール登録情報は削除されません。

→ はい：モジュール登録情報は削除されます。

●モジュール内のアドレス削除確認画面

「モジュール内アドレスを削除しますか？」

→ いいえ：モジュール内のアドレスは削除されません。

→ はい：モジュール内のアドレスは削除されます。

※モジュール登録情報を削除すると「削除完了」とメッセージを表示します。

※E c o R i A L (W R S - E M S) を使用している場合

下記のメッセージを表示します。

「蓄積している場合、蓄積設定ツールの一括設定で

「モジュール登録情報が削除されています」のエラーが発生しないことを確認してください。」

⚠注意

L o n M a k e r で登録したモジュールを本プログラムで登録すると、すでにモジュールに設定してあるサブネットNo / モジュールNo (アドレス) で登録されます。

このモジュール登録情報を本プログラムで削除する場合、モジュール登録情報だけを削除してください。モジュールのサブネットNo / モジュールNo (アドレス) を削除するとL o n M a k e r でエラーになります。

⚠注意

電力マルチメータ (P X シリーズ) を削除した場合、次数選択、相選択 / 相間選択の設定は変更されず、モジュール側に設定されたままになります。(設定についてはP 8 0を参照してください)

8-5-3. WJM□/WVM□/WTMの場合

△注意

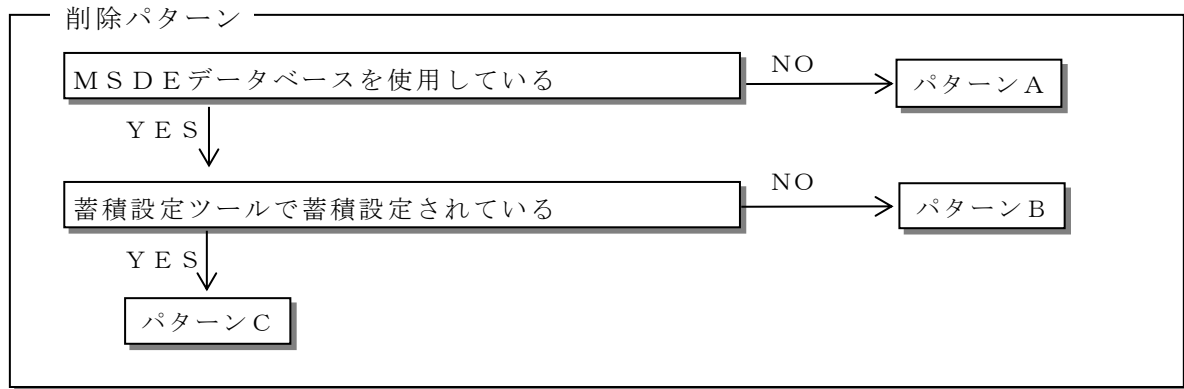
ジョイントモジュール（WJM□/WVM□）またはWTMを削除する場合は、蓄積データが収集できなくなるため先にデータ収集を行ってください。

- 【1】 「登録モジュールリスト」画面よりモジュール登録情報を削除する
ジョイントモジュールまたはWTMを指定し、『OK』をクリックします。
- 【2】 指定したモジュールのモジュール登録情報が「モジュール登録」画面に
表示されます。
- 【3】 『削除』をクリックします。下記の確認メッセージを表示します。
- 【4】 モジュール登録情報の削除を確認するメッセージを表示します。
※ネットワーク内にインターフェースモジュールが1台の場合、
モジュールより先にインターフェースモジュールを削除することは
できません。
※ネットワーク内にインターフェースを使用して登録された
ジョイントモジュールが存在し、インターフェースとして使用できるジョイ
ントモジュールが1台の場合、該当するインターフェースモジュールを先に
削除することは出来ません。

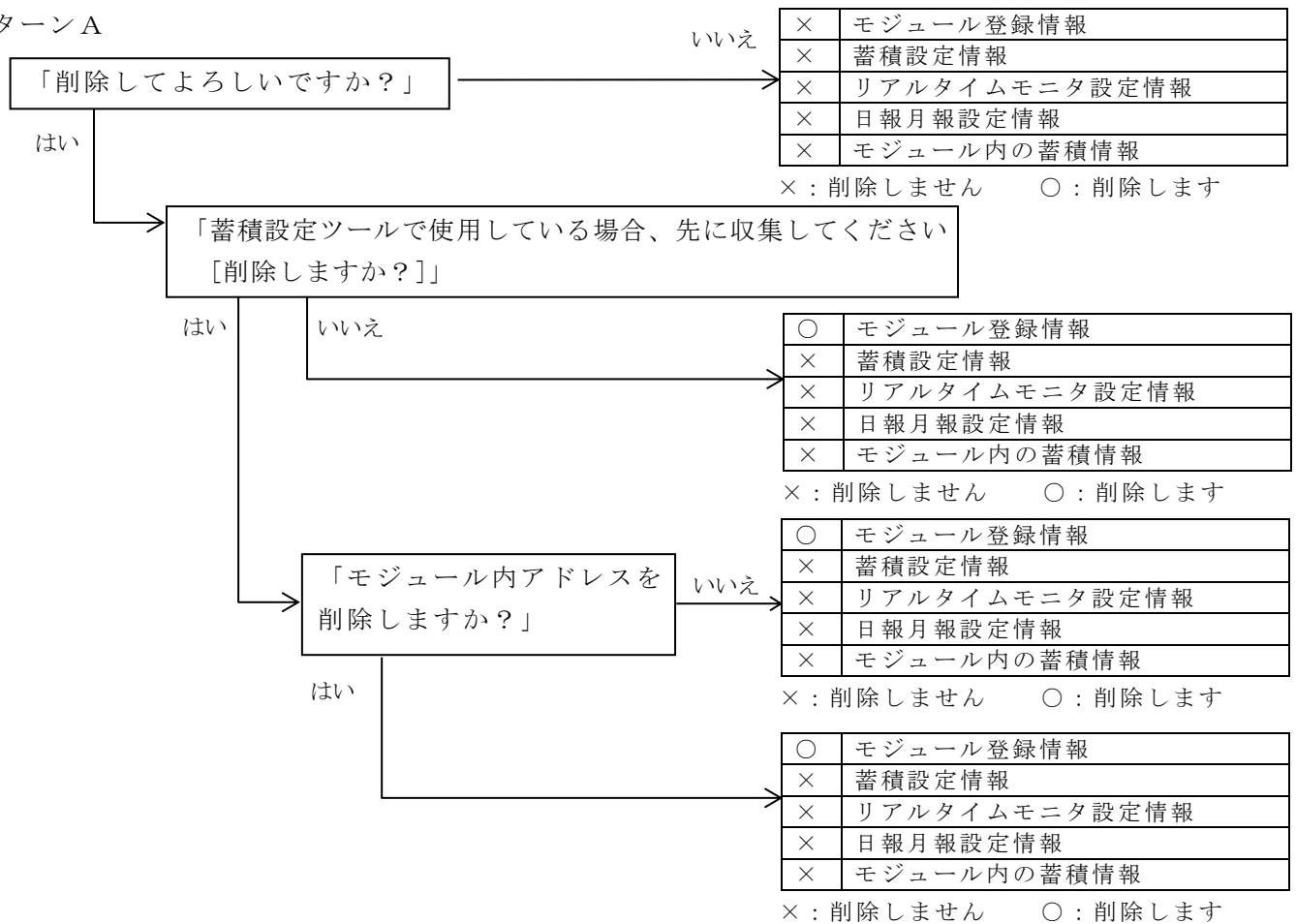
※モジュール登録情報を削除すると「削除完了」とメッセージを表示します

※E c o R i A L（WRS-EMS）を使用している場合
下記のメッセージを表示します。
「蓄積設定ツールで削除されていることを確認してください。」

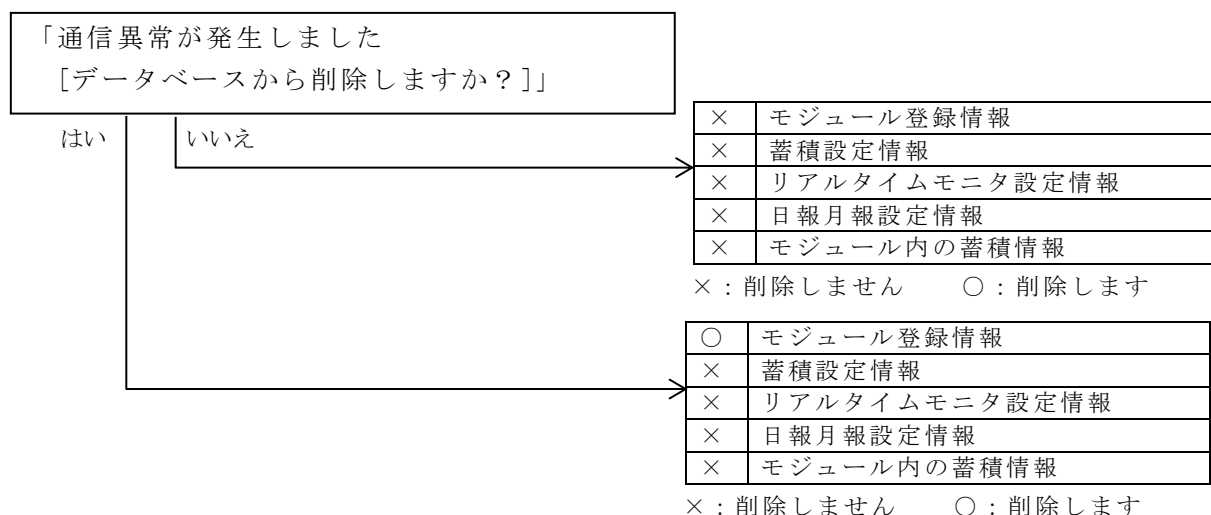
「W J M□／W V M□／W T M登録情報削除確認メッセージ」について



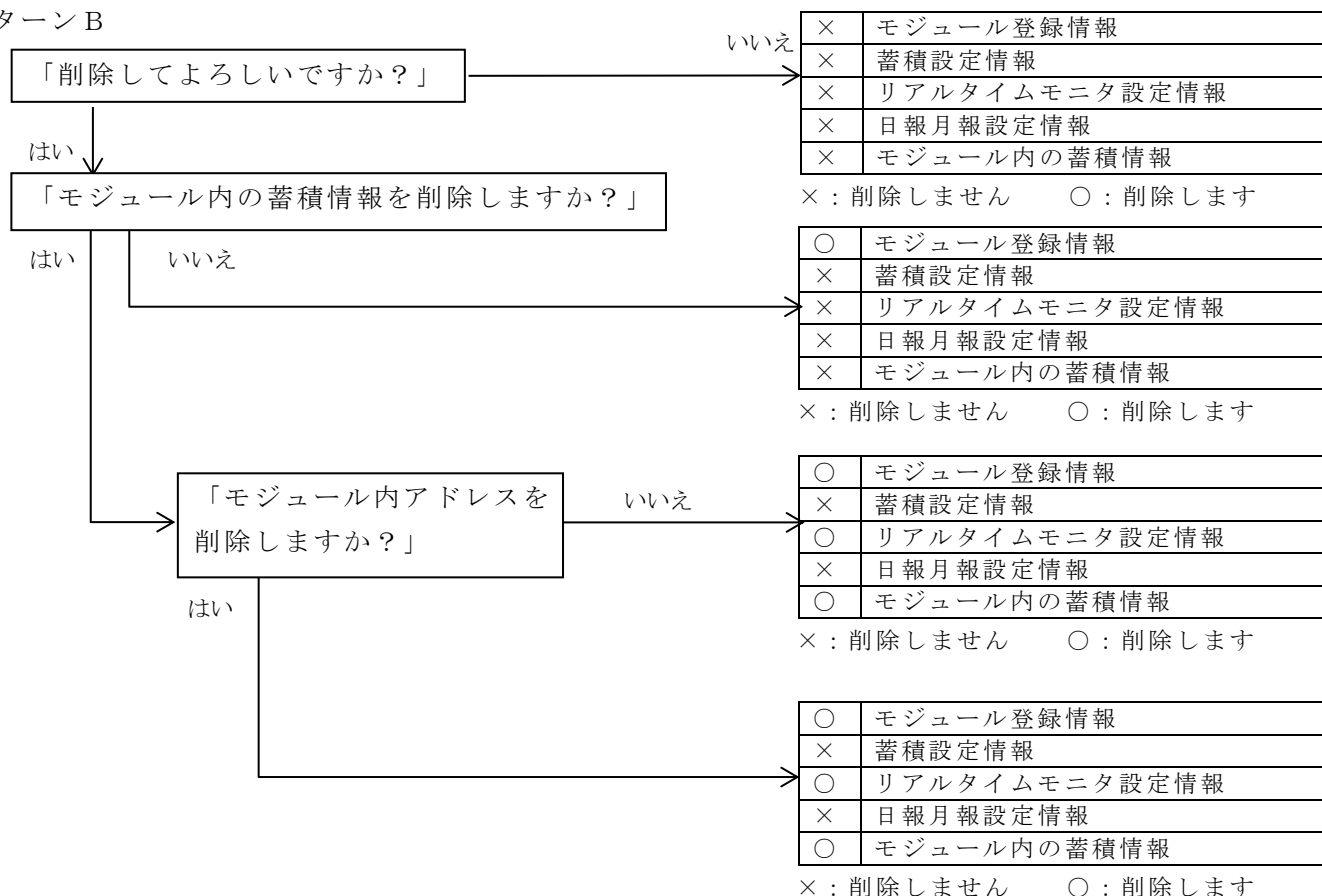
パターンA



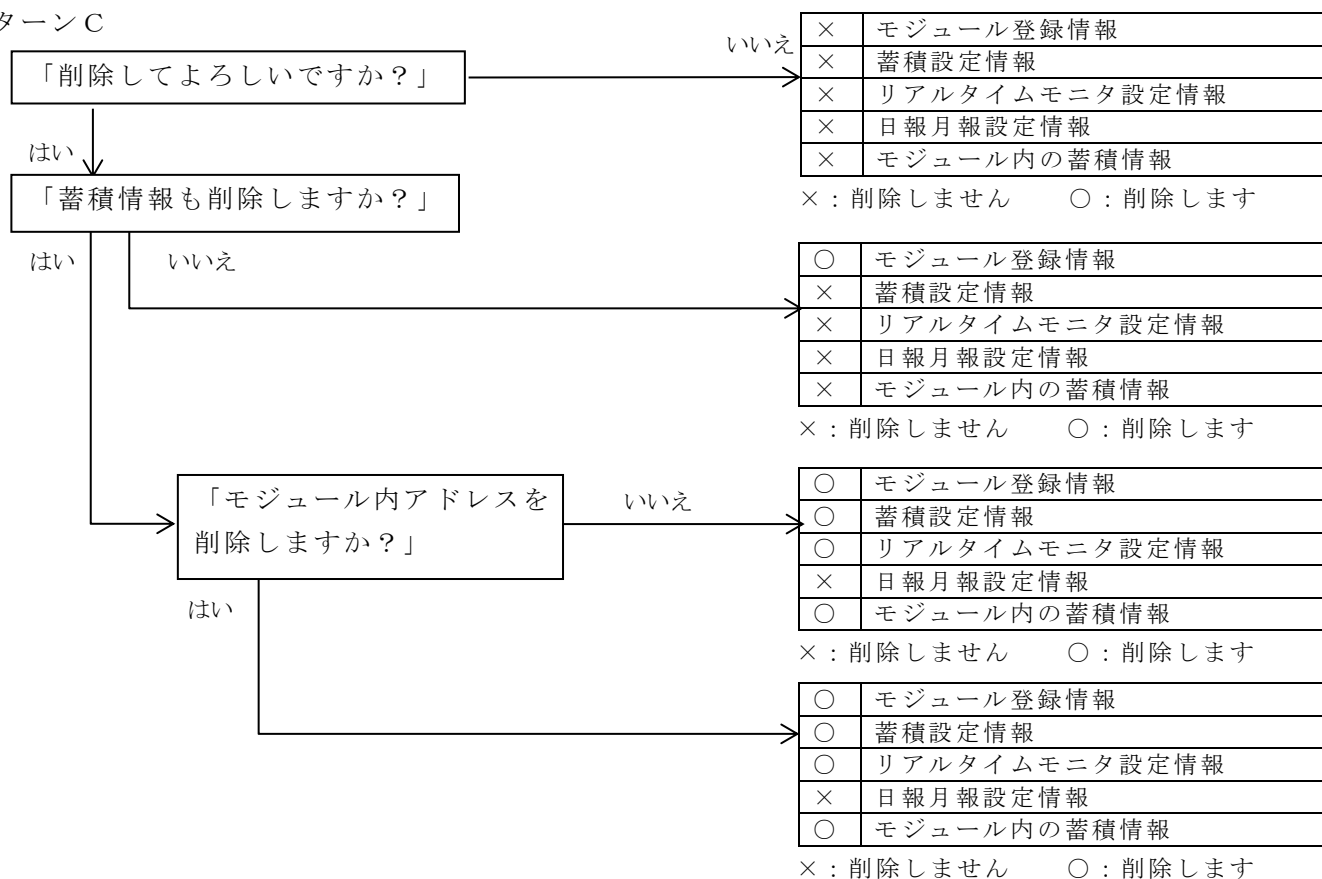
※上記のパターンでW J M□／W V M□／W T Mが通信異常の時



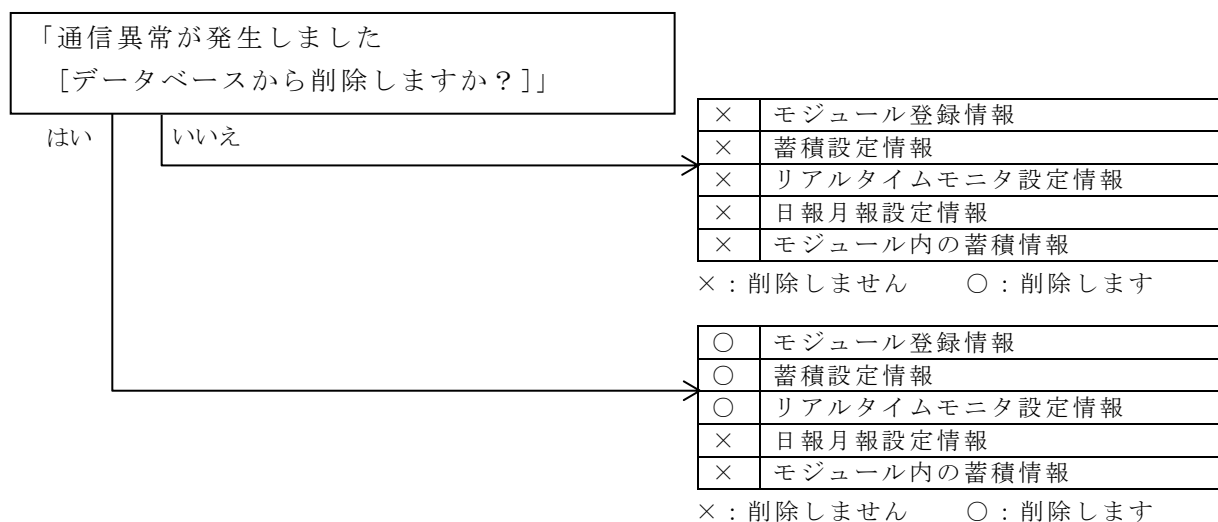
パターン B



パターンC



※上記のパターンでW J M□／W V M□／W T Mが通信異常の時



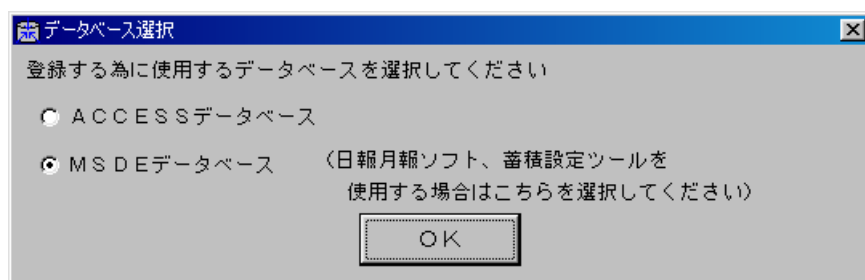
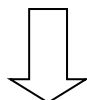
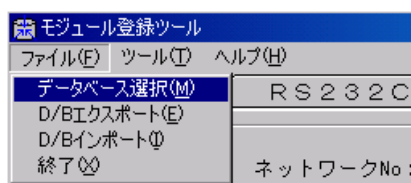
8-6. データベース選択

本プログラムで使用するデータベースの選択をします。

⚠ 注意

現在使用しているデータベースのモジュール登録情報を引き続き使用しない場合、モジュール登録情報を全て削除してから「データベース選択」を行ってください。

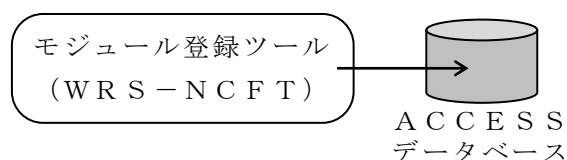
- 【1】「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ファイル」から『データベース選択』を指示すると、下記の「データベースの選択」画面を表示します。



- 【2】本プログラムで使用するデータベースの選択をします。

ACCESSデータベース：

本プログラムで作成したモジュール登録情報のみを使用する場合に選択します。

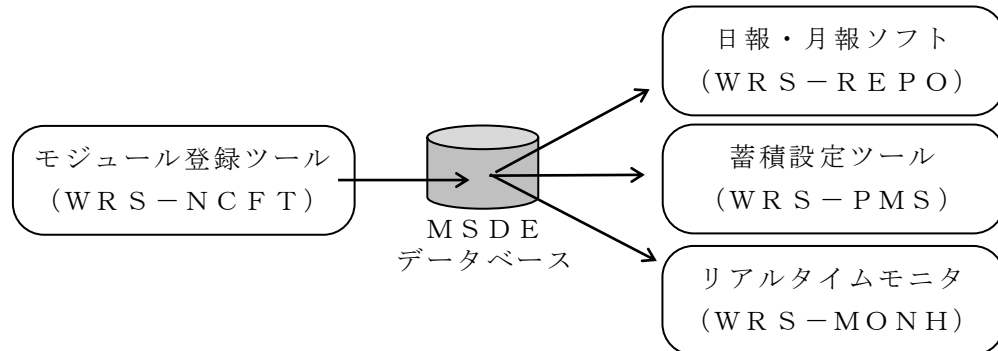


MSDEデータベース：

本プログラムで作成したモジュール登録情報を下記のリアルリンクツールにて使用する場合に選択します。

- ・日報・月報ソフト（WRS－REPO）バージョン3.20以上
- ・蓄積設定ツール（WRS－PMS）バージョン3.90以上
- ・リアルタイムモニタ（WRS－MONH）

※MSDEがインストールされていなければなりません。



【3】『OK』をクリックすると、「データベースを変換しますか？」とメッセージを表示します。

『はい』：以前使用していたモジュール登録情報を引き続き使用できます。
「データベース選択」を行うと自動的にモジュール登録情報がインポートされます。

『いいえ』：データベースを変換しません。

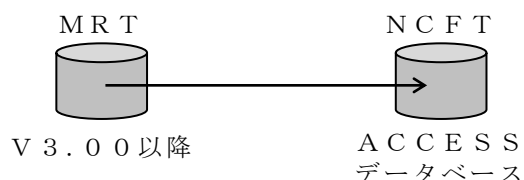
⚠注意

ACCESSデータベースで登録した場合は定格情報をデータベースに登録しません。
MSDEデータベースに変更する場合は、モジュールの再登録が必要です。

8-7. D/B変換

8-7-1. MRT D/B インポート(ACCESSデータベース選択時)

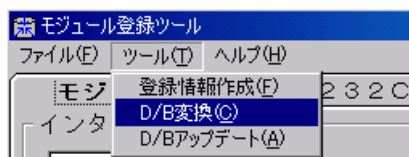
モジュール登録ツール(WRS-MRT)で作成したモジュール登録情報を引き続き本プログラム(ACCESSデータベース)で使用する場合があります。



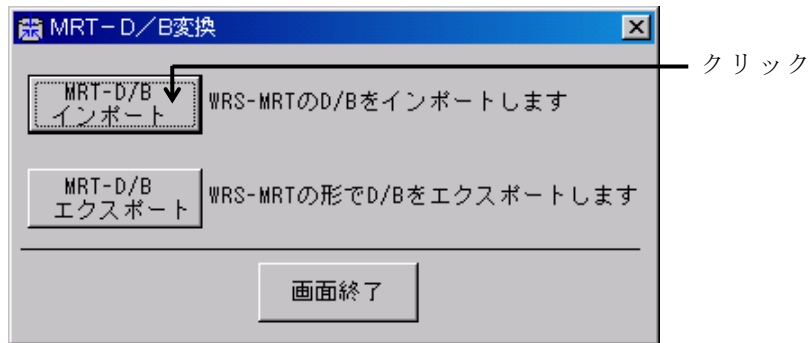
▲注意

- ・モジュール登録ツール(WRS-MRT)バージョン3.00以降のモジュール登録情報を変換します。
- ・本プログラムのデータベースが「ACCESSデータベース」選択時のみ操作できます。「MSDEデータベース」のデータベースを使用する場合は、『データベース管理ツール』より「モジュール登録情報インポート(MRT)」を行ってください。
- ・モジュール登録ツール(WRS-MRT)でインターフェースモジュールを登録していない場合、インポート後、モジュール登録ツール(WRS-NCFT)でインターフェースモジュールの再登録ができません。
インポート前にモジュール登録ツール(WRS-MRT)でインターフェースモジュールを登録してください。
- ・D/B変換後、インターフェースモジュールのサブネットNoは「0」となりますのでそのモジュールを再登録してください。

- 【1】「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ツール」から『D/B変換』を指示すると、下記の「D/B変換」画面を表示します。



- 【2】「MRT-D/B インポート」を選択します。

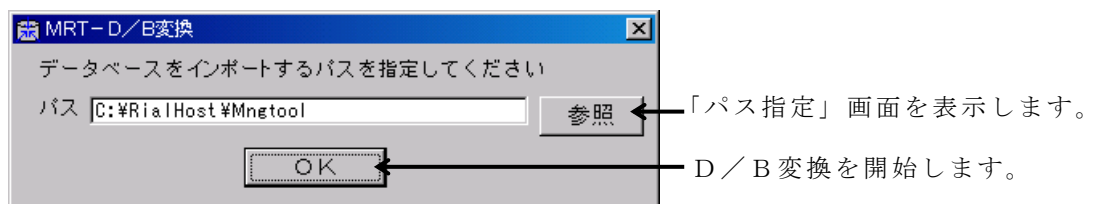


- 【3】モジュール登録ツール（WRS-MRT）のインストールパスを指定します。
デフォルトディレクトリ：C：¥RIALHOST¥Mngtool

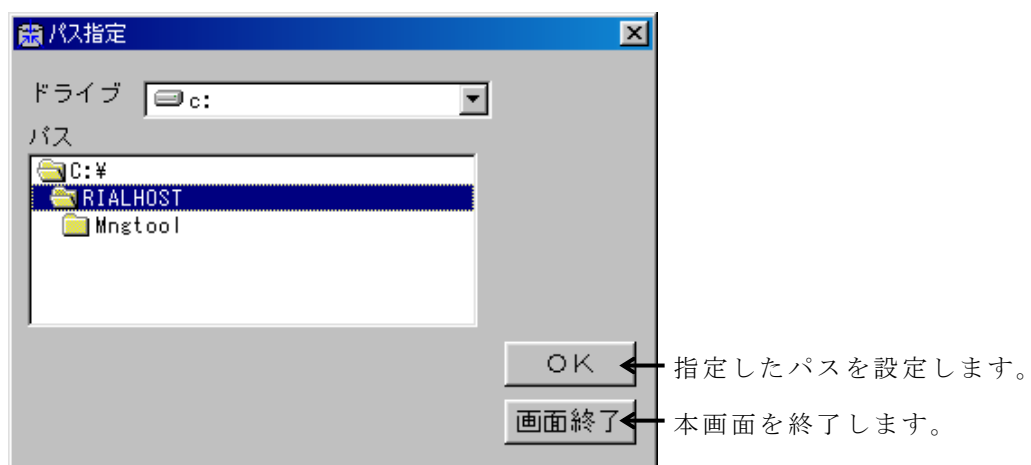
→モジュール登録ツール（WRS-MRT）がインストールされているディレクトリです。

※モジュール登録ツール（WRS-MRT）のインストールパスが「RialHost」でない場合、変更したパスに『¥Mngtool』を追記してください。

C：¥XXXXXXXX¥Mngtool
→インストールパス



- 【4】『参照』をクリックすると下記の「パス指定」画面を表示します。
ドライブ指定、ディレクトリ指定からでもパスの指定ができます。



【5】「D／B変換」画面の『OK』をクリックすると「D／B変換中！」画面が表示されD／B変換が行われます。

【6】『画面終了』をクリックすると、「D／B変換」画面は終了します。

8-7-2. MRT D/B エクスポート

モジュール登録情報を下記のリアルリンクツールで使用する時にを行います。

《リアルリンクツール》

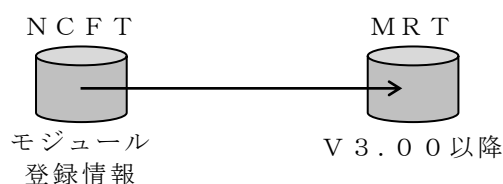
リアルリンクモニタ (WRS-MON)

DDEサーバー (WRS-DDE)

パラメータ設定ツール (WRS-PMD-2)

蓄積設定ツール (WRS-PMS) バージョン3.04以前

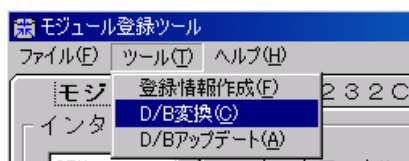
日報・月報ソフト (WRS-REPO) バージョン3.04以前



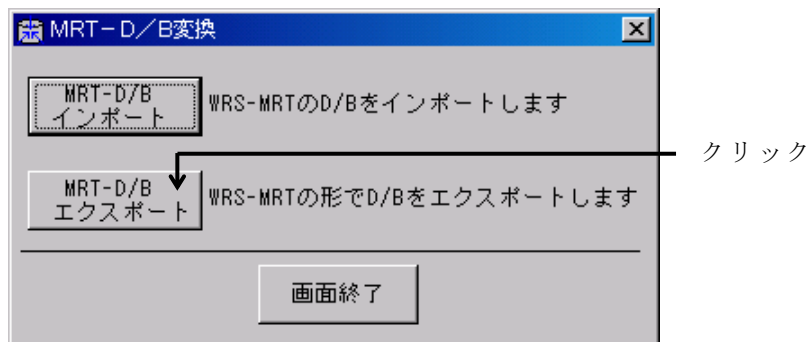
△注意

- ・モジュール登録ツール (WRS-MRT) バージョン3.00以降のモジュール登録情報に変換します。ただし、サブネットNo 6, 7, 8, 9を指定して登録した情報はモジュール登録ツール (WRS-MRT) にて認識できません。
- ・仮登録がある場合、MRT D/B エクスポートはできません。
- ・ジョイントモジュールの登録情報 (WJM□) は、MRT D/B エクスポートができません。
- ・電力マルチメータの登録情報 (WKM) は、MRT D/B エクスポートができません。
- ・ネットワークNoが127以降のネットワーク登録した情報は、モジュール登録ツール (WRS-MRT) にて認識できません。

- 【1】 「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ツール」から『D/B変換』を指示すると、下記の「D/B変換」画面を表示します。



- 【2】「MRT-D/B エクスポート」を選択します。



- 【3】モジュール登録ツール（WRS-MRT）のインストールパスを指定します。
モジュール登録ツール（WRS-MRT）をインストールしている場合、
確認画面を表示後、D/Bは上書きされます。

デフォルトディレクトリ：C：¥RIALHOST¥Mngtool

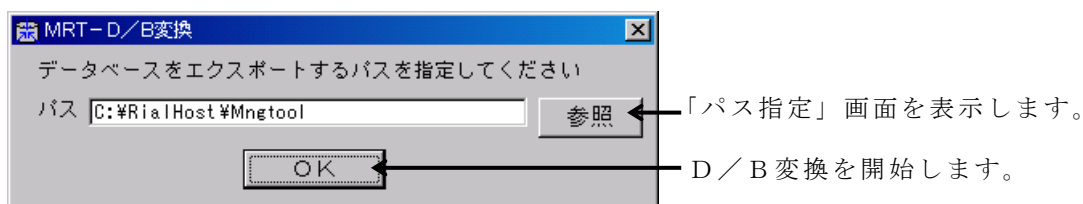
→モジュール登録ツール（WRS-MRT）が
インストールされているディレクトリです。

※モジュール登録ツール（WRS-MRT）のインストールパスが

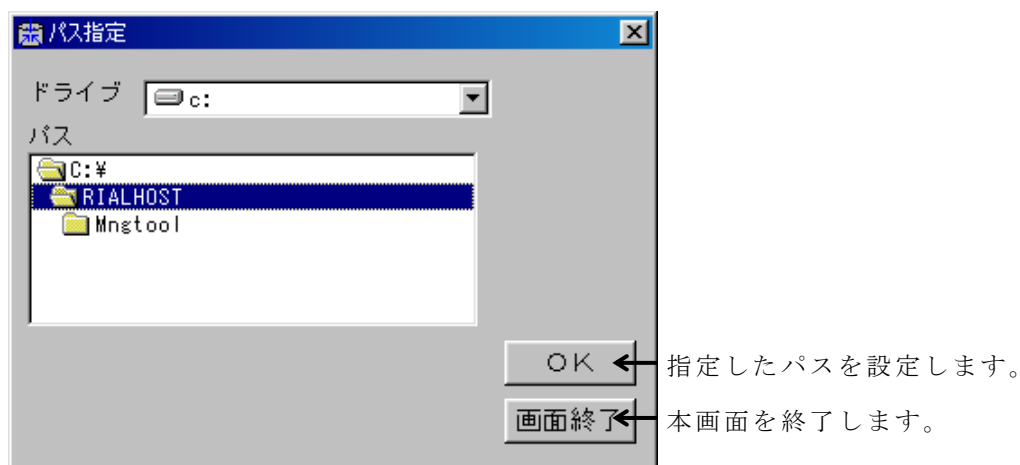
「RialHost」でない場合、変更したパスに『¥Mngtool』
を追記してください。

C：¥XXXXXX¥Mngtool

→インストールパス



- 【4】『参照』をクリックすると下記の「パス指定」画面を表示します。
ドライブ指定、ディレクトリ指定からでもパスの指定ができます。



【5】「D／B変換」画面の『OK』をクリックすると「D／B変換中！」画面が表示されD／Bの作成が行われます。

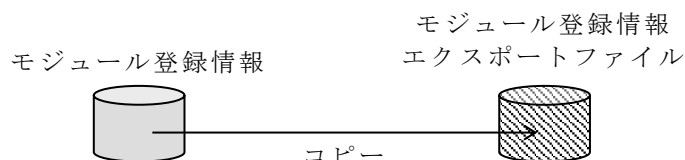
【6】『画面終了』をクリックすると、「D／B変換」画面は終了します。

8-8. D/Bエクスポート

登録したモジュール登録情報を指定したパスにコピーします。

モジュール登録情報を他のパソコンのモジュール登録情報に併合する時に使用します。

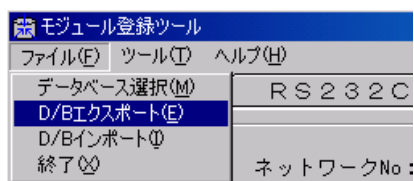
※仮登録がある場合、D/Bエクスポートできません。



例) 蓄積モジュール (W R T - S T H) または、ジョイントモジュール (W J M □ / W V M □)、W e b 対応エネルギー監視モジュール (W T M) を使用してモジュールのデータを遠隔から収集する時に行います。

※D/Bエクスポートの例については、付録1を参照してください。

- 【1】「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ファイル」から、『D/Bエクスポート』を指示すると、下記の画面を表示します。

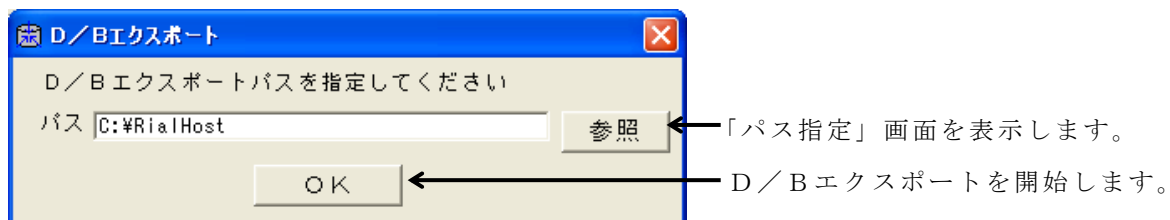


- 【2】D/Bエクスポートするパスを指定します。

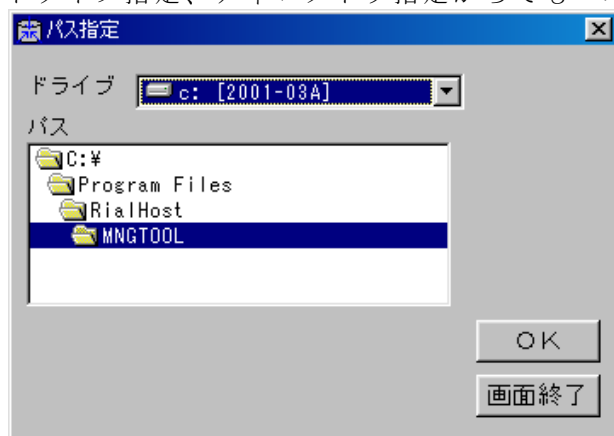
デフォルトディレクトリ：

C : ¥ R i a l H o s t ¥ M n g t o o l

→ 本プログラムがインストールされているディレクトリです。



- 【3】『参照』をクリックすると下記の「パス指定」画面を表示します。
ドライブ指定、ディレクトリ指定からでもパスの指定ができます。



← 指定したパスを設定します。

← 本画面を終了します。

- 【4】『OK』をクリックするとD／Bエクスポートを開始します。
上記で設定したパスにエクスポートファイル（登録. EXP）が作成されます。

△注意

モジュール登録情報を他のパソコンやCD-Rなどにコピーして保管しておく、パソコンが故障した時などに使用できます。

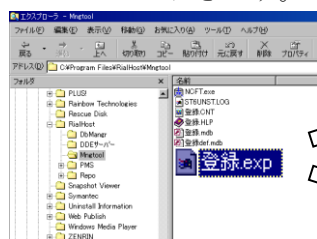
保存データベース名：登録. EXP

保存ディレクトリパス：C:¥RialHost¥Mngtool

1. 『D／Bエクスポート』をします。



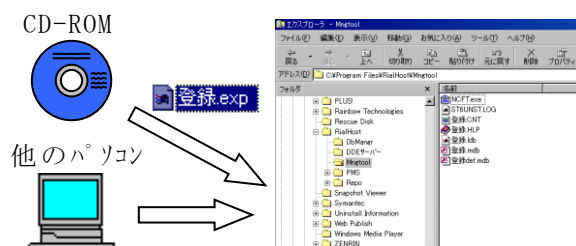
2. エクスポートしたデータベースをコピーしておきます。



3. 使用しているパソコンが故障してしまった。



4. 新しいパソコンに本プログラムをインストールし、2でコピーしたエクスポートファイルをエクスプローラより「保存ディレクトリパス」に入れます。



5. 本プログラムを起動し『D／Bインポート』をします。

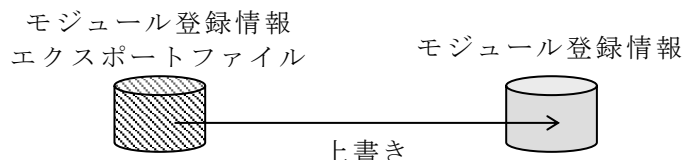


6. 新しいパソコンで再び使用できます。



8-9. D/Bインポート

D/Bエクスポートしてコピーしたモジュール登録情報を併合します。
他のパソコンで「D/Bエクスポート」したモジュール登録情報を併合する時に
使用します。

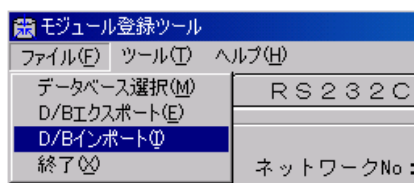


⚠ 注意

- ・ D/Bインポート時、ネットワークNoごとにモジュール登録情報は上書きされます。D/Bインポートする時は必ずネットワークNoが異なっていることを確認してください。
- ・ サブネットNo/モジュールNo、モジュール名称が重複しているとインポートできません。

例) 遠隔の蓄積モジュール (WR T-S TH) または、またはジョイントモジュール (W J M□/W V M□) を使用してモジュールのデータを収集する時に行います。
※ D/Bインポートの例については、付録 1 を参照してください。

- 【1】 「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ファイル」から、『D/Bインポート』を指示すると、下記の画面を表示します。

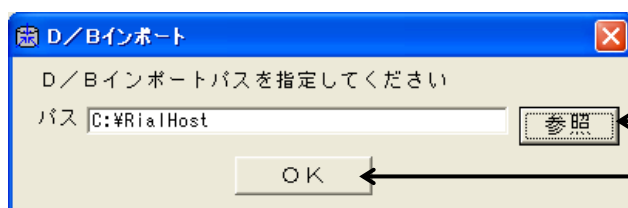


- 【2】 D/Bインポートするパスを指定します。

デフォルトディレクトリ：

C : ¥ R i a l H o s t ¥ M n g t o o l

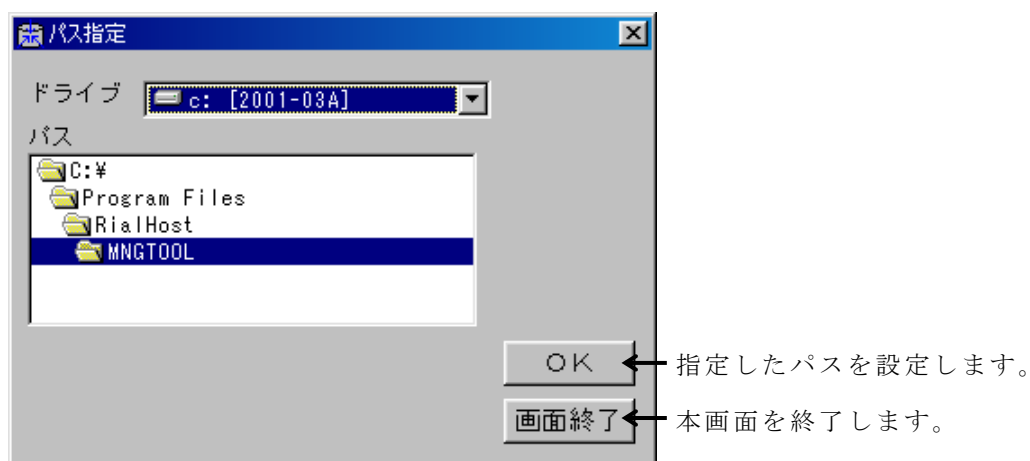
→ 本プログラムがインストールされているディレクトリです。



← 「パス指定」画面を表示します。

← D/Bインポートを開始します。

- 【3】『参照』をクリックすると下記の「パス指定」画面を表示します。
ドライブ指定、ディレクトリ指定からでもパスの指定ができます。

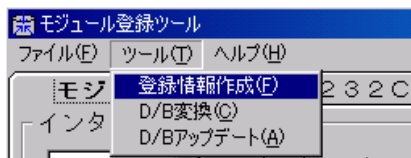


- 【4】『OK』をクリックするとD／Bインポートを開始します。
上記で設定したパスのエクスポートファイル（登録. EXP）を取り込みます。

8-10. 登録情報作成

モジュール登録情報をCSV形式のファイルにし、モジュール登録情報が確認できます。

- 【1】「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ファイル」から、『登録情報作成』を指示すると、下記の画面を表示します。

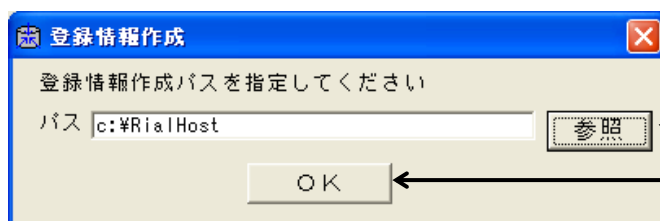


- 【2】登録情報を作成するパスを指定します。

デフォルトディレクトリ：

C : ¥R i a l H o s t ¥M n g t o o l

→ 本プログラムがインストールされているディレクトリです。

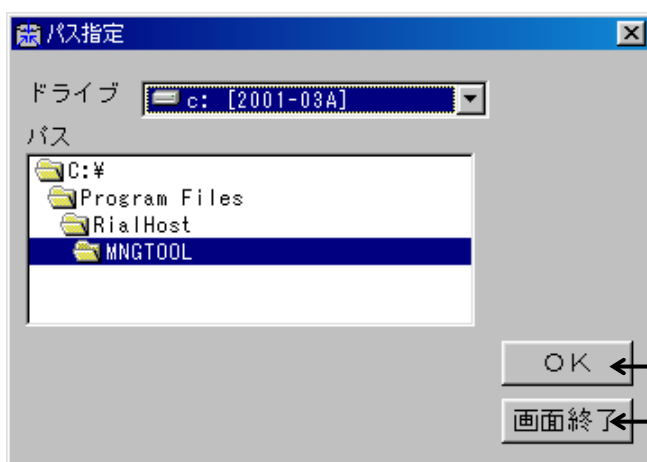


←「パス指定」画面を表示します。

←登録情報を作成します。

- 【3】『参照』をクリックすると下記の「パス指定」画面を表示します。

ドライブ指定、ディレクトリ指定からでもパスの指定ができます。



←指定したパスを設定します。

←本画面を終了します。

- 【4】『OK』をクリックすると登録情報作成を開始します。

上記で設定したパスにモジュール登録情報のCSV形式ファイル
「MDLCSV.DAT」を作成します。

モジュール登録情報フォーマット

N o, X Δ ネットワーク N o Δ サブネット N o / モジュール N o, ニューロン I D,
モジュール名称, モジュール種別名, コメント, XXX

X : 仮登録 = X
登録完了 = R

XXX : WRT-SCH / WRT-STH = COMポートNo
WJM□ / WVM□ = COMポートNo, IPアドレス
WTM = IPアドレス
その他のモジュール = なし

※ジョイントモジュールにCOMポート、もしくはIPアドレスのどちらか片方の設定しかされていない場合、『XXX』には設定されているCOMポート、IPアドレスを表示します。

※モジュール名称：半角8文字、モジュール種別名：半角32文字、
コメント：半角40文字の幅で表示します。文字数が少ない場合は、スペースが入ります。

※SNVTs対応モジュールを登録した場合、モジュール種別の後ろに「@」を表示します。

※仮登録したモジュール登録情報は、サブネットNo / モジュールNo、
モジュール種別名、ニューロンIDは、「？」と表示されています。

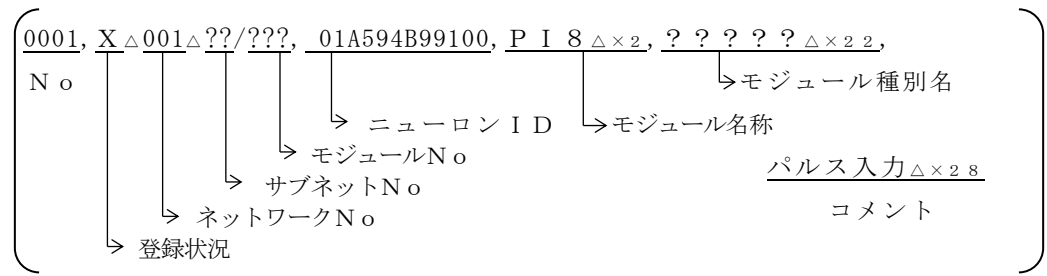
※インターフェースモジュールの場合、サブネットNoは“00”と表示します。

例) 蓄積モジュール (WRT-STH) 登録時の場合

0001	R	Δ001	Δ00	/001	01003d77c400	S T H 1	蓄積 (ローカル設定) Δ×16	COM 1
N o					ニューロン I D	モジュール名称	モジュール種別名	
					モジュールNo			
					サブネットNo		ローカル設定 Δ×28	
					ネットワークNo		コメント	接続状況

登録状況

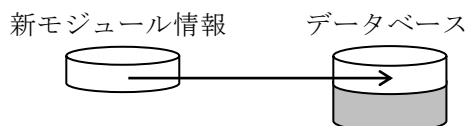
例) パルス入力モジュール (W R B T - P I) 仮登録時の場合



8-11. D/Bアップデート(ACCESSデータベース

選択時のみ)

データベースのアップデートをします。



現在使用しているデータベースが新しいモジュール（未対応モジュール）に対応していない時、アップデートファイルよりデータベースに未対応モジュールの情報をアップデート（認識）させます。

△注意

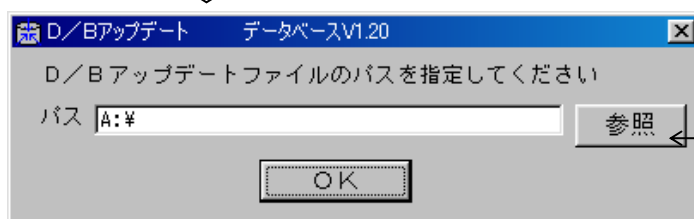
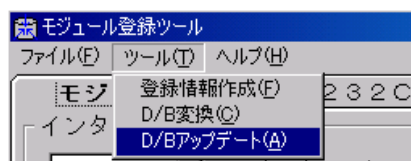
本プログラムのデータベースが「ACCESSデータベース」時のみ行います。
「MSDEデータベース」のデータベースを使用する場合は、『データベース管理ツール』より「データベースアップデート」を行ってください。

アップデートする条件

下記の「データベースアップデート」画面のタイトルバーに表示されている「データベースバージョン」よりお手元にある「アップデートファイル」のバージョンが大きい場合に行ってください。

【1】FDドライブにアップデートFD「アップデートファイル」を挿入してください。

【2】「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ツール」から、『D/Bアップデート』を選択すると「データベースアップデート」画面を表示します。



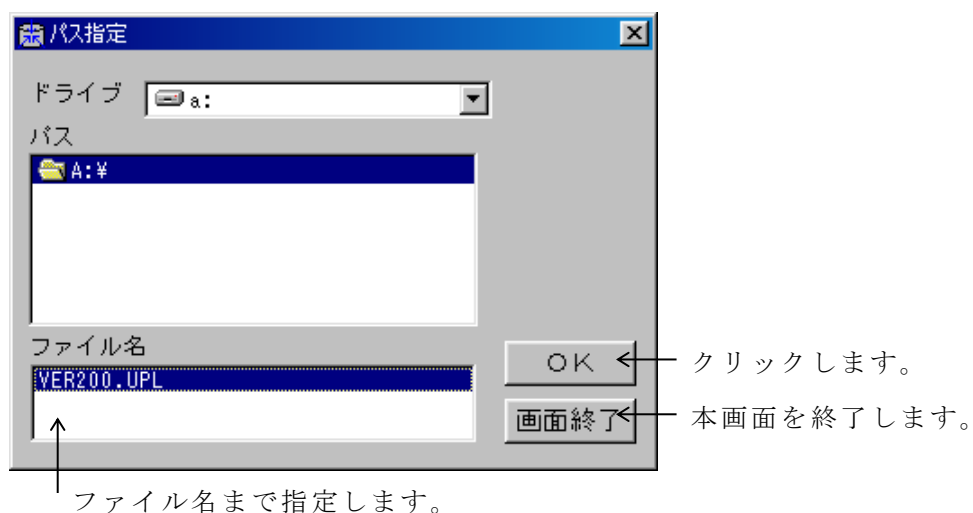
「パス指定」画面を表示します。

- 【3】データベースアップデートパスにアップデートファイルがあるパスを
ファイル名まで入力してください。

アップデートファイル名 : VER XXX. UPL

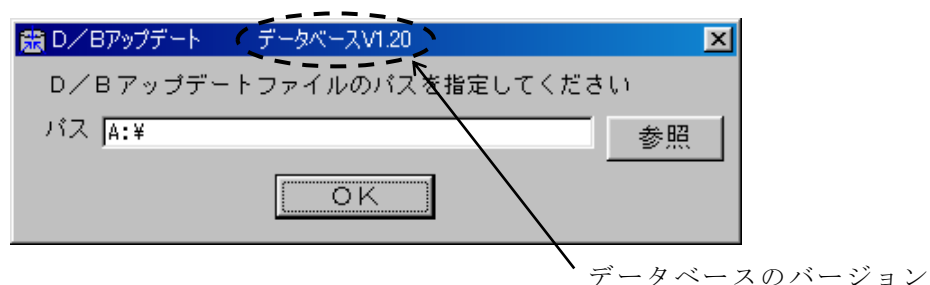
↑ アップデートファイルバージョンNo

- 【4】「データベースアップデート」画面の『参照』をクリックすると、
下記の「パス指定」画面が表示され、アップデートファイルのパス指定が
できます。ファイル名まで指定して『OK』をクリックしてください。



- 【5】「データベースアップデート」画面の『OK』をクリックすると
データベースアップデートを開始します。

- 【6】「データベースアップデート」画面のタイトルバーに表示されている
データベースのバージョンと、今回アップデートしたアップデート
ファイル（フロッピーディスクに記載）のバージョンが同じであることを
確認してください。



8-12. プログラムバージョンの確認

本プログラムのバージョンの確認をします。

「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ヘルプ」から、『バージョン情報』を指示すると、下記の画面を表示します。

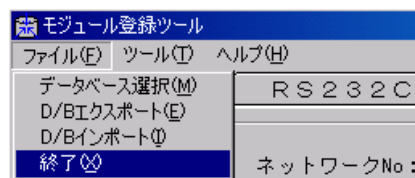


確認後、『OK』をクリックします。

8-13. プログラムの終了

本プログラムを終了します。

「モジュール登録」画面のプルダウンメニューの「ファイル」から、『終了』を指示します。



△注意

モジュール登録情報削除後のプログラム終了について

プログラムの終了動作を行った時に、蓄積設定ツール（WRS-PMS）、又はリアルタイムモニタ（WRS-MONH）設定情報の削除を促すメッセージが以下の場合において表示されます。

- ・ 92 ページのインターフェースモジュール（STH/SCH）の削除を行った時、蓄積設定ツール（WRS-PMS）、又はリアルタイムモニタ（WRS-MONH）の設定情報を残して削除した場合
- ・ 99 ページのジョイントモジュールの削除を行った時、蓄積設定ツール（WRS-PMS）、又はリアルタイムモニタ（WRS-MONH）の設定情報を残して削除した場合
蓄積設定ツール（WRS-PMS）の設定情報、又はリアルタイムモニタ（WRS-MONH）の設定情報を削除しても良い場合は『はい』を選択してください。

※モジュール交換の為に、蓄積設定ツール（WRS-PMS）、又はリアルタイムモニタ（WRS-MONH）の設定を残して登録情報を削除する場合は、登録情報の削除（92 ページ、又は99 ページを参照）を行った後、引き続き 同じネットワークNo・サブネットNo・モジュールNo・IPアドレス・モジュール名称 で交換を行うモジュールの登録を行ってください。

登録後にプログラムの終了を行います。この時、確認メッセージは表示されません。

8-14. エラーメッセージ

ーアルファベットー

○COMポートの変更は出来ません。

→仮登録時、同一ネットワークに1台以上COMポートを指定して仮登録を行う事は出来ません。

○D/Bアップデート失敗

→正常にアップデートファイルが読み込めないため、D/Bアップデートに失敗しました。

※フロッピーディスクを挿入し、再度行ってください。

D/Bアップデートできない場合、営業担当者までご連絡ください。

○D/Bアップデート中！

→モジュール登録情報のアップデートを実行中です。

○D/BアップデートをしますV×. ××からV○. ○○に変更します

→モジュール登録情報をアップデートします。

○D/Bインポート失敗

IPアドレスが重複しています (IPアドレス)

→IPアドレスが重複しているため、D/Bインポートに失敗しました。

※重複しているIPアドレスを変更してください。

サブネットNo/モジュールNoが重複しています (サブネットNo/ノードNo)

→アドレスが重複しているため、D/Bインポートに失敗しました。

※重複しているアドレスを変更してください。

ニューロンIDが重複しています (ニューロンID)

→ニューロンIDが重複しているため、D/Bインポートに失敗しました。

※重複しているニューロンIDのモジュールを削除してください。

モジュールNoが重複しています (モジュールNo)

→モジュールNoが重複しているため、D/Bインポートに失敗しました。

※重複しているモジュールNoを変更してください。

モジュール名称が重複しています (モジュール名称)

→モジュール名称が重複しているため、D/Bインポートに失敗しました。

※重複しているモジュール名称を変更してください。

○D／Bインポート終了

→D／Bインポートを終了しました。

○D／Bインポート中！

→D／Bインポート実行中です。

○D／Bエクスポート失敗

仮登録モジュールが存在します

→仮登録モジュールがあるため、D／Bエクスポートに失敗しました。

※仮登録モジュールを登録または、削除してください。

サブネットNoがないインターフェースモジュールがあります

→モジュール登録ツール（WRS-MRT）よりデータベースを継続した場合、インターフェースモジュールのサブネットNoが「0」になっているためD／Bエクスポートに失敗しました。

※サブネットNo「0」になっているインターフェースモジュールを再登録してください。

他のプログラムで使用されています

→モジュール登録情報が他のアプリケーションにより使用されています。

※他のアプリケーションで使用しているモジュール登録情報を終了してください。

○D／Bエクスポート終了

→D／Bエクスポートを終了しました。

○D／Bエクスポート中！

→D／Bエクスポート実行中です。

○D／Bがオープンできません

→D／B（モジュール登録情報）が壊れているか存在しません。

※データベース管理ツールよりMSDEを再インストールまたは、データベース登録または、MSDEを起動してください。

○D／B作成失敗

仮登録モジュールがあります

→仮登録モジュールがあるため、D／B変換（エクスポート）に失敗しました。

※仮登録モジュールを登録または、削除してください。

○D／B変換終了

→D／B変換を終了しました。

○D／B変換終了

変換に失敗しました

→登録されているモジュールがあるため、D／B変換（インポート）に失敗しました。

※モジュール登録情報を全て削除してください。

○D／B変換中！

→D／B変換実行中です。

○I／Fモジュールが登録されていません

→インターフェースモジュールが登録されていないため、モジュールが登録できません。

※はじめにインターフェースモジュールを登録してください。

○I／Fモジュール数制限エラー

→ネットワークにインターフェースモジュール9台以上登録しようとしています。

※ネットワークにインターフェースモジュール最大8台まで設定できます。

○I／Fモジュールです

→『モジュール登録』画面の『モジュール』のタブでは、

インターフェースモジュール、またはジョイントモジュール以外のモジュールを登録します。

※インターフェースモジュールは『SCH／STH』タブ、『LGL』タブ、

ジョイントモジュールは『WJM／WVM／WTM』タブ画面で登録してください。

○I／Fモジュールはネットワークに1台必要です

→ネットワーク内にインターフェースは1台必要です。

※ネットワーク内のモジュールを全て削除してから、削除、ネットワークNoの変更を行ってください。

○IPアドレスエラー

→範囲以外のIPアドレスを入力しました。

※IPアドレスを設定範囲内で入力してください。

○WANアドレスエラー

→範囲以外のIPアドレスを入力しました。

※IPアドレスを設定範囲内で入力してください。

○WRS－MRTのデータベースが存在します。

削除してよろしいですか？

→D／B作成エクスポートを行うパスにモジュール登録ツール（WRS－MRT）

で作成したモジュール登録情報が存在します。削除しますか？

※『はい』：本プログラムで作成したモジュール登録情報を上書きします。

『いいえ』：D／B作成エクスポートを行いません。

－ア行－

○アップデートファイルが見つかりません

→指定したパスにアップデートファイルが存在しません。

※アップデートファイルがあるパスを指定してください。

○アップデートファイルを選択して下さい

→データベースアップデートファイル名までを選択してください。

－カ行－

○仮登録完了

→モジュール仮登録が完了しました。

○検索後登録して下さい

→モジュールを検索せずに『登録』をクリックしても登録できません。

※モジュールを検索してから『登録』をクリックしてください。

○検索中！

サービスピンを押して下さい

→モジュールを検索しています。モジュール検索後、モジュール種別名とモジュールのニューロンIDを表示します。

○このモジュールは登録されています

変更しますか？

→登録したモジュールの内容を変更しようとしています。

※『はい』：モジュール登録情報を変更します。

『いいえ』：モジュール登録情報を変更しません。

○コメントエラー

， は使用できません

→コメントの入力に誤りがあるため登録できません。

※コメントを入力してください。

○これ以上登録できません

→1ネットワークに仮登録も含め、126台以上登録しようとしています。

または仮登録を含め1134台以上登録しようとしています。

※1ネットワークには最大126台のモジュールが設定できます。

※ネットワークには最大1134台のモジュールが設定できます。

－サ行－

○削除完了

→モジュール登録情報を削除しました。

○削除してよろしいですか？

→指定しているモジュール登録情報を削除してもいいですか？

※『はい』：モジュール登録情報を削除します。

『いいえ』：モジュール登録情報を削除しません。

○サブネットNoエラー

1～9で指定して下さい

→範囲以外のサブネットNoを入力しました。

※サブネットNoを範囲内（1～9）で入力してください。

○指定した接続方法では登録できません

→RS232C-LOnジョイントモジュール（WJM□-C）はLANケーブルでの接続は出来ません。

○指定のIPアドレスが重複しています

→指定したIPアドレスはすでに登録されています。

※重複しているIPアドレスを変更してください。

○指定のMACアドレスが重複しています

→現在指定しているモジュールはすでに登録されています。

○指定のインターフェースはジョイントモジュール未対応です

→指定したインターフェースモジュールはジョイントモジュールに対応していません。

※ジョイントモジュールに対応しているインターフェースモジュールを指定してください。

○指定のサブネットNo、モジュールNoは登録されています

→現在指定しているサブネットNo、モジュールNoはすでに登録されています。

※サブネットNo、モジュールNoを変更して登録してください。

○指定のニューロンIDは登録されています

→現在指定しているニューロンIDはすでに登録されています。

※登録しようとしているモジュールはすでに登録されています。

○指定のポートは使用できません

→指定したCOMポートは接続されていません。

※指定したCOMポートに接続してください。

○指定のモジュールは登録されている為、仮登録できません

→現在指定しているモジュールはすでに登録されています。

※本登録から、仮登録への変更は出来ません。

○指定のモジュールN o は登録されています

→現在指定しているモジュールN o はすでに登録されています。

※モジュールN o を変更して登録してください。

○指定のモジュール名称は登録されています

→現在指定しているモジュール名称はすでに登録されています。

※モジュール名称を変更して登録してください。

○指定のモジュールは登録されていません

→現在指定しているモジュールはまだ登録されていません。

※入力している時に『削除』をクリックしてもモジュール登録情報が登録されていないため削除できません。

○自動構築に失敗しました

パソコンモジュール間

→指定されたモジュールと通信異常が発生したため自動構築に失敗しました。

※R S 2 3 3 2 C ケーブル／L A N ケーブルの先にモジュールが接続されているか確認してください。

モジュール名称

→表示された名称のモジュールと通信できません。

※指定したモジュールがあるか、ネットワークがちゃんと接続されているか確認してください。

自動構築を継続しますか？

→上記の理由により自動構築に失敗した後、引き続き自動構築を行うか選択します。

※『はい』：引き続き自動構築の処理を行います。

『いいえ』：自動構築の処理を終了します。

○自動構築終了

→自動構築を終了しました。

○自動構築中！

[名称：ネットワークN o－サブネットN o／モジュールN o]

→自動構築実行中です。

○収集ソフト（W R S－V S S）が起動中です。

→収集ソフトを終了してから本プログラムを起動してください。

○ジョイントモジュール設定エラー

→登録時に、ジョイントモジュールの接続形態が正しくない時に表示します。

※登録内容を確認してから登録を行ってください。

○ジョイントモジュール対応 I / F がなくなるため削除できません

→下位のジョイントモジュールに対して、対応するインターフェースモジュールが 1 台しかない時に表示します。

※下位のジョイントモジュールを全て削除してから、インターフェースモジュールの削除を行ってください。

○ジョイントモジュール対応 I / F がなくなるため変更できません

→下位のジョイントモジュールに対して、対応するインターフェースモジュールが 1 台しかない時に表示します。

※下位のジョイントモジュールを全て削除してから、インターフェースモジュールの変更を行ってください。

○指定のMACアドレスは登録されています

→現在自動登録中のモジュールはすでに登録されています。

○接続方法が変更されています

→WTMをWANからIP、またはIPからWANに接続方法を変更した場合に表示されます。

○設定を有効にするには、本プログラムを再起動してください

→環境設定画面で設定した値を反映します。

ー タ 行 ー

○タイムアウトの指定が違います

45～180秒で指定して下さい

→範囲以外のタイムアウトを入力しました。

※タイムアウトを範囲内（45～180）で入力してください。

○ダイヤル中！

→モデム経由で I / F モジュールの登録情報を登録、変更、削除する場合に表示します。
モデムとの接続を実行中です。

※『キャンセル』：モデムへの接続を中止します

○蓄積情報も変更しますか？

→インターフェースモジュール（WRT-STH）またはジョイントモジュール（WJM□／WVM□）またはWTMを変更する時に、蓄積設定ツールで設定されている場合、蓄積設定情報も変更します。

※『はい』：蓄積設定情報も変更します。

『いいえ』：蓄積設定情報は変更しません。

○蓄積情報も削除しますか？

→インターフェースモジュール（WRT-STH）またはジョイントモジュール（WJM□／WVM□）またはWTMを削除する時に、蓄積設定ツールで設定されている場合、蓄積設定情報も削除します。

※『はい』：蓄積設定情報も削除します。

『いいえ』：蓄積設定情報は削除しません。

○蓄積設定ツール、またはリアルタイムモニタの設定情報が削除されていません
削除しますか？

→インターフェースモジュール（WRT-STH/WGW-LGL）、またはジョイントモジュール（WJM□/WVM□）またはWTMを削除後プログラムの終了を行った時、削除したモジュールの蓄積設定ツール設定情報とリアルタイムモニタ設定情報の削除を行い、プログラムを終了します。

※『はい』：蓄積設定ツール、リアルタイムモニタ設定情報の設定情報を削除します。削除後プログラムが終了します。

『いいえ』：蓄積設定ツール、リアルタイムモニタ設定情報の設定情報を削除しません。プログラムの終了は行いません。

○蓄積設定ツールで使用している場合、先に収集して下さい
削除しますか？

→インターフェースモジュール（WRT-STH/WGW-LGL）、またはジョイントモジュール（WJM□/WVM□）またはWTMを削除する場合、蓄積設定ツールで設定されている時、蓄積データが削除されてしまうため、削除する前にデータ収集を行ってください。

※『はい』：モジュール登録情報を削除します。

『いいえ』：モジュール登録情報を削除しません。

変更しますか？

→インターフェースモジュール（WRT-STH/WGW-LGL）、またはジョイントモジュール（WJM□/WVM□）またはWTMを変更する場合、蓄積設定ツールで設定されている時、蓄積データが削除されてしまうため、変更する前にデータ収集を行ってください。

※『はい』：モジュール登録情報を変更します。

『いいえ』：モジュール登録情報を変更しません。

○重複するネットワークのモジュールを削除します

ネットワークNo：○○

→D/Bインポート時、重複するネットワークNoの登録情報が存在しています。

※『はい』：重複するネットワークNoの登録情報を消してインポートします。

『いいえ』：重複するネットワークNoの登録情報をインポートしません。

○通信異常が発生しました

データベースから強制削除しますか？

→削除時に通信異常が発生したため、データベースからモジュール登録情報を強制削除しますか

パソコンーモジュール間

→指定されたモジュールと通信異常が発生しました。

※RS232Cケーブルのさきにモジュールが接続されているか確認してください。

モジュール名称

→指定されたモジュールと通信異常が発生しました。

※モジュールと接続されているか確認してください。

○通信先のモジュールはW A N登録未対応です。

→接続方法をI Pに変更してください。

○通信先はW J M / W V M / W T Mです

→『モジュール登録』画面の『モジュール』タブ、『S C H / S T H』タブ、
『L G L』タブからジョイントモジュールまたはW T Mを『検索』出来ません。

※『W J M / W V M / W T M』タブから『検索』を行ってください。

○通信先はW J Mです。形式選択をW J Mにしてください。

→通信先がW J Mなので形式選択をW J Mにしてください。

○通信先はW V Mです。形式選択をW V Mにしてください。

→通信先がW V Mなので形式選択をW V Mにしてください。

○通信先はW T Mです。形式選択をW T Mにしてください。

→通信先がW T Mなので形式選択をW T Mにしてください。

○通信先はW J M / W V M / W T Mではありません

→現在検索している、または自動構築しているモジュールはW J M、W V M、W T M
ではありません。

※W J M、W V M、W T Mを検索、または自動構築する接続形態に設置してください。

○通信中！

→指定したモジュールと通信しています。

※「キャンセル」をクリックすると、通信をキャンセルすることが出来ます。

○データベース・メンテツールツールが起動中です

本プログラムを終了します

→データベース管理ツールが起動中のため本プログラムが起動できません。

※データベース管理ツールを終了させてください。

○データベースを変換しますか？

A C C E S Sデータベースの登録情報は失われます

※『はい』 : データベースを変換します。

以前使用していたモジュール登録情報も移行されます。

『いいえ』 : データベースを変換しません。

M S D Eデータベースの登録情報は失われます

※『はい』 : データベースを変換します。

以前使用していたモジュール登録情報も移行されます。

『いいえ』 : データベースを変換しません。

○登録完了

→モジュール登録情報を登録しました。

○登録情報ファイル作成終了

→登録情報ファイル作成を終了しました。

○登録情報ファイル作成終了

登録情報ファイル作成失敗

→登録情報ファイルの作成に失敗しました。

○登録情報ファイル作成中！

→登録情報ファイル作成中です。

○登録情報ファイルを開くことができませんでした

→登録情報ファイルが他のアプリケーションにより使用されています。

※他のアプリケーションで使用されている登録情報ファイルを終了してください。

○同ネットワーク上にすでに1つ仮登録されています

→WRT-SCH/WRT-STH（インターフェースモジュール）が
仮登録されています。

※WRT-SCH/WRT-STHの仮登録は1台しかできません。

○ドライブの準備ができていません

→パス参照画面で準備のできていないドライブを参照しようとしてしました。

ーナ行ー

○ニューロンIDエラー

→範囲以外のニューロンIDを入力しました。

※ニューロンIDを半角12文字で入力してください。

○ネットワークNoエラー（1～300で指定して下さい）

→範囲以外のネットワークNoを入力しました。

※ネットワークNoを（1～300）の範囲で入力してください。

ーハ行ー

○パスの指定が正しくありません

ドライブの準備ができていません

→指定したドライブの準備ができていません。

パスが存在していません

→指定したパスが正しくありません。

※パスを変更してください。

ファイル名まで指定して下さい

→パスにファイル名まで指定してください。

○古いバージョンに書き換えようとしています

→現在使用しているデータベースより古いバージョンのデータベースを
アップデートしようとしています。

※『はい』：データベースアップデートを行います。

『いいえ』：データベースアップデートを行いません。

○プログラムを終了します

サーバー名称は次回起動時に有効になります

→本プログラムを終了します。

○ポートNoエラー

→WANのポートNoを入力してください。

—マ行—

○名称エラー

¥/:,;*?"<>| は使用できません

→モジュール名称を入力していないため、登録できません。

※モジュール名称を入力してください。

○名称、コメントのみ変更します

→モジュール名称／コメントのみ変更できます。

○モジュールNoエラー

1～126で指定して下さい

→範囲以外のモジュールNoを入力しました。

※モジュールNoを範囲内で入力してください。

○モジュールは認識できません

→指定したモジュールは認識されません。

※データベースアップデート操作を行ってください。

○モジュール内のアドレスを上書きしますか？

現在のモジュールアドレス設定S／Nをs／nに変更します

→指定したモジュール内にアドレス（S／N）が設定されていますが、
（S／N）に変更しますか？

○モジュール内のアドレスを削除しますか？

→指定したモジュール内のアドレス（サブネットNo／モジュールNo）を
削除しますか？

○モジュール本体の設定と一致しません

サブネットNoが〇〇となっています

→指定したモジュールのディップスイッチと入力したサブネットNo／
モジュールNoが一致しません。

※モジュールのディップスイッチか入力するサブネットNo／モジュールNoを
変更し、一致させてください。

○モジュール内の蓄積情報を削除しますか？

→指定したモジュール内の、蓄積設定ツールで設定した情報を削除します。

※『はい』：蓄積設定ツールで設定したモジュール内の設定情報も削除します。

『いいえ』：蓄積設定ツールで設定したモジュール内の設定情報は削除しません。

○モジュール内の蓄積情報を変更しますか？

→指定したモジュール内の、蓄積設定ツールで設定した情報と異なる場合に変更します。

※『はい』：蓄積設定ツールで設定したモジュール内の設定情報も変更します。

『いいえ』：蓄積設定ツールで設定したモジュール内の設定情報は変更しません。

○モジュールは登録しようとしたモジュールではありません

→モジュールを登録している時に表示します。

ーラ行ー

○リトライの指定が違います

0～5回で指定して下さい

→→範囲以外のリトライ回数を入力しました。

※リトライ回数を範囲内（0～5）で入力してください。

付録 1. D/BエクスポートとD/Bインポート

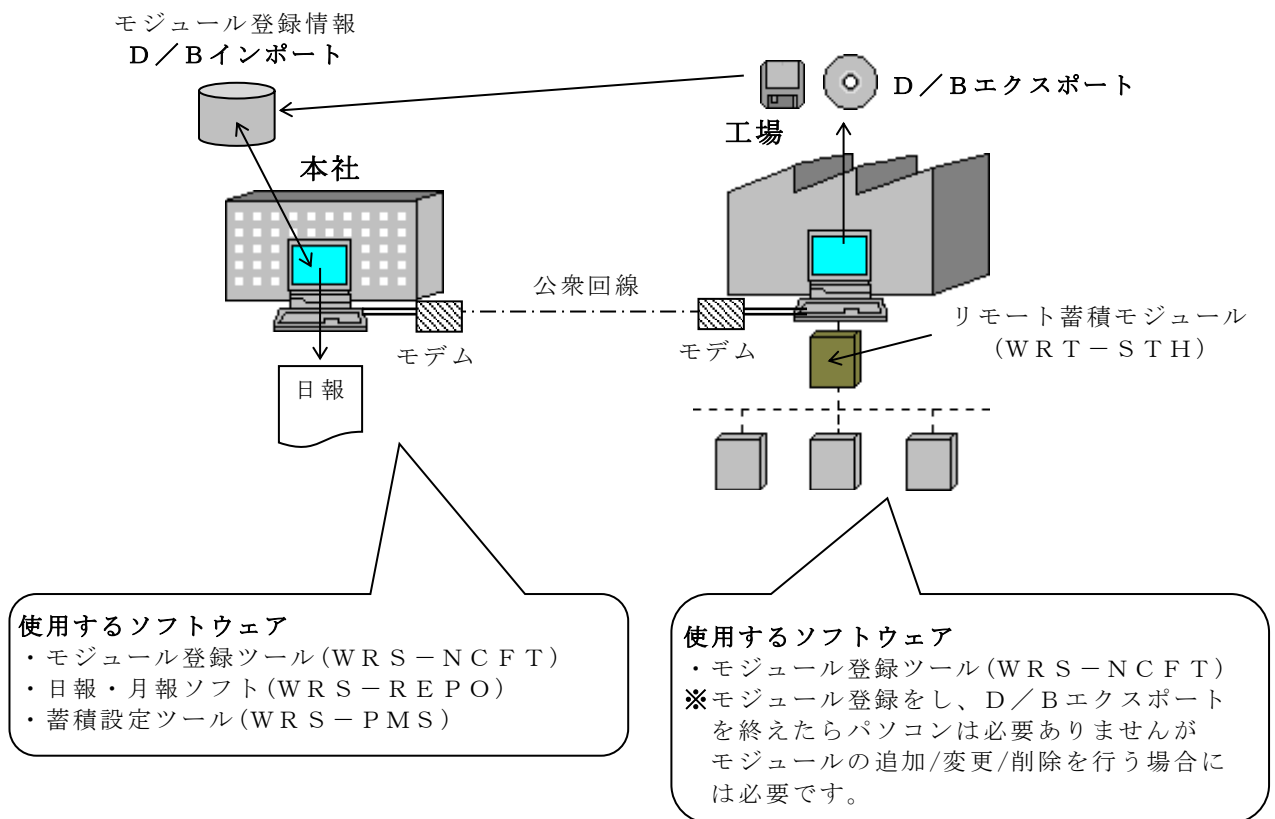
D/Bエクスポート/D/Bインポートは下記のように使用する時にを行います。

公衆回線を利用して蓄積モジュール（WRT-STH）のデータを収集する時に
行います。

例）本社より工場のモジュールのデータを収集している場合。

本社は蓄積設定ツール（WRS-PMS）を使用し、公衆回線経由で工場の
モジュールデータを収集し、日報・月報ソフト（WRS-REPO）で、
収集したデータの日報を表示している。

【イメージ構造図】



【設定】

手順 1 工場でモジュール登録を行います。

手順 2 工場でモジュール登録を終えたら、D／Bエクスポートをし、モジュール登録情報をフロッピーディスクまたは、CD－ROMにコピーします。D／Bエクスポートしたフロッピーディスクまたは、CD－ROMを、本社に送ります。

工場は、パソコンと蓄積モジュール（WRT－STH）を接続していたRS232CクロスケーブルをRS232Cストレートケーブルに変更し、リモート蓄積設定された蓄積モジュール（WRT－STH）とモデムを接続します。

蓄積モジュール（WRT－STH）のディップスイッチをモデム使用モードにし、リセットします。

なお、工場ではモジュール登録をし、D／Bエクスポートを終えたらパソコンは必要ありません。

※ディップスイッチの詳細については、蓄積モジュール（WRT－STH）の取扱説明書を参照してください。

手順 3 本社は、工場より送られてきたフロッピーディスクまたは、CD－ROMのデータをD／Bインポートします。

工場のモジュール登録情報は、本社のモジュール登録情報に追加されます。

手順 4 本社は、蓄積設定ツール（WRS－PMS）で、工場のモジュールデータを収集し、日報・月報ソフト（WRS－REPO）で、日報／月報を表示します。

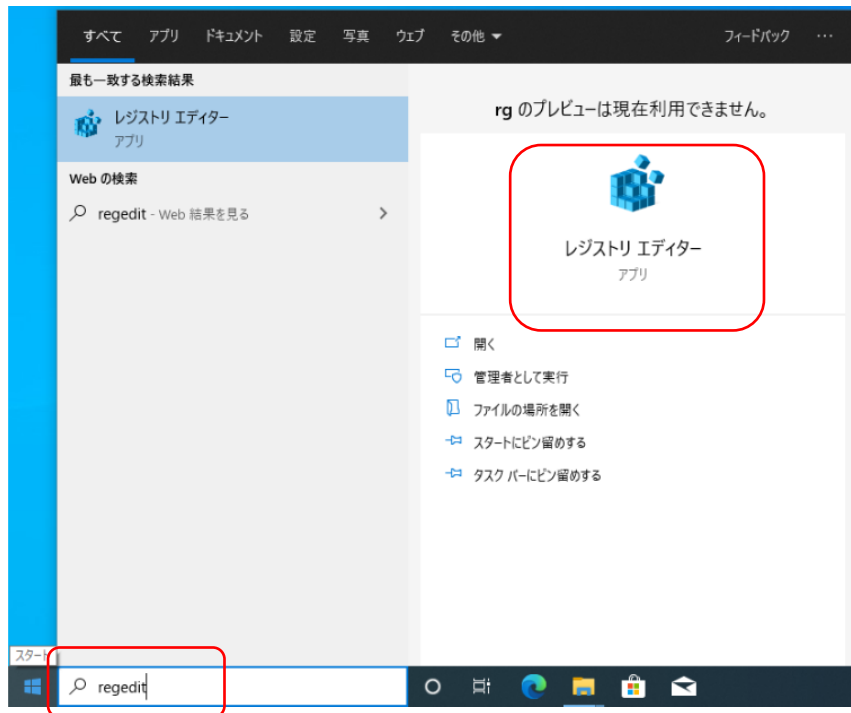
※蓄積設定ツール（WRS－PMS）、日報・月報ソフト（WRS－REPO）については、各ソフトの取扱説明書を参照してください。

付録 2. Windows10 ご使用中の起動失敗について

Windows10 をご使用中でプログラムの起動に失敗する場合、下記設定値をご確認下さい。

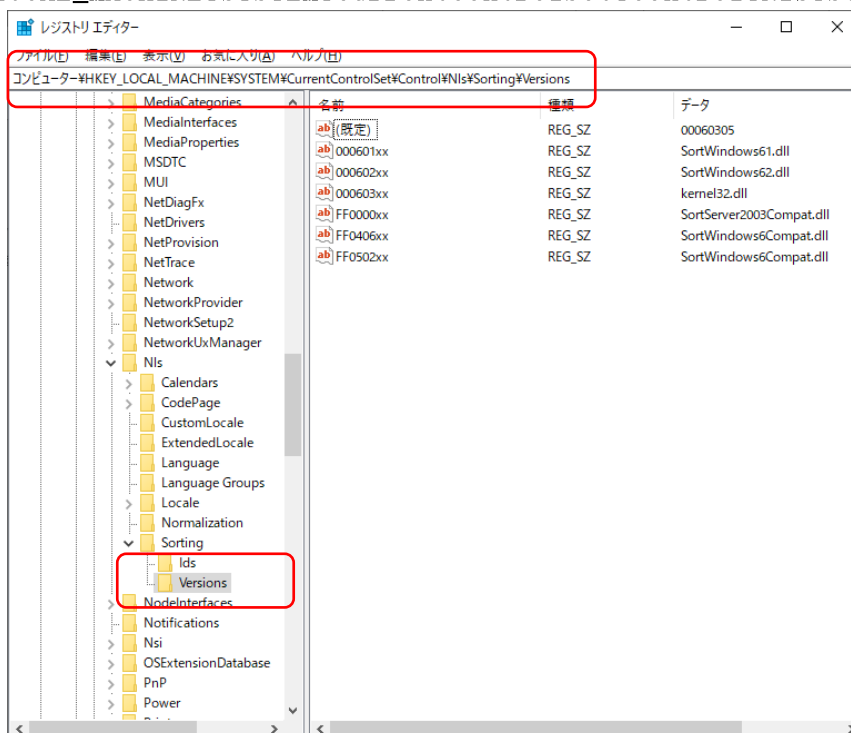
スタートメニュー横の検索バーをクリックし「regedit」と入力します。

表示される「レジストリ エディター」をクリックします。



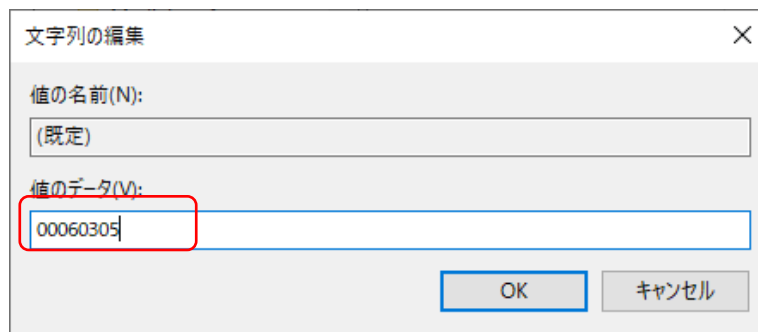
表示されたレジストリエディター画面で、下記階層まで移動します。

「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Nls\Sorting\Versions」



画面右側の「(既定)」をダブルクリックします。

「値のデータ」テキスト欄に表示された値が「00060305」となっている場合、
「0006020f」に変更し、「OK」をクリックします。

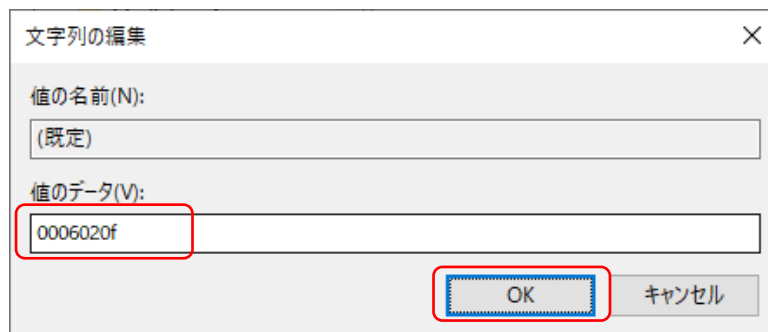


文字列の編集

値の名前(N):
(既定)

値のデータ(V):
00060305

OK キャンセル



文字列の編集

値の名前(N):
(既定)

値のデータ(V):
0006020f

OK キャンセル

渡辺電機工業株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6 丁目 16 番地 19 号

電話 03(3400)6141(代表) FAX 03(3409)3156

ホームページ <http://www.watanabe-electric.co.jp>

(JR 原宿駅 / 東京メトロ千代田線明治神宮前駅下車)